
大里郡川本町

如意Ⅲ／川端

大里農地防災事業六堰頭首工建設工事事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告書

—Ⅱ—

〈第2分冊〉

2002

農林水産省 関東農政局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

〈第1分冊〉

口絵

発刊に寄せて

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	5
II 遺跡の立地と環境	7
III 如意遺跡の調査	11
1. 遺跡の概要	11
2. C区の遺構と遺物	16
(1) 住居跡	16
(2) 掘立柱建物跡	141
(3) 土坑	149
(4) 溝跡	164
(5) 性格不明遺構	165
(6) ピット	169
(7) グリッド出土・表採遺物	171

〈第2分冊〉

3. D区の遺構と遺物	173
(1) 住居跡	174
(2) 掘立柱建物跡	291
(3) 土坑	300
(4) 性格不明遺構	318
(5) 炉跡	318
(6) 中・近世墓	318
(7) ピット	321
(8) グリッド出土・表採遺物	323
IV 川端遺跡の調査	329
1. 遺跡の概要	329
2. 遺構と遺物	332
(1) 住居跡	332
(2) 土坑	347
(3) 溝跡	350
(4) グリッド出土・表採遺物	350

〈第3分冊〉

写真図版

挿 図 目 次

第 1 図	調査区と調査年度	3	第 36 図	第157・158号住居跡・出土遺物	46
第 2 図	埼玉県 の 地形	7	第 37 図	第159号住居跡・出土遺物	47
第 3 図	周辺 の 遺跡	8	第 38 図	第160号住居跡	48
第 4 図	調査区周辺 の 地形図	12・13	第 39 図	第160号住居跡出土遺物	49
第 5 図	調査区全測図	14・15	第 40 図	第161号住居跡・出土遺物	51
第 6 図	第118・132・136号住居跡出土遺物	16	第 41 図	第163号住居跡・出土遺物	52
第 7 図	第105号住居跡・出土遺物	17	第 42 図	第164号住居跡	53
第 8 図	第106号住居跡・出土遺物	17	第 43 図	第164号住居跡出土遺物(1)	54
第 9 図	第107号住居跡・出土遺物	18	第 44 図	第164号住居跡出土遺物(2)	55
第 10 図	第108・162号住居跡	19	第 45 図	第165号住居跡・出土遺物	56
第 11 図	第108・162号住居跡出土遺物	20	第 46 図	第166号住居跡・出土遺物	58
第 12 図	第109号住居跡	21	第 47 図	第167号住居跡・出土遺物	59
第 13 図	第109号住居跡出土遺物	22	第 48 図	第168号住居跡	60
第 14 図	第110号住居跡・出土遺物	23	第 49 図	第168号住居跡出土遺物	61
第 15 図	第119号住居跡・出土遺物	24	第 50 図	第169・404号住居跡	63
第 16 図	第120号住居跡	25	第 51 図	第169号住居跡出土遺物	64
第 17 図	第120号住居跡出土遺物	26	第 52 図	第170号住居跡・出土遺物	65
第 18 図	第121号住居跡・出土遺物	28	第 53 図	第171号住居跡・出土遺物	66
第 19 図	第122号住居跡	29	第 54 図	第172号住居跡・出土遺物	67
第 20 図	第122号住居跡出土遺物	30	第 55 図	第173号住居跡	68
第 21 図	第123号住居跡	31	第 56 図	第173号住居跡出土遺物	69
第 22 図	第123号住居跡出土遺物(1)	32	第 57 図	第174号住居跡・出土遺物	70
第 23 図	第123号住居跡出土遺物(2)	33	第 58 図	第175号住居跡	71
第 24 図	第124号住居跡	34	第 59 図	第175号住居跡出土遺物	72
第 25 図	第124号住居跡出土遺物(1)	35	第 60 図	第176号住居跡	73
第 26 図	第124号住居跡出土遺物(2)	36	第 61 図	第177号住居跡	73
第 27 図	第126号住居跡	37	第 62 図	第177号住居跡出土遺物	74
第 28 図	第130・134号住居跡	38	第 63 図	第178号住居跡	75
第 29 図	第130号住居跡出土遺物	39	第 64 図	第178号住居跡貯蔵穴	76
第 30 図	第131号住居跡	39	第 65 図	第178号住居跡出土遺物(1)	77
第 31 図	第135号住居跡・出土遺物	41	第 66 図	第178号住居跡出土遺物(2)	78
第 32 図	第154号住居跡	42	第 67 図	第179号住居跡・出土遺物	79
第 33 図	第154号住居跡出土遺物	43	第 68 図	第183号住居跡・出土遺物	80
第 34 図	第155号住居跡	44	第 69 図	第184号住居跡	81
第 35 図	第156号住居跡・出土遺物	45	第 70 図	第184号住居跡出土遺物	82

第 71 图	第185号住居跡	83
第 72 图	第186号住居跡	84
第 73 图	第186号住居跡出土遺物(1)	85
第 74 图	第186号住居跡出土遺物(2)	86
第 75 图	第187号住居跡	86
第 76 图	第188号住居跡・出土遺物	87
第 77 图	第189号住居跡	88
第 78 图	第189号住居跡出土遺物	89
第 79 图	第190号住居跡・出土遺物	90
第 80 图	第191・192号住居跡・出土遺物	91
第 81 图	第193号住居跡・出土遺物	93
第 82 图	第194号住居跡	94
第 83 图	第194号住居跡出土遺物(1)	95
第 84 图	第194号住居跡出土遺物(2)	96
第 85 图	第195・196号住居跡	97
第 86 图	第197号住居跡・出土遺物	98
第 87 图	第198・199号住居跡・出土遺物	99
第 88 图	第200号住居跡	100
第 89 图	第200号住居跡出土遺物(1)	101
第 90 图	第200号住居跡出土遺物(2)	102
第 91 图	第201号住居跡・出土遺物	104
第 92 图	第202号住居跡	104
第 93 图	第203号住居跡	105
第 94 图	第204号住居跡・出土遺物	106
第 95 图	第205号住居跡	107
第 96 图	第205号住居跡・出土遺物	108
第 97 图	第206号住居跡	109
第 98 图	第206号住居跡出土遺物	110
第 99 图	第207・208号住居跡・出土遺物	111
第100图	第209号住居跡・出土遺物	112
第101图	第210号住居跡	113
第102图	第210号住居跡出土遺物	114
第103图	第211号住居跡	115
第104图	第211号住居跡出土遺物	116
第105图	第212号住居跡	117
第106图	第213号住居跡・出土遺物	118
第107图	第214号住居跡・出土遺物	119

第108图	第215号住居跡・出土遺物	120
第109图	第216号住居跡・出土遺物	122
第110图	第217号住居跡	123
第111图	第217号住居跡出土遺物	124
第112图	第218号住居跡	125
第113图	第218号住居跡出土遺物	126
第114图	第219号住居跡・出土遺物	127
第115图	第220号住居跡・出土遺物	128
第116图	第221・226号住居跡	129
第117图	第221号住居跡出土遺物	130
第118图	第222号住居跡・出土遺物	131
第119图	第221・222号住居跡出土遺物	132
第120图	第223号住居跡	133
第121图	第223号住居跡出土遺物	134
第122图	第224・225号住居跡	135
第123图	第224号住居跡出土遺物(1)	136
第124图	第224号住居跡出土遺物(2)	137
第125图	第224号住居跡出土遺物(3)	138
第126图	第228号住居跡・出土遺物	139
第127图	第366号住居跡・出土遺物	140
第128图	第1号掘立柱建物跡	142
第129图	第1号掘立柱建物跡・出土遺物	143
第130图	第2号掘立柱建物跡	144
第131图	第2号掘立柱建物跡出土遺物	145
第132图	第3号掘立柱建物跡・出土遺物	146
第133图	第4号掘立柱建物跡	147
第134图	第12号掘立柱建物跡・出土遺物	148
第135图	第71~75号土坑	150
第136图	第73~75号土坑出土遺物	151
第137图	第76・77・79・80号土坑	153
第138图	第76・77・79・80号土坑出土遺物	154
第139图	第81~87号土坑	156
第140图	第96~101号土坑	157
第141图	第102~107号土坑	158
第142图	第99・104~106号土坑出土遺物	159
第143图	第108~113号土坑	161
第144图	第111・112号土坑・出土遺物	162

第145図	第218号土坑	163	第182図	第242号住居跡出土遺物(1)	201
第146図	第3号溝跡・出土遺物	164	第183図	第242号住居跡出土遺物(2)	202
第147図	第12号性格不明遺構・出土遺物	165	第184図	第243号住居跡・出土遺物	203
第148図	第13号性格不明遺構・出土遺物	166	第185図	第244号住居跡	204
第149図	第13号性格不明遺構出土遺物	167	第186図	第244号住居跡出土遺物(1)	205
第150図	第18号性格不明遺構	168	第187図	第244号住居跡出土遺物(2)	206
第151図	第19号性格不明遺構・出土遺物	168	第188図	第245号住居跡	207
第152図	第20号性格不明遺構・出土遺物	169	第189図	第245号住居跡出土遺物	208
第153図	ピット・出土遺物	170	第190図	第246号住居跡	209
第154図	グリッド出土遺物	172	第191図	第246号住居跡出土遺物	210
第155図	如意遺跡D区全測図	173	第192図	第247号住居跡・出土遺物	211
第156図	第227号住居跡	174	第193図	第248号住居跡	211
第157図	第227号住居跡出土遺物	175	第194図	第248号住居跡出土遺物	212
第158図	第229～233号住居跡(1)	176	第195図	第249号住居跡	214
第159図	第229～233号住居跡(2)	177	第196図	第249号住居跡出土遺物	214
第160図	第229号住居跡出土遺物(1)	177	第197図	第250号住居跡出土遺物	215
第161図	第229号住居跡出土遺物(2)	178	第198図	第250・251号住居跡	216
第162図	第230号住居跡出土遺物	180	第199図	第251号住居跡出土遺物	217
第163図	第231・233号住居跡出土遺物	180	第200図	第252号住居跡出土遺物	218
第164図	第234～238号住居跡(1)	182	第201図	第252・253号住居跡	219
第165図	第234～238号住居跡(2)	183	第202図	第254・255号住居跡・出土遺物	221
第166図	第234号住居跡遺物出土状況	184	第203図	第255号住居跡出土遺物	222
第167図	第234号住居跡出土遺物(1)	185	第204図	第256号住居跡	224
第168図	第234号住居跡出土遺物(2)	186	第205図	第256号住居跡出土遺物	225
第169図	第234号住居跡出土遺物(3)	188	第206図	第361号住居跡	226
第170図	第234号住居跡出土遺物(4)	189	第207図	第361号住居跡出土遺物(1)	227
第171図	第234号住居跡出土遺物(5)	191	第208図	第361号住居跡出土遺物(2)	228
第172図	第234号住居跡出土遺物(6)	192	第209図	第361号住居跡出土遺物(3)	229
第173図	第234号住居跡出土遺物(7)	193	第210図	第362号住居跡	230
第174図	第234号住居跡出土遺物(8)	194	第211図	第362号住居跡出土遺物	231
第175図	第234号住居跡出土遺物(9)	195	第212図	第363・364・368号住居跡	232
第176図	第239・240号住居跡	197	第213図	第363・364・368号住居跡出土遺物	233
第177図	第239号住居跡出土遺物	197	第214図	第365号住居跡	234
第178図	第240号住居跡出土遺物	198	第215図	第365号住居跡出土遺物	234
第179図	第241号住居跡	199	第216図	第367号住居跡(1)	235
第180図	第241号住居跡出土遺物	199	第217図	第367号住居跡(2)	236
第181図	第242号住居跡	200	第218図	第367号住居跡出土遺物	237

第219图	第369号住居跡	238	第256图	第386号住居跡出土遺物(2)	275
第220图	第369号住居跡出土遺物	239	第257图	第394号住居跡	277
第221图	第370号住居跡	241	第258图	第394号住居跡出土遺物	277
第222图	第370号住居跡出土遺物	242	第259图	第395号住居跡	278
第223图	第371号住居跡	244	第260图	第395号住居跡出土遺物	279
第224图	第371号住居跡出土遺物	245	第261图	第397・398号住居跡	279
第225图	第372号住居跡	247	第262图	第397号住居跡出土遺物	280
第226图	第372号住居跡出土遺物	248	第263图	第398号住居跡出土遺物	280
第227图	第373号住居跡出土遺物	249	第264图	第403号住居跡・出土遺物	281
第228图	第373・393・545号住居跡(1)	250	第265图	第405号住居跡	282
第229图	第373・393・545号住居跡(2)	251	第266图	第405号住居跡出土遺物	282
第230图	第393号住居跡出土遺物	251	第267图	第541号住居跡	283
第231图	第545号住居跡出土遺物	252	第268图	第541号住居跡出土遺物	284
第232图	第374号住居跡出土遺物(1)	253	第269图	第547号住居跡出土遺物	284
第233图	第374号住居跡(1)	254	第270图	第547号住居跡	285
第234图	第374号住居跡(2)	255	第271图	第549号住居跡	286
第235图	第374号住居跡出土遺物(2)	256	第272图	第549号住居跡出土遺物	287
第236图	第375号住居跡	258	第273图	第550号住居跡	287
第237图	第375号住居跡出土遺物	259	第274图	第550号住居跡出土遺物(1)	288
第238图	第376号住居跡・出土遺物	260	第275图	第550号住居跡出土遺物(2)	289
第239图	第377号住居跡	261	第276图	第551号住居跡・出土遺物	290
第240图	第377号住居跡出土遺物	261	第277图	第5号掘立柱建物跡	291
第241图	第378号住居跡	262	第278图	第6号掘立柱建物跡(1)・出土遺物	292
第242图	第379・388号住居跡・出土遺物	263	第279图	第6号掘立柱建物跡(2)	293
第243图	第380号住居跡	264	第280图	第7号掘立柱建物跡	294
第244图	第380号住居跡出土遺物	264	第281图	第8号掘立柱建物跡・出土遺物	295
第245图	第381号住居跡・出土遺物	265	第282图	第9号掘立柱建物跡・出土遺物	296
第246图	第382号住居跡	266	第283图	第10号掘立柱建物跡・出土遺物	298
第247图	第382号住居跡出土遺物(1)	267	第284图	第11号掘立柱建物跡	299
第248图	第382号住居跡出土遺物(2)	268	第285图	土坑(1)	301
第249图	第383号住居跡出土遺物	268	第286图	土坑(2)	302
第250图	第383号住居跡	269	第287图	土坑(3)	305
第251图	第384号住居跡	270	第288图	土坑(4)	306
第252图	第384号住居跡出土遺物	271	第289图	土坑(5)	308
第253图	第385・387号住居跡・出土遺物	272	第290图	土坑(6)	311
第254图	第386号住居跡	273	第291图	土坑出土遺物(1)	313
第255图	第386号住居跡出土遺物(1)	274	第292图	土坑出土遺物(2)	314

第293図	土坑出土遺物(3)	315	第312図	第3号住居跡	334
第294図	土坑出土遺物(4)	316	第313図	第3号住居跡出土遺物	335
第295図	土坑出土遺物(5)	317	第314図	第4号住居跡	335
第296図	第21号性格不明遺構	318	第315図	第4号住居跡出土遺物	336
第297図	第2・3号炉跡	319	第316図	第5号住居跡	336
第298図	第1号墓壙・出土遺物	319	第317図	第6号住居跡	337
第299図	近世墓壙出土遺物	320	第318図	第6号住居跡出土遺物	338
第300図	グリッドピット・出土遺物	321	第319図	第7号住居跡・出土遺物	339
第301図	グリッド出土遺物(1)	322	第320図	第8・9号住居跡	340
第302図	グリッド出土遺物(2)	323	第321図	第8号住居跡出土遺物	341
第303図	表採遺物	324	第322図	第9号住居跡出土遺物	341
第304図	縄文時代の遺物(1)	326	第323図	第10号住居跡	342
第305図	縄文時代の遺物(2)	327	第324図	第10号住居跡出土遺物	343
第306図	縄文時代の遺物(3)	328	第325図	第11号住居跡	345
川端遺跡			第326図	第11号住居跡出土遺物	346
第307図	周辺の地形図	330	第327図	第12号住居跡・出土遺物	347
第308図	川端遺跡全測図	331	第328図	土坑(1)	348
第309図	第1号住居跡	332	第329図	土坑(2)・出土遺物	349
第310図	第1号住居跡出土遺物	333	第330図	第1号溝跡	351
第311図	第2号住居跡・出土遺物	333	第331図	縄文時代の遺物	352

図版目次

図版 1	如意遺跡C区南部 如意遺跡D区北部	第178号住居跡 第178号住居跡カマド周辺遺物出土状況
図版 2	第105号住居跡 第106号住居跡 第107号住居跡	図版18 第179号住居跡 第183号住居跡 第184号住居跡遺物出土状況
図版 3	第108号住居跡 第109号住居跡 第110号住居跡	図版19 第184号住居跡 第185号住居跡 第186号住居跡
図版 4	第119号住居跡カマド遺物出土状況 第119号住居跡 第120号住居跡	図版20 第186号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第187号住居跡 第188号住居跡
図版 5	第122号住居跡 第123号住居跡 第124号住居跡	図版21 第189号住居跡 第189号住居跡カマド遺物出土状況 第189号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
図版 6	第126・131号住居跡 第130・134号住居跡 第154号住居跡P 2 遺物出土状況	図版22 第190号住居跡 第191号住居跡 第194号住居跡遺物出土状況
図版 7	第155号住居跡 第156号住居跡 第157号住居跡	図版23 第194号住居跡 第194号住居跡カマド 第195・196号住居跡
図版 8	第158号住居跡 第158号住居跡カマド 第159号住居跡	図版24 第197・202号住居跡 第198号住居跡 第199号住居跡カマド
図版 9	第160号住居跡 第160号住居跡カマド 第161号住居跡	図版25 第200号住居跡遺物出土状況 第200号住居跡カマド遺物出土状況 第200号住居跡
図版10	第163号住居跡 第164号住居跡遺物出土状況 第164号住居跡カマド遺物出土状況	図版26 第201号住居跡 第203号住居跡 第204号住居跡
図版11	第164号住居跡ピット遺物出土状況 第164・173号住居跡 第165号住居跡	図版27 第204号住居跡P 1 紡錘車出土状況 第205号住居跡 第205号住居跡カマド遺物出土状況
図版12	第166号住居跡 第167・168号住居跡 第168号住居跡カマド	図版28 第206号住居跡 第207・208号住居跡 第209号住居跡
図版13	第169号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第169号住居跡カマド 第169号住居跡	図版29 第210号住居跡 第211号住居跡 第211号住居跡カマド遺物出土状況
図版14	第170号住居跡 第171号住居跡 第171号住居跡カマド	図版30 第205・206・212号住居跡 第213号住居跡 第214号住居跡
図版15	第172号住居跡 第174号住居跡 第175号住居跡	図版31 第215号住居跡 第215号住居跡カマド 第216号住居跡
図版16	第175号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第177号住居跡 第177号住居跡カマド遺物出土状況	図版32 第217号住居跡 第218号住居跡 第219号住居跡
図版17	第177号住居跡カマド	

図版33	第220号住居跡 第221・222・226号住居跡 第223号住居跡貯蔵穴遺物出土状況		第246・247号住居跡 第246号住居跡カマド遺物出土状況
図版34	第223号住居跡 第224号住居跡カマド遺物出土状況 第224・225号住居跡	図版50	第244・245・248号住居跡 第249号住居跡・第120号土坑 第249号住居跡カマド
図版35	第366号住居跡 第1号掘立柱建物跡 第2号掘立柱建物跡	図版51	第249号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第250号住居跡 第250号住居跡カマド
図版36	第3号掘立柱建物跡 第4号掘立柱建物跡 第12号掘立柱建物跡	図版52	第251号住居跡 第251号住居跡カマド遺物出土状況 第252号住居跡
図版37	第76号土坑 第77号土坑 第97号土坑		
図版38	第99号土坑 第103号土坑 第104号土坑	図版53	第252号住居跡カマドA 第252号住居跡カマドB 第252・253・254・255号住居跡
図版39	第106号土坑 第107号土坑 第108号土坑		
図版40	第109号土坑 第111号土坑 第112号土坑	図版54	第255号住居跡カマド 第361・380号住居跡 第361号住居跡カマド遺物出土状況
図版41	第3号溝 第18号性格不明遺構 H-19グリッドピット1		
図版42	第227号住居跡 第229・230・231・232・233号住居跡 第229号住居跡カマド	図版55	第361・362号住居跡 第362号住居跡カマド 第363・364・368号住居跡
図版43	第234・235・236・237・238号住居跡 第234号住居跡遺物出土状況 第234号住居跡カマド	図版56	第365号住居跡 第365号住居跡カマド遺物出土状況 第367号住居跡遺物出土状況
図版44	第234号住居跡カマド遺物出土状況 第234号住居跡南東部遺物出土状況 第234号住居跡南東部遺物出土状況	図版57	第367号住居跡カマド 第369号住居跡遺物出土状況 第369号住居跡カマド
図版45	第239・240号住居跡 第239号住居跡カマド 第240号住居跡カマド	図版58	第369号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第370号住居跡 第371号住居跡
図版46	第241号住居跡遺物出土状況 第241号住居跡遺物出土状況 第242号住居跡・第116号土坑	図版59	第371号住居跡カマド 第372号住居跡 第372号住居跡カマド
図版47	第242号住居跡カマド遺物出土状況 第243号住居跡・第115号土坑 第243号住居跡カマド	図版60	第372号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第374号住居跡 第374号住居跡カマド
図版48	第244号住居跡 第244号住居跡カマド遺物出土状況 第245号住居跡	図版61	第375号住居跡遺物出土状況 第371・377号住居跡 第377号住居跡カマド
図版49	第245号住居跡カマド	図版62	第367・378号住居跡カマド 第379号住居跡 第379号住居跡カマド
		図版63	第361・380号住居跡 第366・381号住居跡

	第382号住居跡遺物出土状況		第122号住居跡出土遺物
図版64	第383号住居跡 第384号住居跡	図版81	第122号住居跡出土遺物
	第384号住居跡カマド遺物出土状況		第123号住居跡出土遺物
図版65	第385・387号住居跡 第386号住居跡		第124号住居跡出土遺物
	第388号住居跡		第154号住居跡出土遺物
図版66	第388号住居跡カマド		第156号住居跡出土遺物
	第393・394号住居跡		第160号住居跡出土遺物
	第394号住居跡カマド		第161号住居跡出土遺物
図版67	第395号住居跡 第397・398号住居跡		第164号住居跡出土遺物
	第405号住居跡	図版82	第164号住居跡出土遺物
図版68	第541号住居跡 第541号住居跡カマド		第166号住居跡出土遺物
	第550号住居跡カマド遺物出土状況		第168号住居跡出土遺物
図版69	第550号住居跡貯蔵穴遺物出土状況		第169号住居跡出土遺物
	第551号住居跡 第5号掘立柱建物跡		第171号住居跡出土遺物
図版70	第6号掘立柱建物跡 第7号掘立柱建物跡		第172号住居跡出土遺物
	第8号掘立柱建物跡		第173号住居跡出土遺物
図版71	第9号掘立柱建物跡 第10号掘立柱建物跡		第175号住居跡出土遺物
	第11号掘立柱建物跡	図版83	第175号住居跡出土遺物
図版72	第114号土坑 第121号土坑 第122号土坑		第178号住居跡出土遺物
図版73	第124号土坑 第125号土坑		第184号住居跡出土遺物
	第127号土坑遺物出土状況		第186号住居跡出土遺物
図版74	第129号土坑 第130号土坑 第131号土坑	図版84	第188号住居跡出土遺物
図版75	第132号土坑 第135号土坑遺物出土状況	図版85	第189号住居跡出土遺物
	第136号土坑		第194号住居跡出土遺物
図版76	第140号土坑 第141号土坑 第142号土坑	図版86	第194号住居跡出土遺物
図版77	第143号土坑 第145号土坑		第205号住居跡出土遺物
	第213号土坑遺物出土状況		第206号住居跡出土遺物
図版78	第219号土坑遺物出土状況（上層）		第207号住居跡出土遺物
	第219号土坑遺物出土状況（下層）		第217号住居跡出土遺物
	第220号土坑遺物出土状況		第218号住居跡出土遺物
図版79	第1号墓壇人骨出土状況 第2号炉跡	図版87	第219号住居跡出土遺物
	第2号炉跡断面		第220号住居跡出土遺物
図版80	第136号住居跡出土遺物		第221号住居跡出土遺物
	第108号住居跡出土遺物		第221・222号住居跡出土遺物
	第109号住居跡出土遺物		第224号住居跡出土遺物
	第110号住居跡出土遺物	図版88	第224号住居跡出土遺物
	第120号住居跡出土遺物		第228号住居跡出土遺物

	第229号住居跡出土遺物		第3号掘立柱建物跡出土遺物
	第230号住居跡出土遺物		第75号土坑出土遺物
	第234号住居跡出土遺物		第77号土坑出土遺物
図版89	第234号住居跡出土遺物		第106号土坑出土遺物
図版90	第234号住居跡出土遺物		第135号土坑出土遺物
	第240号住居跡出土遺物		第215号土坑出土遺物
	第242号住居跡出土遺物	図版97	第213号土坑出土遺物
	第244号住居跡出土遺物		第219号土坑出土遺物
	第247号住居跡出土遺物	図版98	第219号土坑出土遺物
	第250号住居跡出土遺物		第220号土坑出土遺物
図版91	第251号住居跡出土遺物		第222号土坑出土遺物
	第252号住居跡出土遺物		第13号性格不明遺構出土遺物
	第255号住居跡出土遺物	図版99	第13号性格不明遺構出土遺物
	第256号住居跡出土遺物		第19号性格不明遺構出土遺物
	第361号住居跡出土遺物		I-19グリッドP3出土遺物
図版92	第361号住居跡出土遺物		L-15グリッド出土遺物
	第362号住居跡出土遺物		P-17グリッドP1出土遺物
	第365号住居跡出土遺物	図版100	第122号住居跡出土遺物
	第367号住居跡出土遺物		第123号住居跡出土遺物
図版93	第369号住居跡出土遺物	図版101	第164号住居跡出土遺物
	第370号住居跡出土遺物		第169号住居跡出土遺物
	第371号住居跡出土遺物		第173号住居跡出土遺物
	第372号住居跡出土遺物		第174号住居跡出土遺物
	第373号住居跡出土遺物	図版102	第174号住居跡出土遺物
	第374号住居跡出土遺物		第175号住居跡出土遺物
図版94	第375号住居跡出土遺物		第177号住居跡出土遺物
	第382号住居跡出土遺物		第178号住居跡出土遺物
	第383号住居跡出土遺物		第184号住居跡出土遺物
	第386号住居跡出土遺物	図版103	第186号住居跡出土遺物
図版95	第386号住居跡出土遺物		第188号住居跡出土遺物
	第393号住居跡出土遺物		第194号住居跡出土遺物
	第394号住居跡出土遺物		第200号住居跡出土遺物
	第397号住居跡出土遺物	図版104	第200号住居跡出土遺物
	第541号住居跡出土遺物		第204号住居跡出土遺物
	第549号住居跡出土遺物		第206号住居跡出土遺物
	第550号住居跡出土遺物	図版105	第206号住居跡出土遺物
図版96	第550号住居跡出土遺物		第209号住居跡出土遺物

第224号住居跡出土遺物
第234号住居跡出土遺物
図版106 第234号住居跡出土遺物
図版107 第234号住居跡出土遺物
第241号住居跡出土遺物
第242号住居跡出土遺物
図版108 第242号住居跡出土遺物
第249号住居跡出土遺物
図版109 第251号住居跡出土遺物
第252号住居跡出土遺物
第255号住居跡出土遺物
第256号住居跡出土遺物
第361号住居跡出土遺物
図版110 第369号住居跡出土遺物
第377号住居跡出土遺物
第382号住居跡出土遺物
図版111 第382号住居跡出土遺物
第550号住居跡出土遺物
第220号土坑出土遺物
図版112 第219号土坑出土遺物
L-15グリッド出土遺物
図版113 第123号住居跡出土遺物
第164号住居跡出土遺物
図版114 第168号住居跡出土遺物
第175号住居跡出土遺物
第177号住居跡出土遺物
図版115 第178号住居跡出土遺物
図版116 第184号住居跡出土遺物
第194号住居跡出土遺物
第200号住居跡出土遺物
図版117 第200号住居跡出土遺物
図版118 第200号住居跡出土遺物
第205号住居跡出土遺物
第206号住居跡出土遺物
図版119 第223号住居跡出土遺物
第224号住居跡出土遺物
図版120 第224号住居跡出土遺物

図版121 第224号住居跡出土遺物
第234号住居跡出土遺物
図版122 第234号住居跡出土遺物
図版123 第234号住居跡出土遺物
図版124 第234号住居跡出土遺物
第242号住居跡出土遺物
第252号住居跡出土遺物
図版125 第255号住居跡出土遺物
第367号住居跡出土遺物
第372号住居跡出土遺物
図版126 第374号住居跡出土遺物
第377号住居跡出土遺物
第382号住居跡出土遺物
第386号住居跡出土遺物
図版127 第541号住居跡出土遺物
第550号住居跡出土遺物
第104号土坑出土遺物
第13号性格不明遺構出土遺物
図版128 第13号性格不明遺構出土遺物
第214号住居跡出土遺物
第175号住居跡出土遺物
第178号住居跡出土遺物
第179号住居跡出土遺物
第217号住居跡出土遺物
図版129 第194号住居跡出土遺物
第169号住居跡出土遺物
第227号住居跡出土遺物
第229号住居跡出土遺物
第234号住居跡出土遺物
第375号住居跡出土遺物
第374号住居跡出土遺物
第393号住居跡出土遺物
図版130 石製品類
第154・206号出土鉄器
第205号住居跡出土遺物鉄器
図版131 第1号墓壙出土遺物
近世墓壙出土遺物

図版132 住居跡出土砥石・石製品
第164号住居跡出土遺物
P-18グリッド出土板碑

図版133 川端遺跡全景（西から）
川端遺跡全景（東から）

図版134 第1号住居跡・第10・11号土坑
第1号住居跡カマド遺物出土状況
第2・3・4・5号住居跡

図版135 第2号住居跡・第4号土坑
第2号住居跡カマド
第3号住居跡

図版136 第3号住居跡遺物出土状況
第4号住居跡・第2号土坑
第4号住居跡カマド遺物出土状況

図版137 第5号住居跡 第6号住居跡
第6号住居跡カマド遺物出土状況

図版138 第6号住居跡貯蔵穴 第7号住居跡
第7号住居跡カマド

図版139 第8・9号住居跡 第8号住居跡カマド
第10号住居跡遺物出土状況

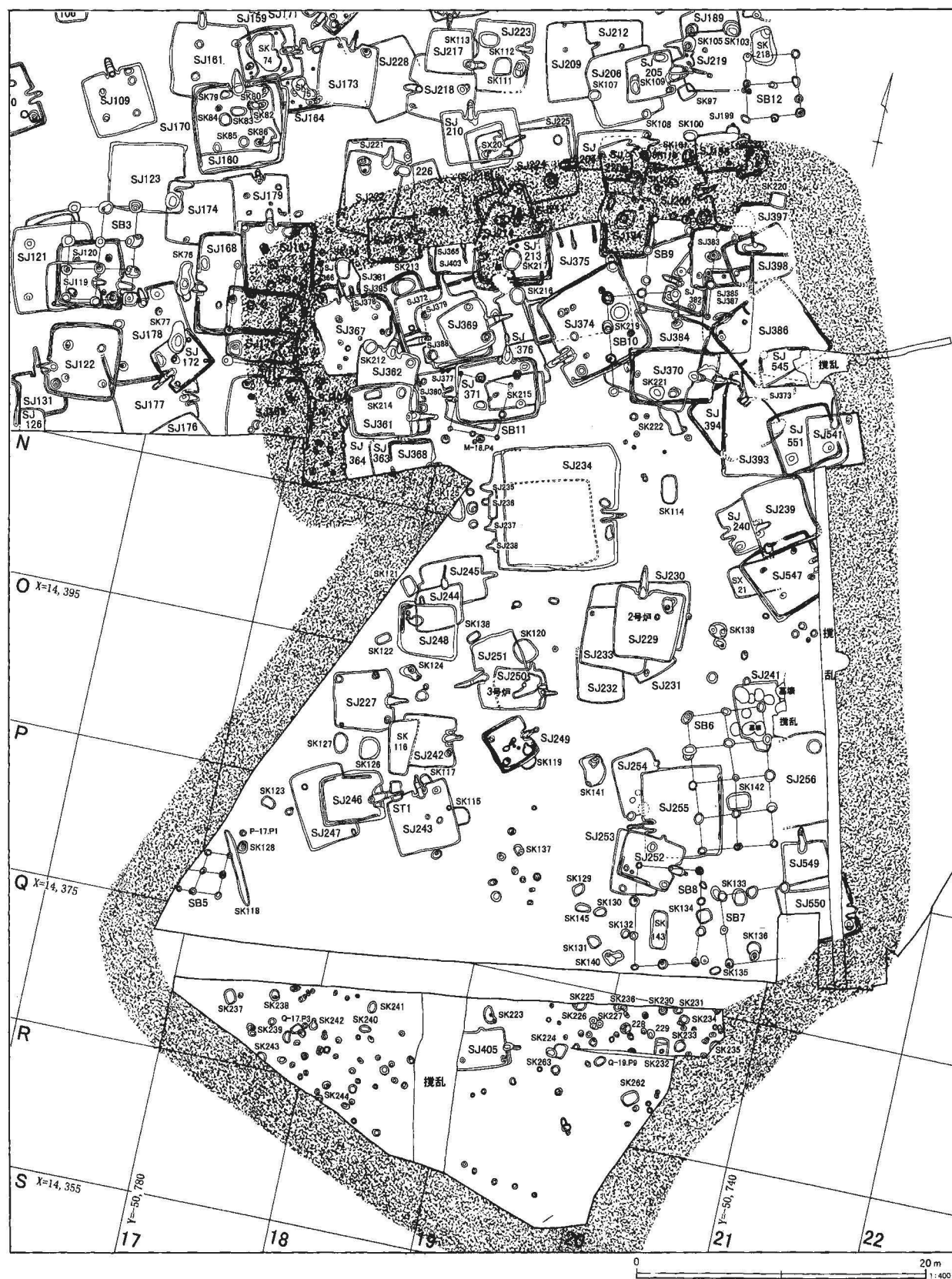
図版140 第10号住居跡カマド遺物出土状況
第10号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
第10号住居跡南側遺物集中

図版141 第11号住居跡・第12号土坑
第11号住居跡遺物出土状況
第12号住居跡

図版142 第2号住居跡出土遺物
第3号住居跡出土遺物
第6号住居跡出土遺物
第8号住居跡出土遺物
第9号住居跡出土遺物
第10号住居跡出土遺物

図版143 第8号住居跡出土遺物
第10号住居跡出土遺物
第11号住居跡出土遺物

3. D区の遺構と遺物



第155図 如意遺跡D区全測図

(1) 住居跡

第227号住居跡 (第156・157図)

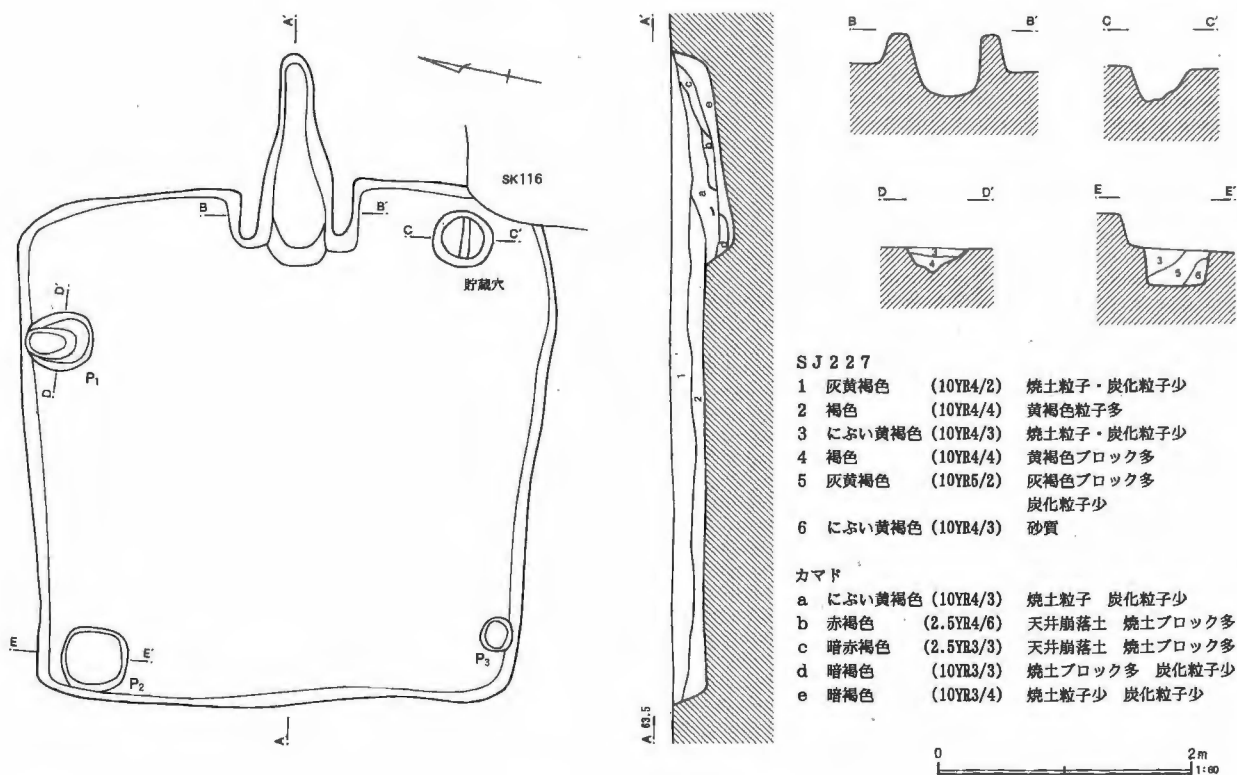
O-17・18グリッドに位置する。南東コーナーを第116号土坑に切られる。平面形は西壁がやや短く、台形に近い正方形で、長軸4.17m、短軸4.06m、深さは0.24~0.27mである。主軸方位はN-75°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開きながら立ち上がる。

カマドは東壁中央に設置される。燃焼部は床面を25cm程掘り込む。覆土には天井部の崩落土が明瞭に

残る(b・c層)。貯蔵穴はカマド右に設けられ、44×48cmの円形である。底面に段があり、深さは20cmである。壁溝は検出されなかった。ピットは3本検出され、P1~P3の深さは20cm、29cm、16cmである。

遺物はやや多く出土したが、小片が多く、磨耗が著しい。接合率は極めて悪い。須恵器には図示した以外に坏・高台付坏・甕胴部が、土師器は坏・甕が認められる。



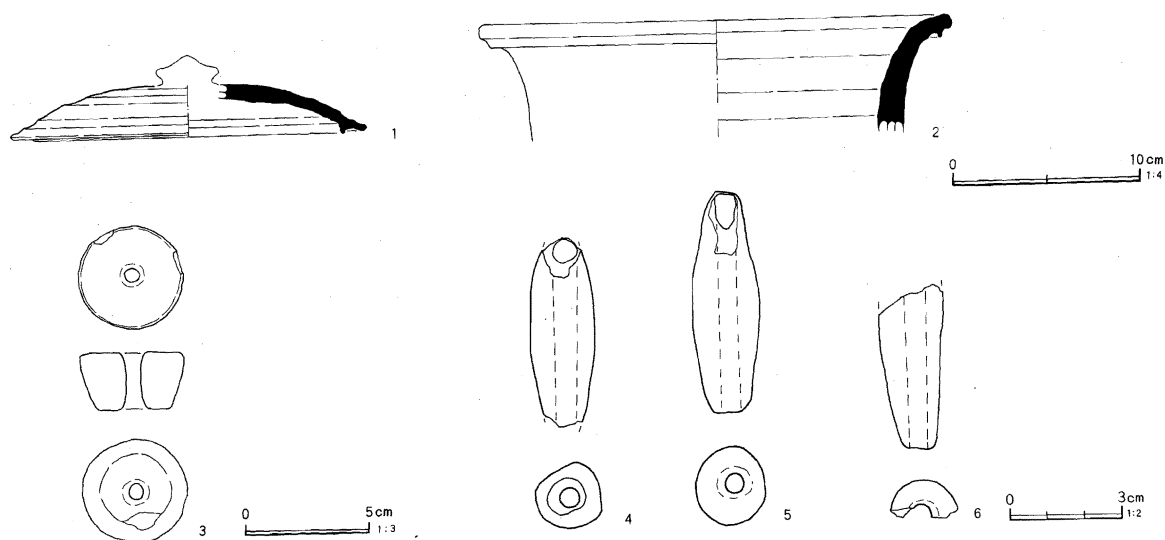
第156図 第227号住居跡

第227号住居跡出土遺物観察表 (第157図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	蓋	(18.4)			ABEFJ	良好	灰	40	カマド	末野産 かえり径(16.2)cm
2	甕	(24.5)			ABE	良好	灰	10	B区	末野産
3	土製紡錘車	長径4.1cm 短径2.8cm			BEJ	普通	にぶい橙	95	B区	厚さ2.2cm 孔径1.00cm 重さ43.95g

第227号住居跡出土土錘観察表 (第157図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
4	(5.00)	1.70	0.50	(12.88)	Ba	にぶい黄橙	70	A区
5	5.90	2.10	0.50	(18.43)	Ca	にぶい褐	90	B区
6	(4.40)	(1.30)	0.60	(5.71)	Ba	にぶい橙	35	A区



第157図 第227号住居跡出土遺物

第229号住居跡 (第158・159・160・161図)

N-19グリッドに位置する。第230・231・232・233号住居跡と重複し、本住居跡が最も新しい。また第2号炉跡は本住居跡の覆土最上面に構築されていた。平面形は正方形に近く、長軸4.92m、短軸4.72m、深さは0.42～0.51mである。主軸方位はN-7°-Wを指す。

床面は中央付近が僅かに高くなり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は3層に大別され、何れも焼土や炭化粒子を含んでいる。

カマドは北壁中央より西に設置される。燃焼部は床面を8cm程度掘り込み、緩やかに煙道部へ続く。覆土には天井崩落土が明瞭に残る(a～c層)。貯蔵穴は北東コーナー近くに設けられ、112×80cmの楕円形に直径35cm程の半円形の張り出しがつく形で、深さは17cmと浅い。壁溝、ピットは検出されなかった。

遺物は多量に出土したが、重複する住居跡からの混入も多いと考えられる。大半が小片で、磨耗が著しく、接合率は悪い。須恵器は図示した以外に蓋・坏が、土師器は坏・甕・台付甕等が認められる。土錘が破片を含めて30点出土した。

第230号住居跡 (第158・159・162図)

N-19グリッドに位置する。第229・231・233号住居跡と重複し、何れの住居跡にも壊される。平面形は東西に長い長方形で、長軸6.96m、短軸4.81m、深さは0.18m前後である。主軸方位は北壁でN-73°-Eを指す。

床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は1層で、深度が浅いため不明瞭だが、埋め戻された可能性も考えられる。

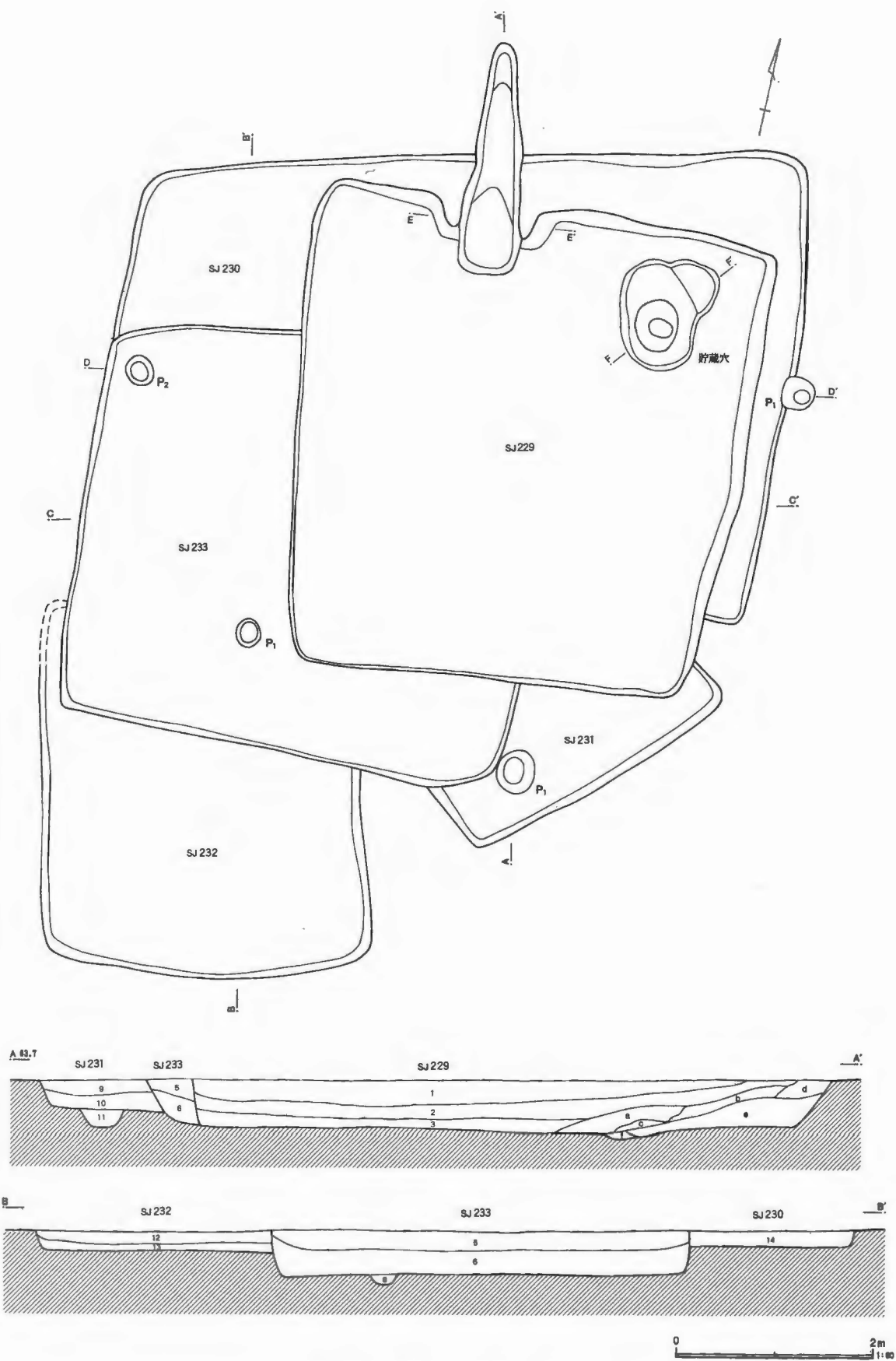
カマド、貯蔵穴は検出されなかった。ピットは1本検出されたが住居跡に伴うものか判断できなかった。深さは24cmである。

遺物は大半が北東コーナー付近からで、小片が少量出土した。須恵器はなく、土師器は図示した以外に甕が認められる。

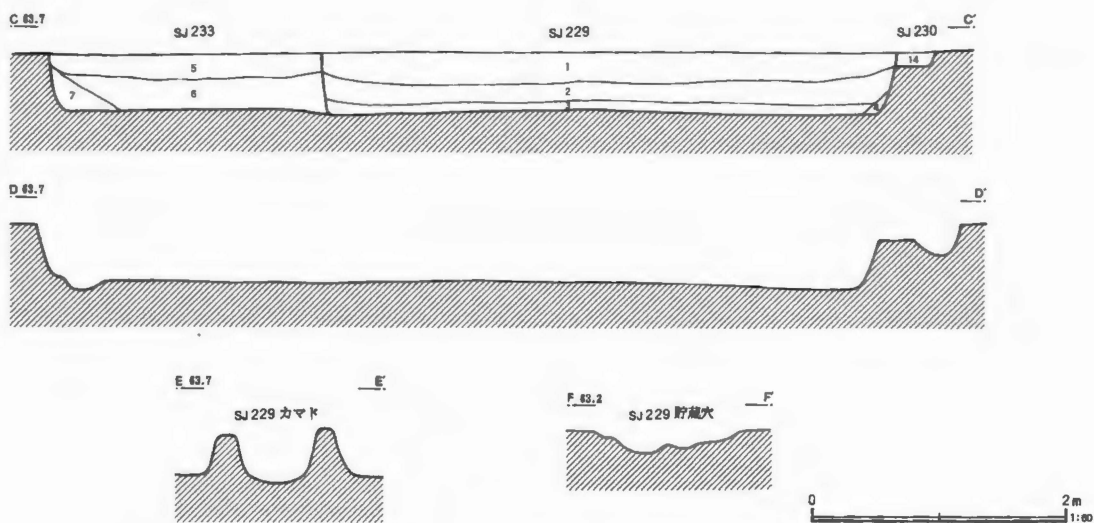
第231号住居跡 (第158・159・163図)

N-19グリッドに位置する。第229・233号住居跡に切られ、第230号住居跡を切る。平面形は不明だが、南東壁が2.98mで、南西壁が0.80m検出された。深さは0.25～0.30mである。主軸方位は南東壁でN-48°-Eを指す。

床面は第299号住居跡に向って下がり気味で、壁



第158図 第229~233号住居跡(I)



SJ 229

- | | | |
|---|------------------|--------------|
| 1 | にぶい黄褐色 (10YR5/4) | 焼土粒子・炭化粒子少 |
| 2 | 褐色 (10YR4/4) | 焼土ブロック・炭化粒子少 |
| 3 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | 焼土粒子・炭化粒子多 |
| 4 | にぶい黄褐色 (10YR5/4) | 炭化粒子少 |

SJ 233

- | | | |
|---|------------------|------------|
| 5 | 褐色 (10YR4/4) | 焼土粒子・炭化粒子少 |
| 6 | 暗褐色 (10YR3/4) | 炭化粒子少 |
| 7 | にぶい黄褐色 (10YR5/3) | 焼土粒子少 |
| 8 | 暗褐色 (10YR3/4) | 炭化粒子少 |

SJ 231

- | | | |
|----|------------------|------------|
| 9 | 褐色 (10YR4/6) | 焼土粒子・炭化粒子少 |
| 10 | 暗褐色 (10YR3/4) | 焼土粒子・炭化粒子少 |
| 11 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | 焼土粒子少 |

SJ 232

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 12 | 灰黄褐色 (10YR6/2) | 炭化粒子少 |
| 13 | にぶい黄褐色 (10YR5/3) | 焼土粒子少 |

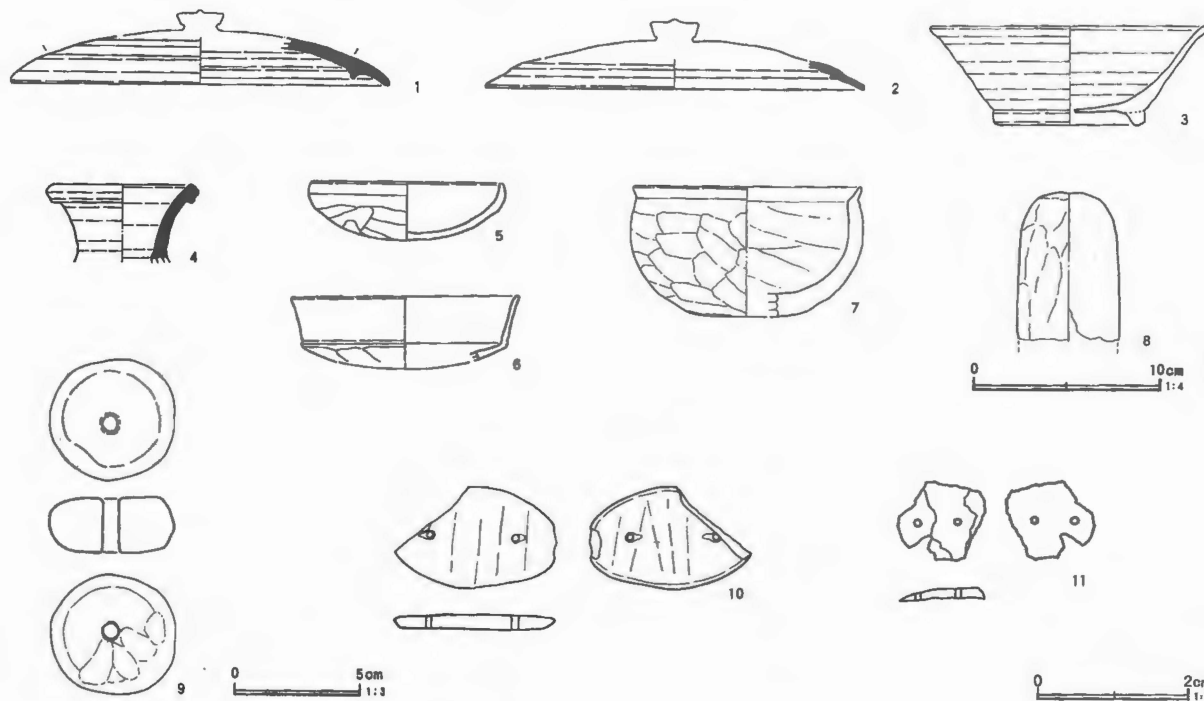
SJ 230

- | | | |
|----|--------------|------------|
| 14 | 褐色 (10YR4/4) | 焼土粒子・炭化粒子少 |
|----|--------------|------------|

SJ 229 カマド

- | | | | |
|---|------------------|------------|--------------|
| a | 黄褐色 (10YR5/6) | 天井崩落土 | 焼土ブロック・炭化粒子少 |
| b | 黄褐色 (10YR5/6) | 天井崩落土 | 焼土ブロック・炭化粒子多 |
| c | 褐色 (10YR4/6) | 天井崩落土 | 焼土ブロック・炭化粒子多 |
| d | にぶい黄褐色 (10YR5/3) | 焼土ブロック少 | |
| e | 暗褐色 (10YR3/4) | 焼土粒子・炭化粒子多 | |
| f | 黄褐色 (10YR5/6) | 炭化粒子粒多 | 焼土粒子少 |

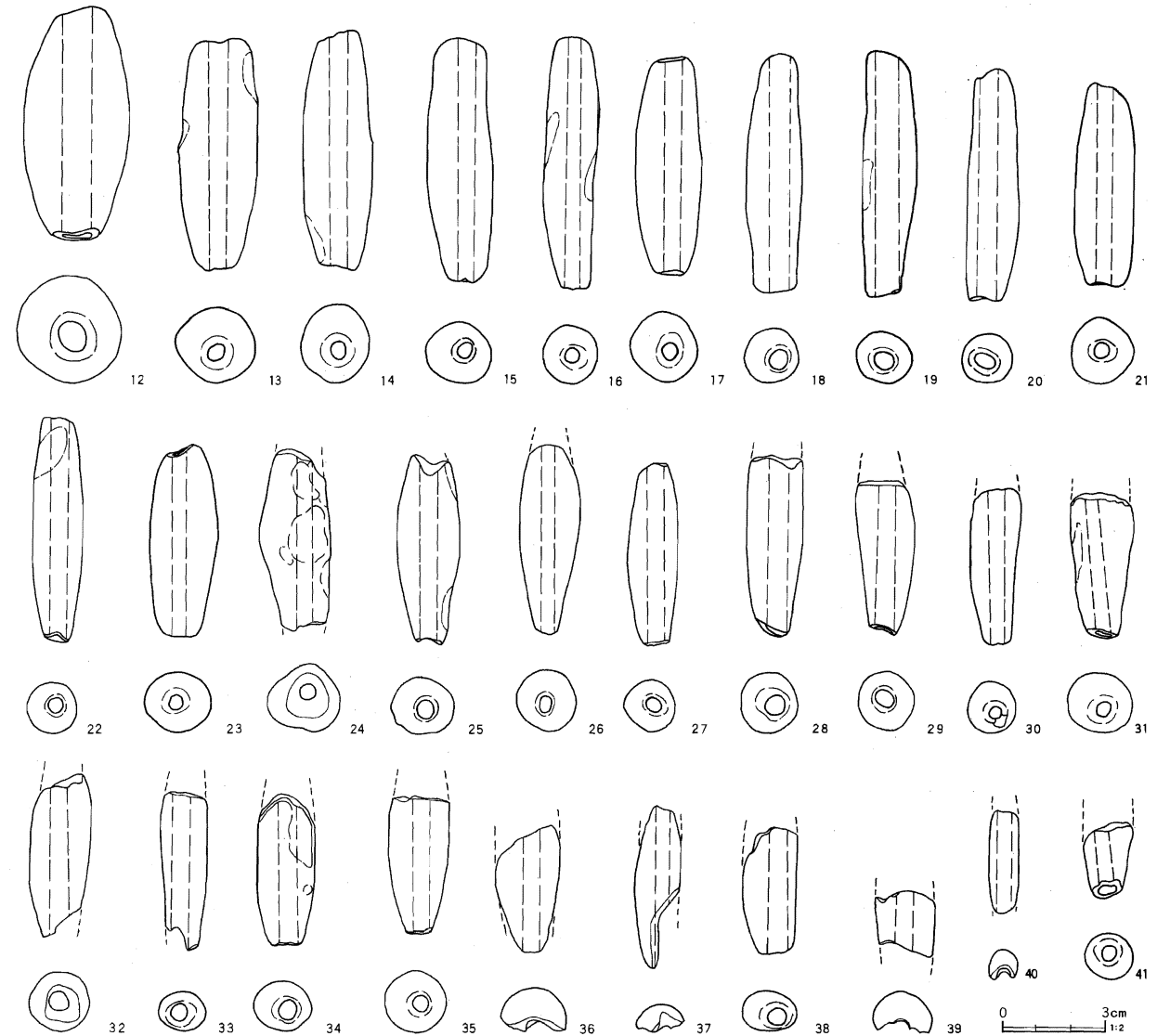
第159図 第229～233号住居跡(2)



第160図 第229号住居跡出土遺物(1)

第229号住居跡出土遺物観察表 (第160図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	蓋	(20.0)			BJL	普通	灰	15	B区	末野産
2	蓋	(20.0)			BJL	良好	褐灰	10	覆土	末野産
3	高台付 埴	(14.6)	5.3	8.0	BCEJL	不良	にぶい褐	60	D区	在地産 酸化焰焼成
4	壺?	(7.2)			B	良好	灰白	40	A・B区	末野産
5	坏	(10.0)	3.1		ABDJL	不良	にぶい橙	40	B区	外面黒色処理
6	坏	(12.0)			BEJL	不良	にぶい橙	20	D区	内外面磨耗著しい
7	埴	(12.0)	6.9	(6.4)	BCEJL	不良	にぶい橙	30	B区	内外面磨耗著しい
8	支 脚				ABCEJL	不良	橙	50	B区	指頭による整形 胸部直径約5.5cm
9	土製紡錘車	長径4.9cm 厚さ2.2cm			BJL	不良	にぶい赤褐	100	A区	孔径0.65cm 重さ57.86g 裏面指頭痕?
10	石製模造品	縦2.7cm	横(4.2)cm	厚さ0.4cm	孔径0.2cm			80	B区	滑石製 有孔円板 重さ6.77g
11	石製模造品	縦(2.1)cm	横(2.3)cm	厚さ(0.3)cm	孔径0.15cm			60	D区	滑石製 有孔円板 重さ1.69g 裏面剝離



第161図 第229号住居跡出土遺物(2)

は開きながら立ち上がる。覆土は2層に分けられ、カマド、貯蔵穴は検出されなかった。第229・233号住居跡に壊された部分に設置されていたと考えら

第229号住居跡出土土錘観察表 (第161図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
12	6.70	3.10	0.90	58.13	Ba	明赤褐	100	D区
13	6.65	2.30	0.55	30.64	Ba	浅黄	100	D区
14	6.85	2.25	0.50	30.05	Ba	褐灰	100	C区
15	7.00	1.85	0.40	23.15	B'a	浅黄橙	100	D区
16	7.20	1.70	0.40	18.68	Bb	明褐	100	D区 表面なめらか
17	6.25	2.05	0.50	23.98	Ba	褐灰	100	C区
18	6.85	1.55	0.60	(15.27)	Ba	浅黄橙	95	D区
19	7.05	1.55	0.55	14.88	B'a	浅黄	100	A区
20	6.70	1.50	0.55	13.16	B'a	灰白	100	C区
21	5.80	1.90	0.45	19.55	Bb	黒褐	100	B区
22	6.40	1.50	0.45	12.03	Bb	橙	100	A区
23	5.50	1.90	0.45	17.18	Ba	にぶい黄橙	100	B区
24	(5.20)	2.05	0.40	(18.06)	Ca	橙	60	B区
25	5.40	1.80	0.50	(12.77)	Ca	浅黄	85	B区
26	(5.40)	1.80	0.45	(14.23)	Ca	浅黄	80	A区
27	5.15	1.50	0.50	9.67	Ba	にぶい黄橙	100	C区
28	(5.15)	1.75	0.60	(13.60)	Ba	浅黄	60	B区
29	(4.40)	1.70	0.60	(9.68)	Ca	浅黄	50	D区
30	(4.50)	1.50	0.35	(8.20)	Ba	明赤褐	45	B区
31	(4.15)	1.85	0.45	(11.70)	Ca	橙	40	D区
32	(4.70)	1.75	0.60	(11.61)	Ca	にぶい橙	50	A区
33	(4.50)	1.35	0.50	(5.47)	Ba	にぶい黄	50	B区
34	(4.30)	1.65	0.50	(9.45)	Ca	にぶい褐	45	D区
35	(3.90)	1.70	0.45	(11.12)	Ca	にぶい褐	50	A区
36	(3.60)	(1.85)	(0.50)	(5.84)	Ca	橙	25	B区
37	(4.60)	(0.85)	(0.40)	(3.29)	Ca	明褐	15	A区
38	(3.60)	1.55	0.55	(6.07)	Ba	橙	45	D区
39	(1.80)	(1.70)	(0.50)	(3.26)	—	黒褐	5	B区
40	(2.90)	(0.80)	(0.40)	(1.73)	Aa	にぶい黄橙	25	D区
41	(2.15)	1.40	0.40	(2.86)	Ca	黒褐	15	A区

れる。ピットは1本検出され、深さ20cm、覆土に焼土粒子を含んでいる。

遺物は、小片が少量出土した。何れも磨耗が著しく、全く接合しない。須恵器が2片、他は土師器で、坏・甕が認められる。

第232号住居跡 (第158・159図)

N・O-19グリッドに位置する。第229・233号住居跡に切られる。平面形は南北に長い長方形と考えられ、長軸3.68m、短軸3.35m、深さは0.17~0.22mである。主軸方位はN-12°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開きながら立ち上がる。カマド、貯蔵穴、壁溝等は検出されなかった。

遺物はやや多く出土したが、全て小片で図示できる物はなかった。磨耗が激しく、接合しない。須恵

器・土師器共に坏・甕が認められる。

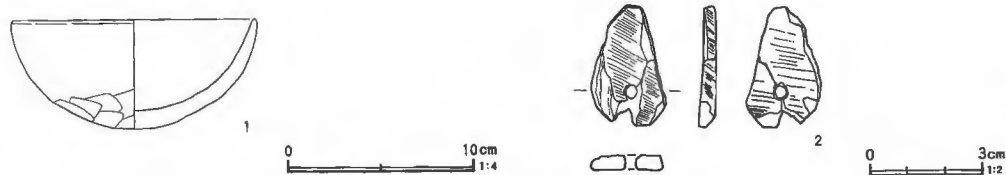
第233号住居跡 (第158・159・163図)

N-19グリッドに位置する。第230・231・232号住居跡を切り、第229号住居跡に切られる。平面形は東西に僅かに長い長方形で、長軸4.65m、短軸4.18m、深さは0.42m前後である。主軸方位はN-89°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は2層に大別され、焼土粒子・炭化粒子を含む。

カマド、貯蔵穴は検出されなかった。ピットは2本検出され、深さは13cm、15cmである。

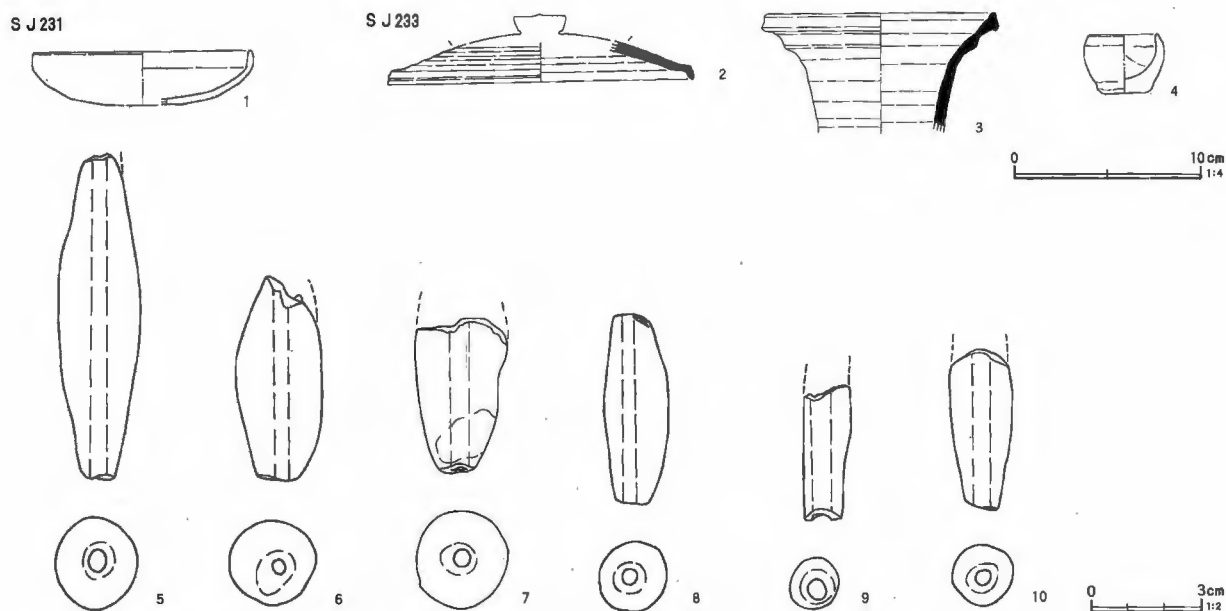
遺物は多量に出土したが全て小片で、磨耗が著しい。接合率は極めて悪い。須恵器は蓋・坏・壺が認められるが、全てで15片と量的に少ない。土師器は坏・甕が見られる。



第162図 第230号住居跡出土遺物

第230号住居跡出土遺物観察表 (第162図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	埴	12.7	5.6		BCDEJ	普通	にぶい橙	90	床	やや磨耗
2	石製模造品	長さ3.1cm 幅1.9cm 厚さ0.4cm 孔径0.3cm						90	覆土	滑石製 剣形 重さ4.10g



第163図 第231・233号住居跡出土遺物

第231号住居跡出土遺物観察表 (第163図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(11.3)	2.9		ABDE	普通	橙	20	P1	磨耗著しい

第233号住居跡出土遺物観察表 (第163図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
2	蓋	(16.0)			BJL	良好	灰	10	A区	末野産 天井部回転ヘラケズリ
3	長頸瓶	(12.0)			BJ	良好	灰	15	A区	群馬・秋間産
4	ミニチュア	(3.6)	3.2	2.5	BEJ	普通	にぶい褐	40	B区	

第233号住居跡出土土錘観察表 (第163図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
5	8.70	2.50	0.60	(37.46)	Ca	橙	95	A区
6	5.45	2.30	0.40	(25.30)	Ca	にぶい褐	75	A区
7	(4.10)	2.60	0.45	(22.45)	Ca	橙	50	A区
8	5.05	1.80	0.40	16.16	Cb	黒褐	100	A区
9	(3.65)	1.40	0.55	(5.83)	Ba	浅黄	50	B区
10	(4.30)	1.60	0.40	(10.27)	Ca	にぶい褐	50	A区

第234号住居跡（第164～175図）

M・N-18・19グリッドに位置する。第235・236・237・238号住居跡と重複し、何れの住居跡にも壊される。発掘調査時は平面プランで他の住居跡との新旧関係が不明瞭で、本住居跡から第238号住居跡までを同時に調査した。また、用地取得の関係で北側が2年度に分けられて調査された。平面形は正方形に近く、長軸8.55m、短軸7.94m、深さは0.62～0.70mで、重複する5軒の住居跡の中では最も大きく、深い。主軸方位はN-73°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土中には、土器等と混在して大量の自然石が含まれていた。

カマドは東壁中央よりやや南に設置される。燃焼部の掘り込みはなく、急激に立ちあがり煙道部へ続く。覆土には明瞭な焼土層が見られる。カマドの左右には貯蔵穴かと考えられるピットが検出されたが（P1・P2）、深さが各10cm、7cmと浅い。壁溝は検出されなかった。

遺物は、極めて多量に出土した。第234号住居跡から第238号住居跡までの5軒をまとめて取り上げた関係で時期的に様々なものが見られるが、中でも本住居跡に伴う遺物が多いと考えられる。須恵器は量的にあまり多くはなく、接合率が比較的良好。図示した以外にも坏・高坏・甕のほか高台付坏等が見られる。土師器は総量で遺物用コンテナ26箱分出土した。特に高坏の破片が目立ち、図示した以外にも脚部だけで20個体以上は確認できた。甕には取っ手を有するものが見られ、取っ手片で5～6個体は見られる。土鍾が破片を含めて38個出土している。

第235号住居跡（第164・165図）

M-18グリッドに位置する。第234・236号住居跡を切り、第237号住居跡に切られる。第238号住居跡との関係は不明である。第234号住居跡同様、2年度に分かれて調査された。平面形は不明だが、西壁が4.68m、北壁は0.5m検出された。深さは0.10～0.14

mと浅い。主軸方位はN-103°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は1層である。

カマドは西壁中央に設置される。燃焼部の掘り込みは見られず、左袖の一部が検出された。貯蔵穴・壁溝等は検出されなかった。

遺物は全て第234号住居跡と同時に取り上げられた。

第236号住居跡（第164・165図）

M-18グリッドに位置する。第234号住居跡を切り、第235・237号住居跡に切られる。第238号住居跡との関係は不明である。カマドの先端のみの検出で、住居跡の規模等は不明である。主軸方位はN-106°-Wを指す。

カマドは西壁に設置されたと考えられ、長さ47cm、幅45cm、深さ10cmが検出された。覆土には焼土ブロック・焼土粒子が含まれる。遺物は出土しなかった。

第237号住居跡（第164・165図）

M・N-18グリッドに位置する。第234・235・236・238号住居跡と重複し、本住居跡が最も新しい。但し、既述したように重複する住居跡を同時に掘り進めたため、本住居跡のみの検出は出来ず、土層断面等から復原を行った。平面形は東西にやや長い長方形で、長軸6.84m、短軸6.15m、深さは0.35～0.42mである。主軸方位はN-109°-Wを指す。

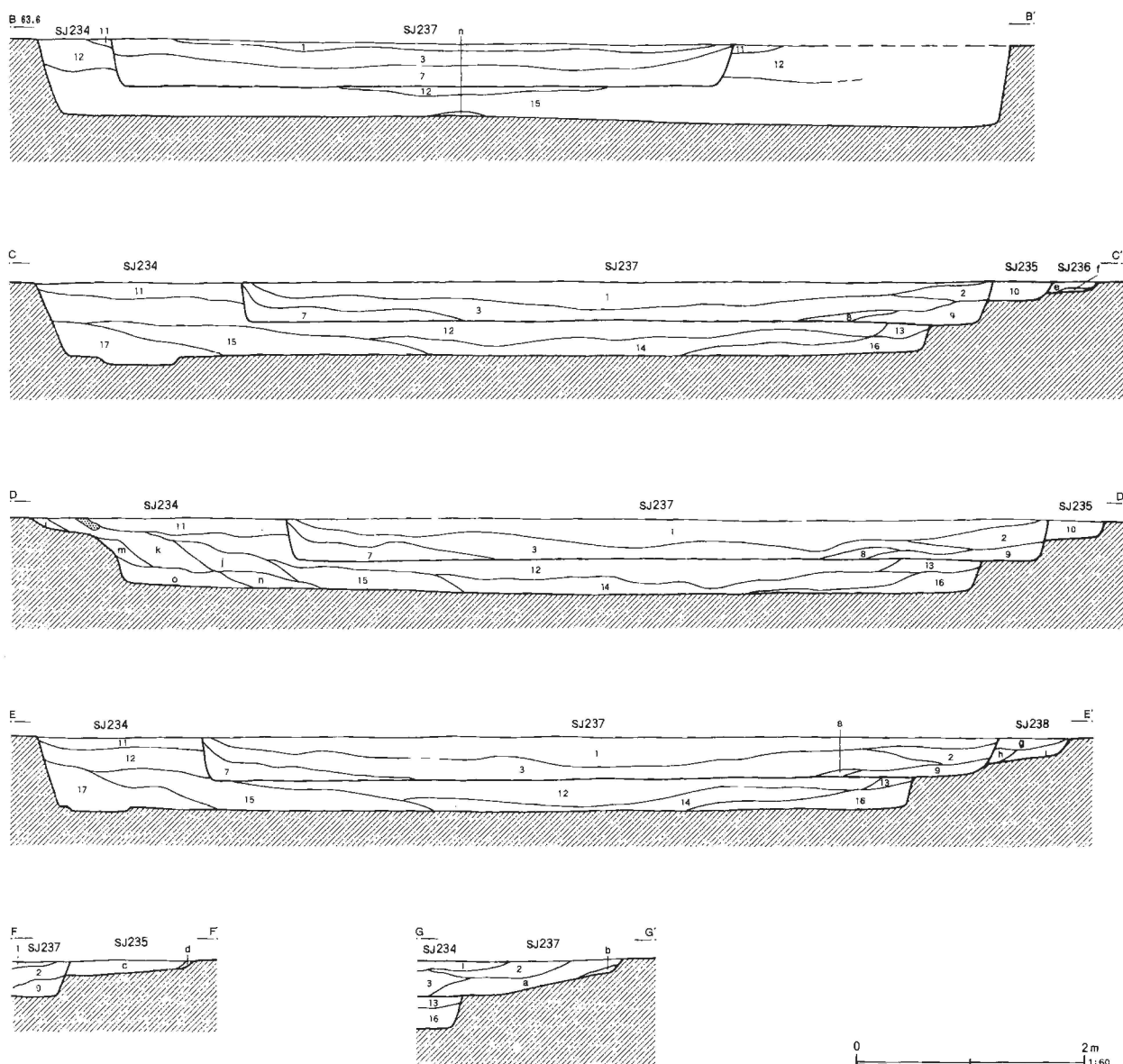
床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は9層に分けられ、概ね自然堆積と考えられる。

カマドは西壁中央に設置される。平面形はやや歪み、床面から緩やかに立ちあがり煙道部となる。覆土には焼土・灰が明瞭に観察された。貯蔵穴・壁溝は検出されなかった。

遺物は全て第234号住居跡と同時に取り上げられた。



第164图 第234~238号住居跡(1)



SJ 237

- 1 におい黄褐色 (10YR5/4) 白色微粒子
- 2 褐色 (10YR4/4) 炭化粒子
- 3 におい黄褐色 (10YR5/4) 炭化粒子 灰黄褐色シルト
- 4 におい黄褐色 (10YR4/3) 灰黄褐色シルト多
- 5 灰黄褐色 (10YR4/2) 炭化粒子
- 6 におい黄褐色 (10YR5/4) 黒色粒子
- 7 暗褐色 (10YR3/3) におい黄褐色シルト
- 8 におい黄褐色 (10YR4/3) 焼土僅か
- 9 褐色 (10YR4/4) におい黄褐色シルト

SJ 235

- 10 褐色 (10YR4/4) 白色微粒子 炭化粒子

SJ 234

- 11 におい黄褐色 (10YR4/3) 白色微粒子
- 12 におい黄褐色 (10YR4/3) 灰黄褐色シルト 炭化粒子

- 13 褐色 (10YR4/4)
- 14 暗褐色 (10YR3/4)
- 15 褐色 (10YR4/4) 灰僅か
- 16 におい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子僅か
- 17 暗褐色 (10YR3/3) 炭化粒子

SJ 237 カマド

- a 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土・灰
- b におい黄褐色 (10YR5/4) シルト質

SJ 235 カマド

- c 褐色 (10YR4/4) 焼土・灰僅か
- d におい黄褐色 (10YR4/3) 焼土ブロック

SJ 236 カマド

- e 黒褐色 (10YR2/2) 焼土・焼土ブロック
- f 褐色 (10YR4/4) 被熱土

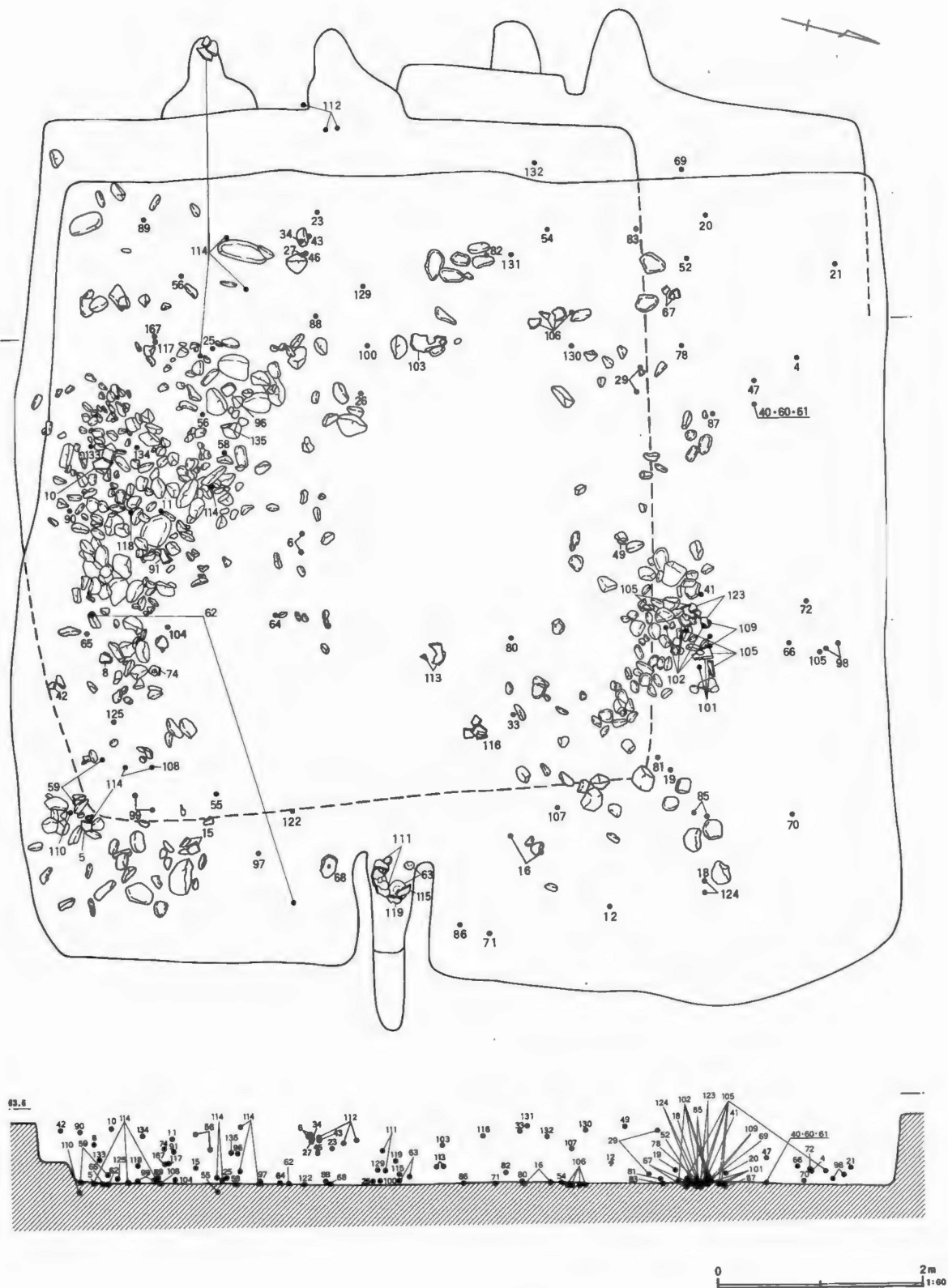
SJ 238 カマド

- g におい黄褐色 (10YR5/4) 白色微砂粒・焼土僅か
- h 褐色 (10YR4/4) 炭化粒子僅か
- i 褐色 (10YR4/6) 灰

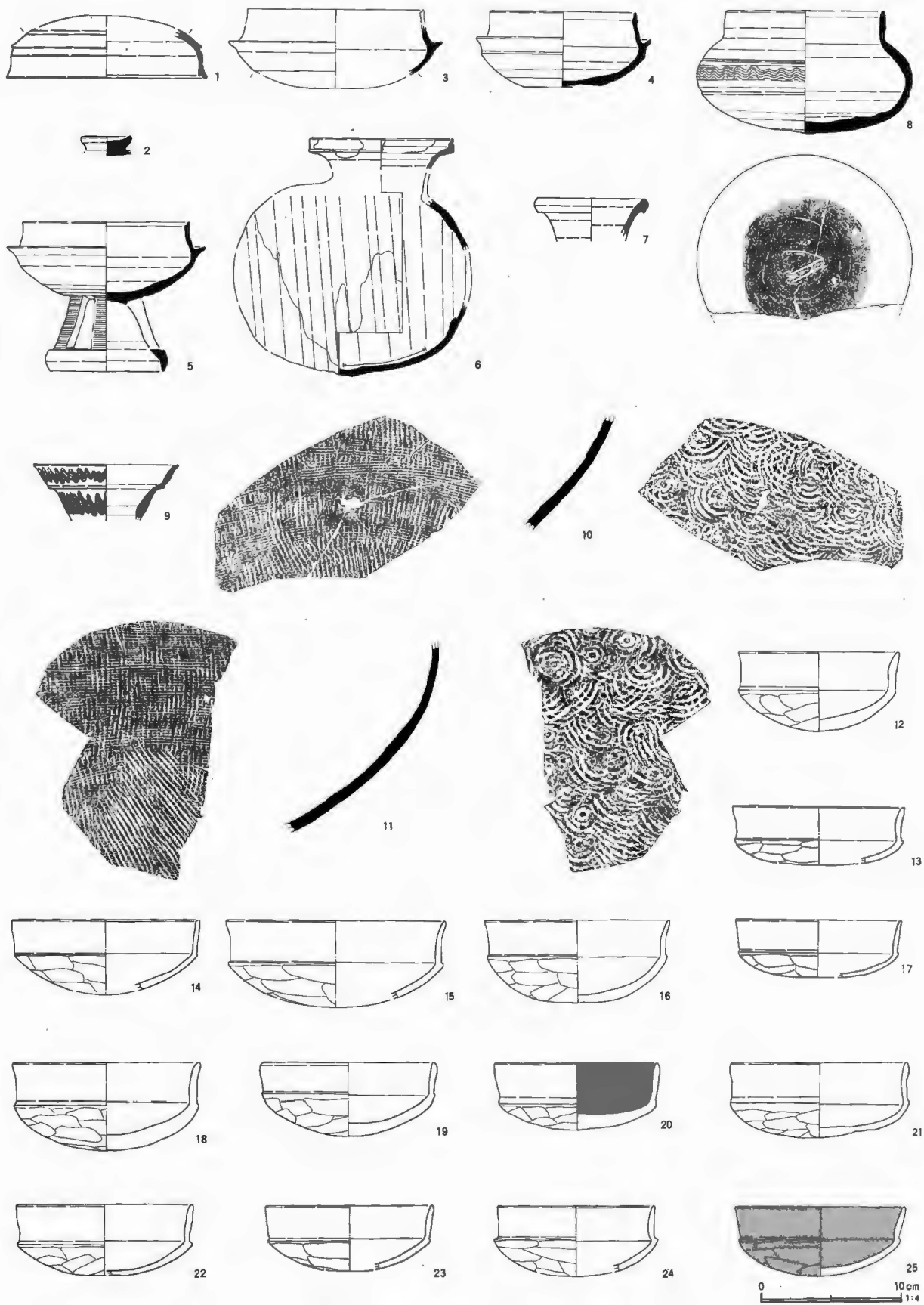
SJ 234 カマド

- j 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質
- k 褐色 (10YR4/4) 炭化粒子・褐色粒子
- l 褐色 (10YR4/4) 焼土僅か
- m 褐色 (10YR4/4) 焼土多
- n 暗褐色 (10YR3/3) 灰・焼土多
- o 暗褐色 (10YR3/3) 焼土僅か

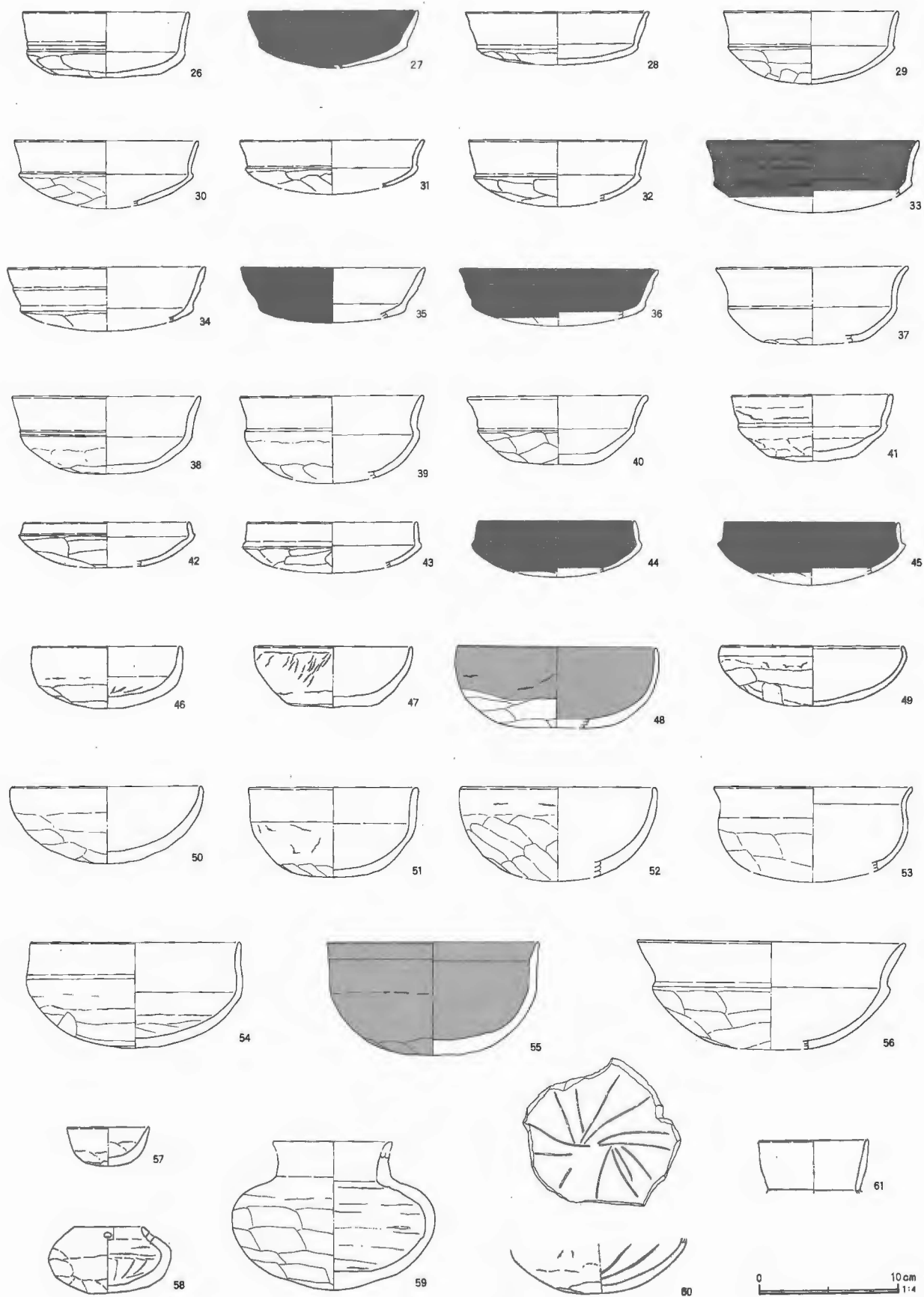
第165図 第234～238号住居跡(2)



第166图 第234号住居跡遺物出土状況



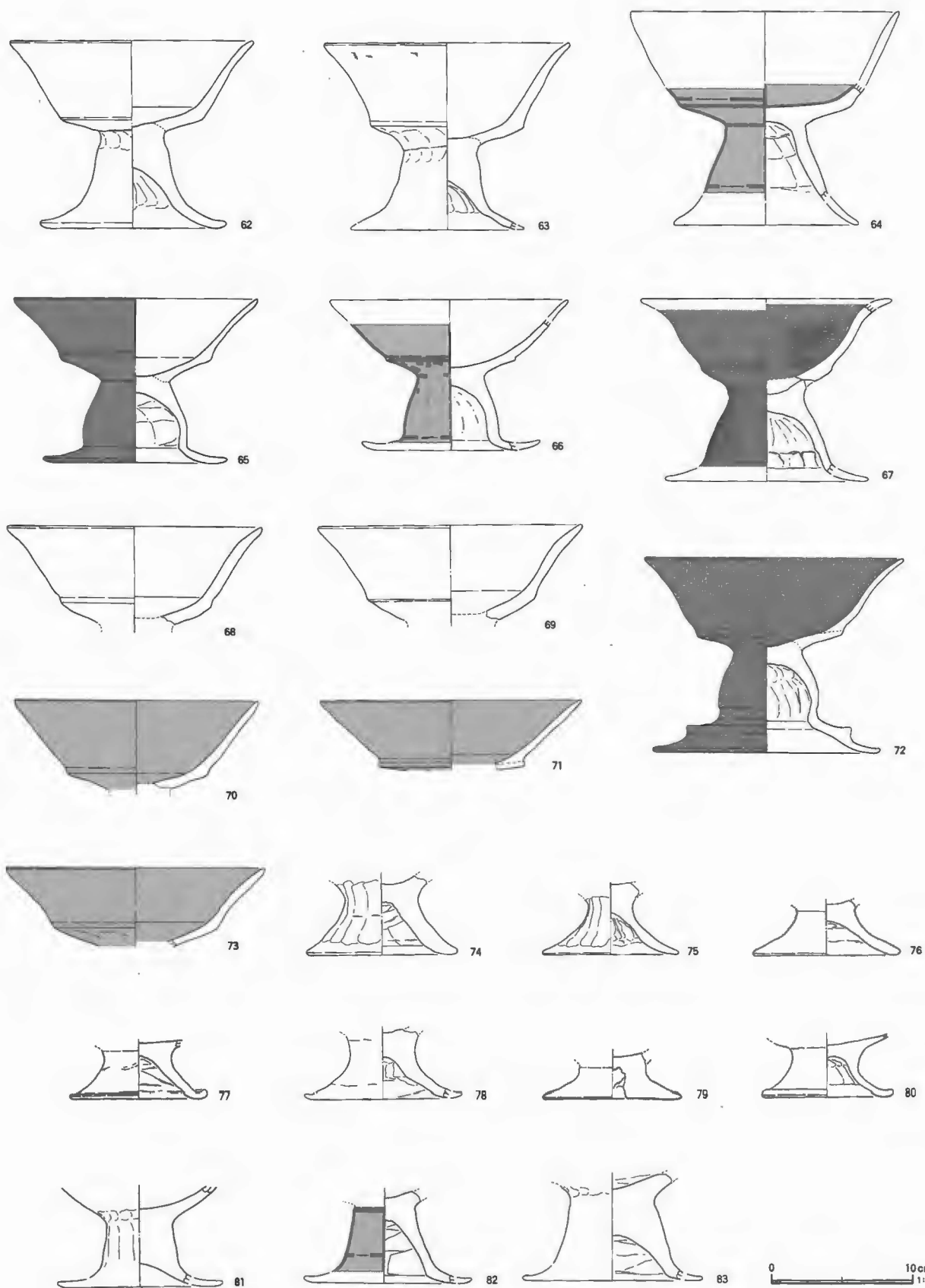
第167図 第234号住居跡出土遺物(1)



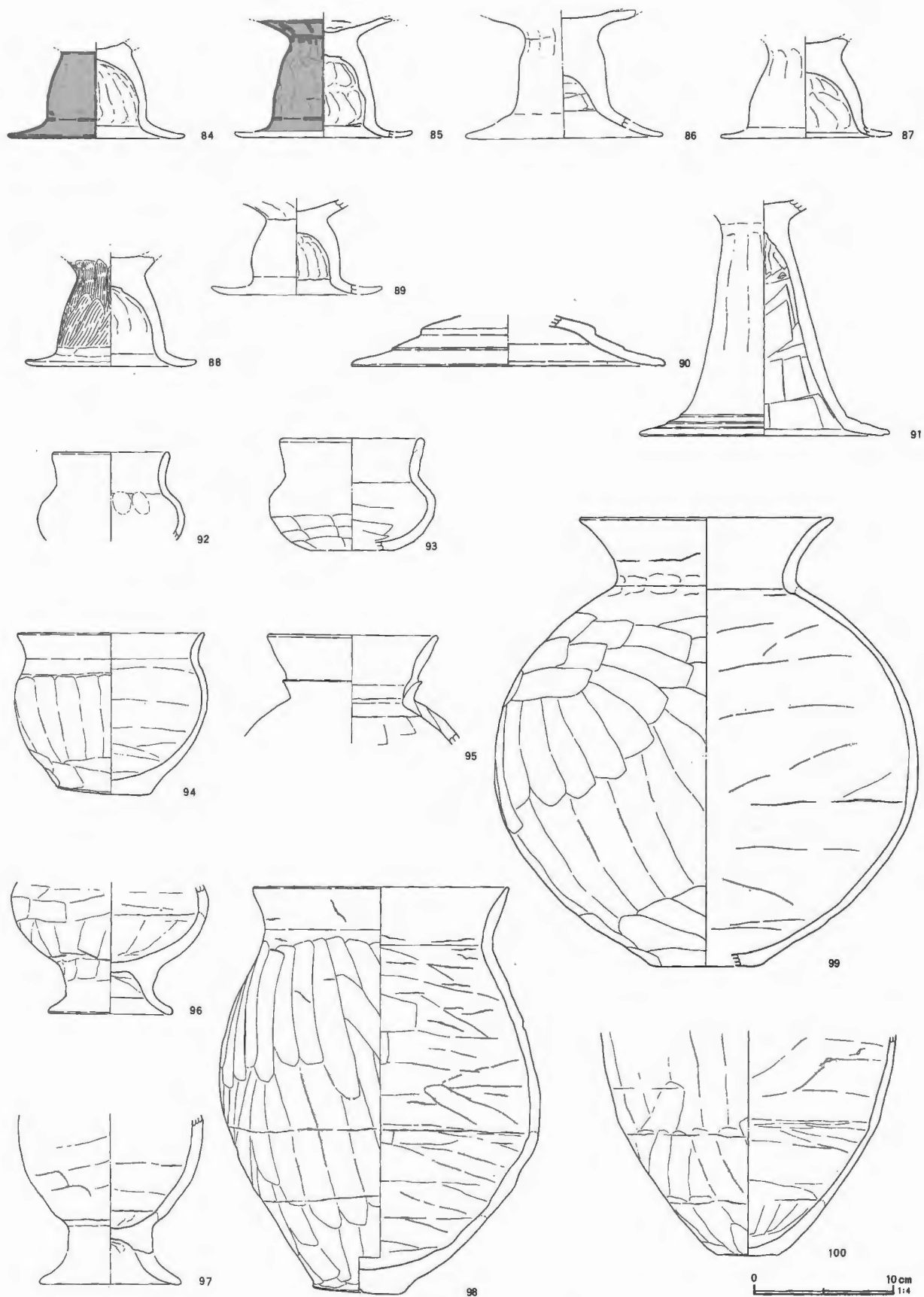
第168図 第234号住居跡出土遺物(2)

第234号住居跡出土遺物観察表 (第167・168図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	蓋	(14.0)			BJ	良好	灰白	10		産地不明 天井部回転ヘラケズリ
2	蓋				B	良好	灰白	100		群馬・秋間産 つまみ直径3.6cm
3	坏				BJL	良好	灰	15		産地不明 底部回転ヘラケズリ
4	坏	10.3	5.3	5.3	BJ	良好	灰	90		産地不明 底部回転ヘラケズリ
5	高 横 瓶	11.8	10.4	8.0	BJ	良好	灰	80		産地不明 脚部三方透孔
6	瓶	(10.0)			B	良好	黄灰	60		群馬・秋間産
7	短 頸 壺	(7.4)			BJ	普通	灰白	40		末野産
8	小 型 壺	11.0	8.5		BL	良好	灰	60		産地不明 底部ヘラ記号
9	壺	(10.2)			B	良好	暗灰	45		陶邑産
10	甕				ABC	良好	灰	破片		末野産 胴部中位よりやや下部
11	甕				ABC	良好	灰	破片		末野産 胴部(底部付近)
12	坏	11.5	5.6		BCEJL	不良	橙	75		外面やや磨耗
13	坏	(12.0)			AEJ	普通	にぶい橙	60		
14	坏	(13.0)			BDEJ	普通	にぶい橙	40		
15	坏	(15.2)			ABJ	普通	橙	30		内外面やや磨耗
16	坏	(13.0)	5.8		ABCDEJL	不良	橙	60		内外面やや磨耗
17	坏	(11.6)	4.0		BCEJ	不良	にぶい橙	40		内外面やや磨耗
18	坏	(13.0)	6.1		ABEJ	普通	灰黄褐	60		
19	坏	(12.2)	5.1		BEJL	普通	橙	60		内外面やや磨耗
20	坏	11.5	4.6		ABCEJL	普通	橙	85		内面黒色処理
21	坏	12.4	5.2		BEJL	不良	橙	100		
22	坏	12.2	5.0		BEJL	不良	明赤褐	30		内外面磨耗著しい
23	坏	(11.6)			BEJ	普通	橙	25		内外面やや磨耗
24	坏	(11.0)			BEJ	普通	にぶい橙	10		
25	坏	12.0	4.9		BEJL	不良	橙	60		内外面赤彩 磨耗著しい
26	坏	(11.6)	4.6		ABEJL	普通	橙	30		
27	坏	(12.0)	4.0		ABJ	普通	にぶい褐	15		内外面黒色処理 内面やや磨耗
28	坏	(13.0)	3.7		BDJ	普通	橙	40		
29	坏	12.4	5.1		EJL	不良	にぶい赤褐	75		
30	坏	(13.0)			BEJL	不良	にぶい橙	30		外面やや磨耗
31	坏	(13.0)			ABCDEJ	不良	にぶい黄橙	40		内外面やや磨耗
32	坏	(12.6)			BJ	普通	にぶい橙	15		
33	坏	(15.0)			BJ	普通	黒褐	10		内外面黒色処理
34	坏	(14.0)			ABJ	普通	橙	15		内外面磨耗著しい
35	坏	(13.0)			BCJL	普通	灰黄褐	10		外面黒色処理 内面磨耗著しい
36	坏	(14.0)			BJ	普通	灰黄褐	10		内外面黒色処理
37	坏	(13.6)			ABDJ	普通	にぶい赤褐	30		
38	坏	(13.4)	5.6		ABFJ	普通	にぶい橙	40		やや歪みあり
39	坏	(13.0)			BJ	普通	橙	20		
40	坏	12.8	4.9		BCJ	不良	橙	65		やや歪みあり
41	坏	(11.4)	4.8		BJ	普通	にぶい橙	45		やや歪みあり
42	坏	(11.6)			BCDJ	不良	橙	20		内外面やや磨耗
43	坏	(12.0)			ABJL	不良	橙	15		内外面磨耗著しい
44	坏	(11.0)			BJ	普通	にぶい褐	15		内外面黒色処理
45	坏	(12.0)			BJ	普通	褐灰	15		内外面黒色処理
46	坏	(10.6)	4.5		JL	普通	にぶい橙	85		
47	坏	(11.0)	4.4		BDEJL	普通	橙	60		やや歪みあり
48	坏	(14.0)	5.8		BEJ	普通	橙	40		外面上半・内面赤彩
49	坏	13.0	4.3		ABCDEJ	普通	にぶい橙	80		
50	坏	(13.4)	5.5		BCEJL	不良	にぶい橙	60		内外面磨耗著しい
51	坏	(12.0)	6.3		BCJL	普通	にぶい褐	40		
52	壺	(13.6)			ABEJL	普通	にぶい黄橙	40		
53	壺	(14.0)			BCEJL	不良	にぶい橙	15		内外面磨耗著しい
54	壺	14.9	7.5		BCEJL	普通	橙	100		内外面やや磨耗
55	壺	(15.0)	7.9		BCEJL	普通	橙	60		内外面赤彩 磨耗著しい
56	壺	(20.0)	7.6		JL	不良	にぶい赤褐	30		内外面やや磨耗
57	ミニチュア	(5.8)	2.7		BCJ	普通	にぶい橙	30		内外面やや磨耗
58	ミニチュア	4.9	4.7		BJ	普通	にぶい黄橙	95		二ヶ所穿孔
59	小 型 壺				BCDEJL	不良	にぶい橙	65		内外面やや磨耗



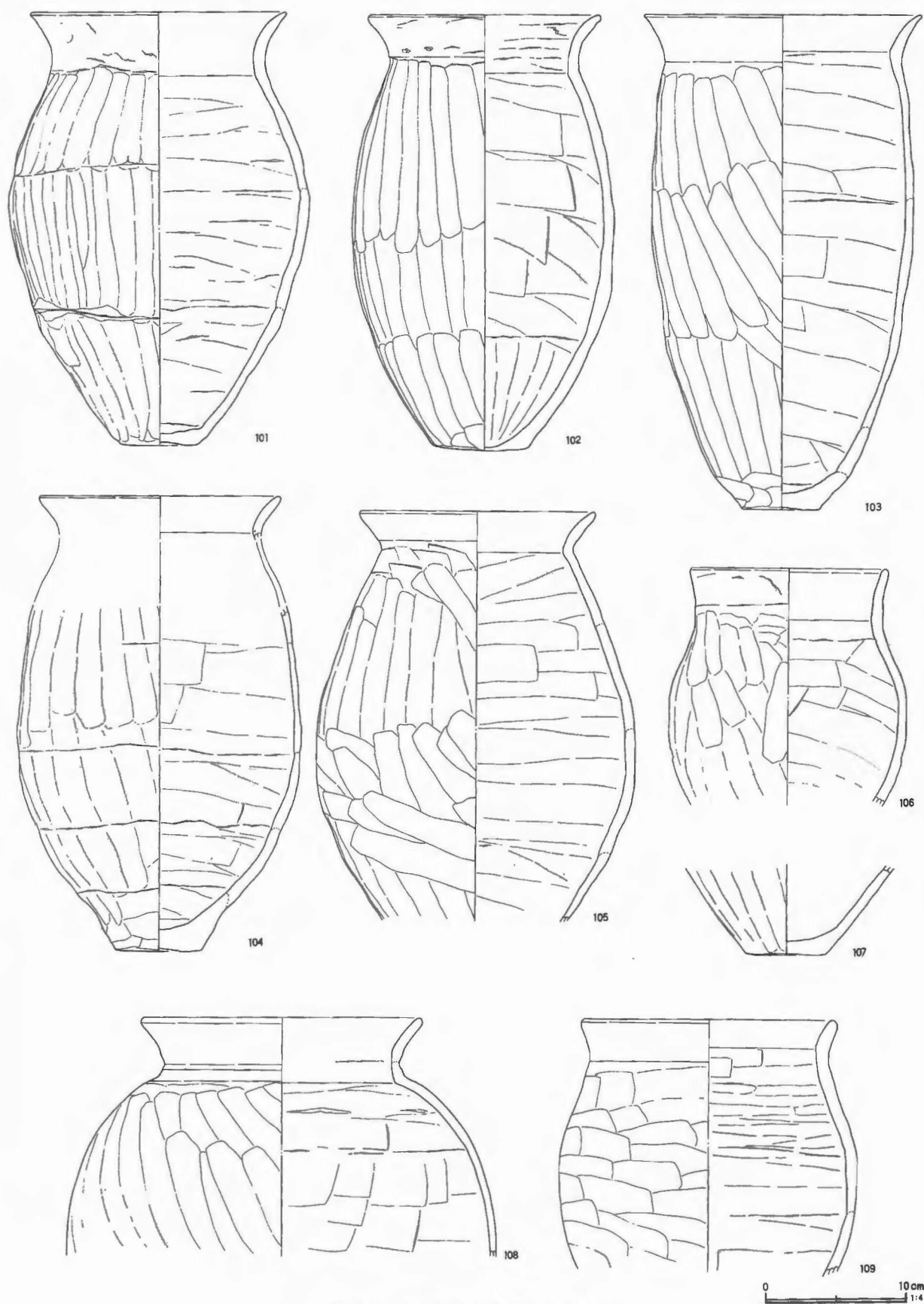
第169図 第234号住居跡出土遺物(3)



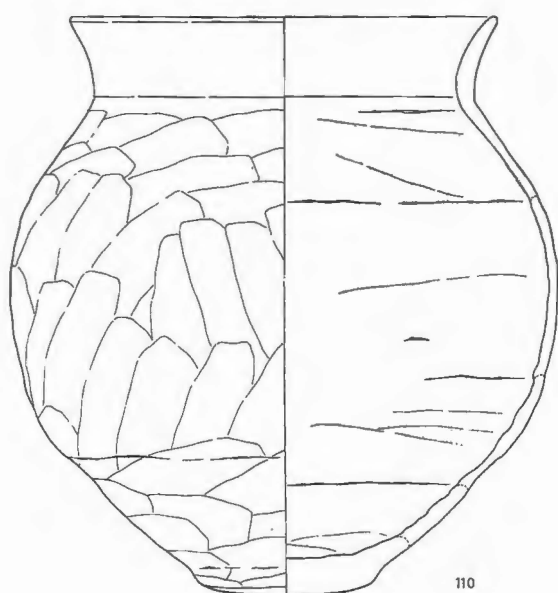
第170図 第234号住居跡出土遺物(4)

第234号住居跡出土遺物観察表 (第168・169・170・171・172・173図)

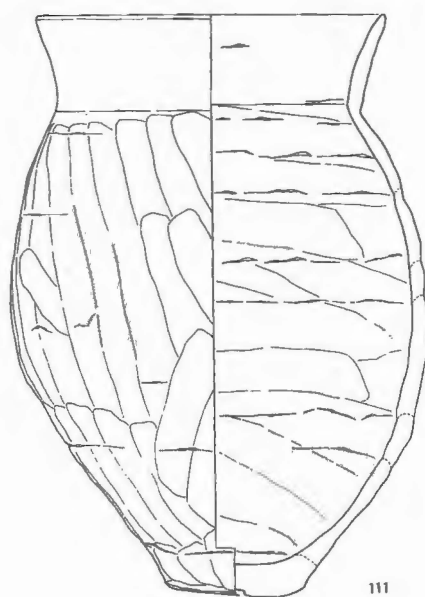
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
60	埴				BCEJ	普通	橙	80		内面放射状暗文
61	小型壺	7.7			ABJ	不良	にぶい橙	95		
62	高坏	(17.0)	13.0	(13.0)	BCJL	不良	橙	75		内外面磨耗著しい
63	高坏	17.1			BCEJL	不良	橙	80		内外面磨耗著しい
64	高坏				BDEJL	不良	にぶい赤褐	80		内外面赤彩 磨耗著しい
65	高坏	(17.0)	11.5	(12.8)	BEJL	不良	橙	70		内外面磨耗著しい 外面の一部に赤彩の痕跡
66	高坏				ABCJ	不良	橙	60		内外面磨耗著しい 外面に赤彩の痕跡
67	高坏				ABDJL	普通	橙	60		内外面赤彩 脚部外面縦ハケ 坏部内面ミガキ
68	高坏	17.8			BCEJL	不良	橙	95		内外面磨耗著しい
69	高坏	(18.4)			ABCEJL	不良	橙	75		内外面磨耗著しい
70	高坏	17.0			ABCEJL	不良	橙	80		内外面磨耗著しい 内外面に赤彩の痕跡
71	高坏	(18.2)			BEJL	普通	にぶい赤褐	70		内外面赤彩
72	高坏	(18.0)	13.7	15.8	BCEJ	普通	にぶい橙	80		内外面赤彩 磨耗著しい
73	高坏	(18.0)			BEJL	普通	橙	20		内外面赤彩
74	高坏			10.5	BEJL	普通	にぶい赤褐	75		
75	高坏			(9.5)	BJ	普通	橙	60		
76	高坏			(10.2)	BCJ	不良	にぶい橙	60		
77	高坏			9.6	BEJ	普通	橙	90		
78	高坏				ABEJL	不良	にぶい橙	70		
79	高坏			(9.6)	BJ	不良	明赤褐	40		内外面磨耗著しい
80	高坏			9.2	ABJ	普通	橙	100		
81	高坏				BCEJL	不良	にぶい黄橙	60		内外面磨耗著しい
82	高坏				ABCEJL	不良	にぶい赤褐	90		外面赤彩
83	高坏				BCJL	普通	橙	80		外面やや磨耗
84	高坏			(12.4)	BCEJL	普通	にぶい赤褐	60		外面赤彩
85	高坏				BCDEJL	普通	明赤褐	90		外面赤彩
86	高坏				BCJL	不良	赤褐	90		内外面磨耗著しい
87	高坏				BEJL	不良	浅黄橙	70		内外面磨耗著しい
88	高坏			(12.0)	BJL	不良	橙	40		外面縦～斜ハケ
89	高坏				BCEJL	不良	橙	90		内外面磨耗著しい
90	高坏			(22.0)	BJL	不良	明赤褐	40		
91	高坏			17.5	ABEJ	不良	橙	60		
92	小型壺	(7.9)			ABE	普通	にぶい橙	20		磨耗著しい
93	小型壺	(9.6)	8.0	(5.8)	ABCE	普通	褐灰	25		磨耗著しい
94	小型甕	13.2	11.5	6.6	BCEJL	普通	橙	70		
95	甕	11.6			ACE	良好	橙	50		
96	台付甕			8.8	ABEJL	普通	橙	80		
97	台付甕				BCJL	不良	にぶい褐	60		内外面磨耗著しい
98	甕	18.0	28.6	6.4	BCEJL	普通	にぶい橙	80		
99	壺	(18.0)	31.9	(8.0)	BCEJL	普通	にぶい橙	60		内外面磨耗著しい
100	甕			4.4	BCEJL	普通	にぶい黄褐	60		外面やや磨耗
101	甕	18.0	30.5	5.4	BCDJL	普通	にぶい橙	60		器形やや歪みあり
102	甕	16.3	30.7	6.6	BCEFJL	普通	にぶい黄橙	85		
103	甕	(19.4)	34.8	5.4	CJL	普通	にぶい黄褐	60		外面やや磨耗
104	甕	(17.0)	—	6.2	BCEJL	普通	にぶい褐	40		外面やや磨耗
105	甕	16.6			ABCEJL	普通	灰黄褐	70		
106	甕	13.6			BEJL	普通	灰褐	70		やや歪みあり 外面ヘラケズリ後ナデ
107	甕			5.8	ABCEJ	不良	灰褐	70		磨耗著しい
108	甕	19.2			BEJL	普通	にぶい黄橙	40		
109	甕	(17.6)			BDEJL	普通	橙	20		外面やや磨耗
110	甕	(22.6)	30.3	9.0	BEJL	普通	橙	60		器形やや歪みあり 内外面磨耗著しい
111	甕	18.3	30.7	7.4	BCEJL	普通	にぶい黄橙	90		器形の歪み大きい
112	甕	(19.6)			BDJL	普通	にぶい橙	40		
113	甕	(17.8)			BFJ	普通	橙	30		外面やや磨耗
114	壺			10.8	BEJL	普通	橙	60		
115	甕	(18.6)	—	6.8	ABCJL	普通	にぶい黄橙	60		外面やや磨耗
116	甕	(18.2)			BCJL	普通	にぶい褐	70		
117	甕	(17.6)			CJL	普通	灰黄褐	70		
118	甕	(18.0)			CEJL	普通	灰褐	60		



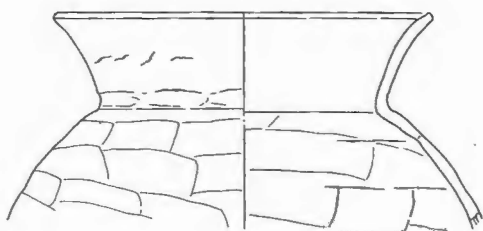
第171図 第234号住居跡出土遺物(5)



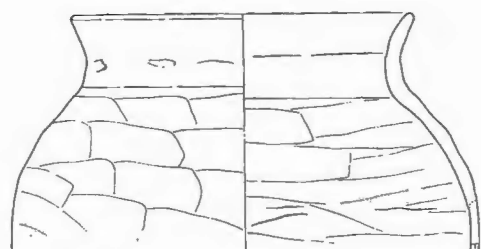
110



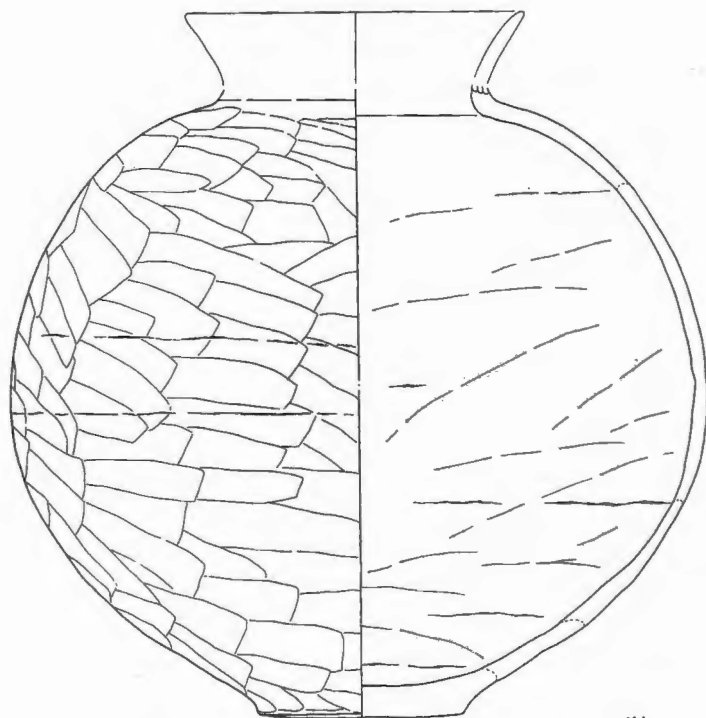
111



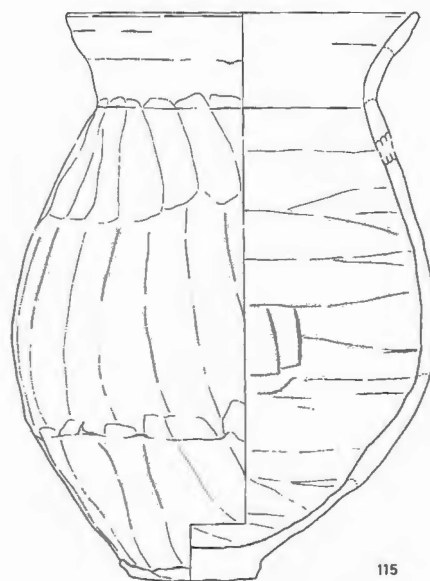
112



113



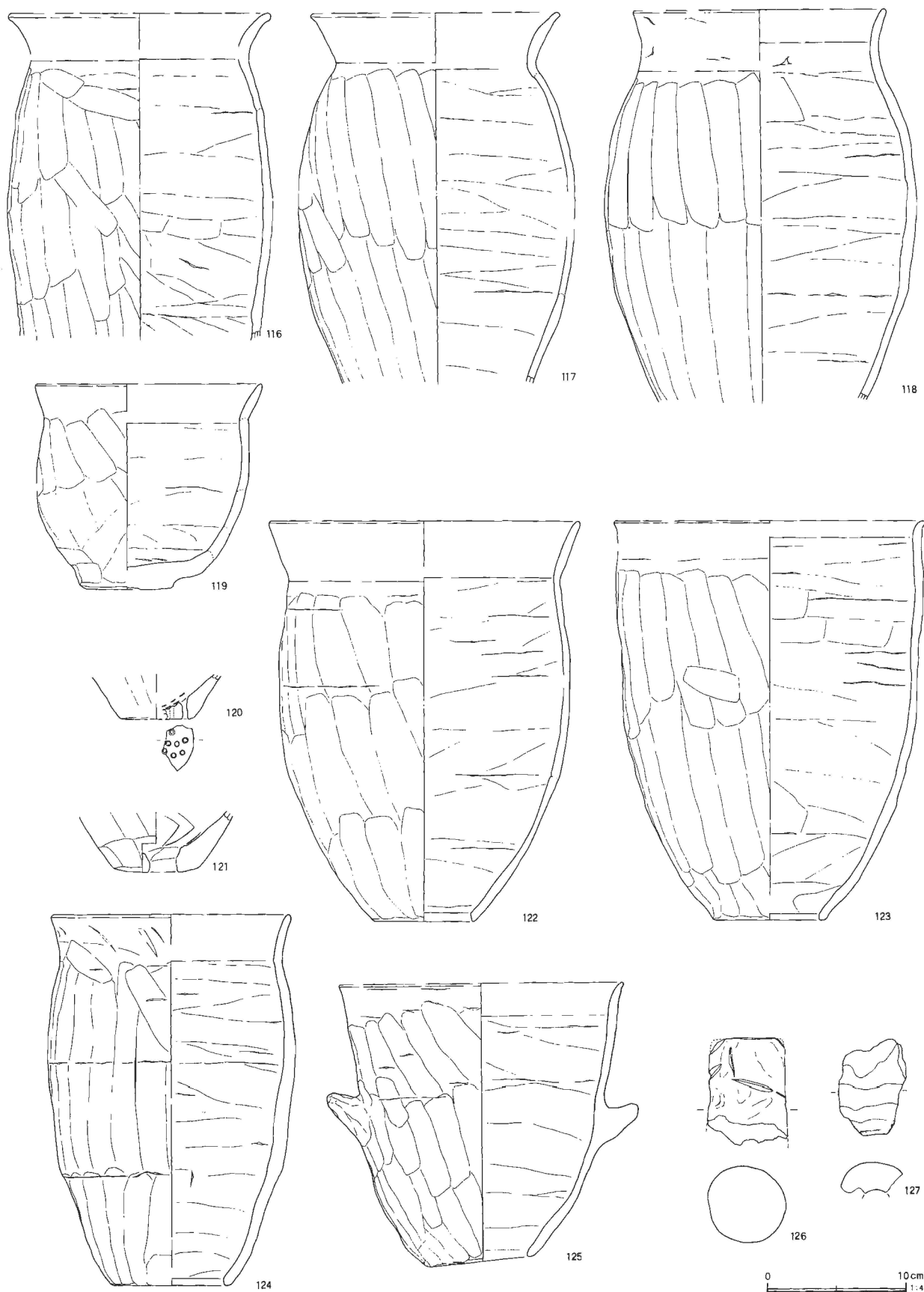
114



115



第172図 第234号住居跡出土遺物(6)



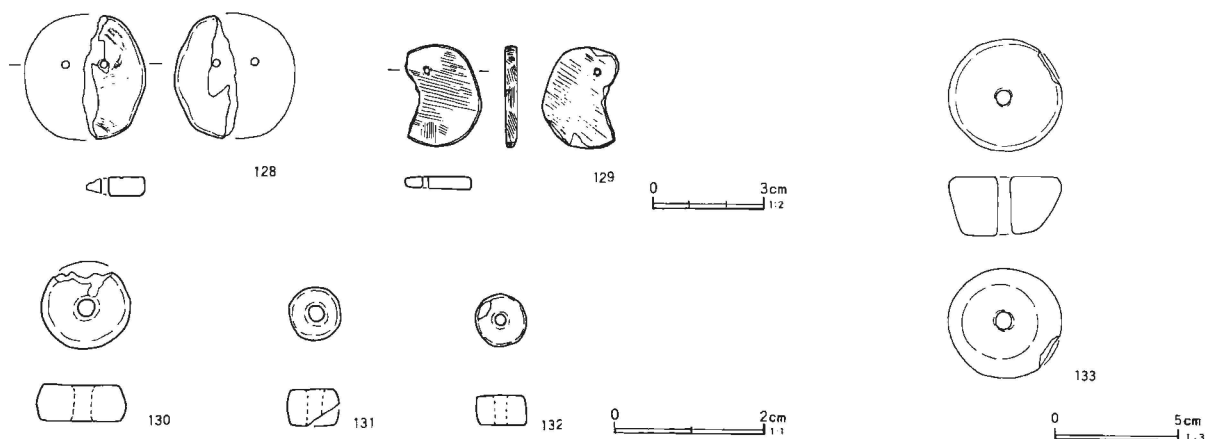
第173図 第234号住居跡出土遺物(7)

第238号住居跡 (第164・165図)

N-18グリッドに位置する。第234号住居跡を切り、第237号住居跡に切られる。第235・236号住居跡との関係は不明である。カマド部分のみの検出で、住居跡の規模等は不明である。主軸方位はN-109°

—Wを指す。

カマドは西壁に設置されたと考えられ、長さ85cm、幅65cm、深さ25cmが検出された。カマド先端から土師器壺が出土したが、第234号住居跡出土遺物と接合した (第172図114)。



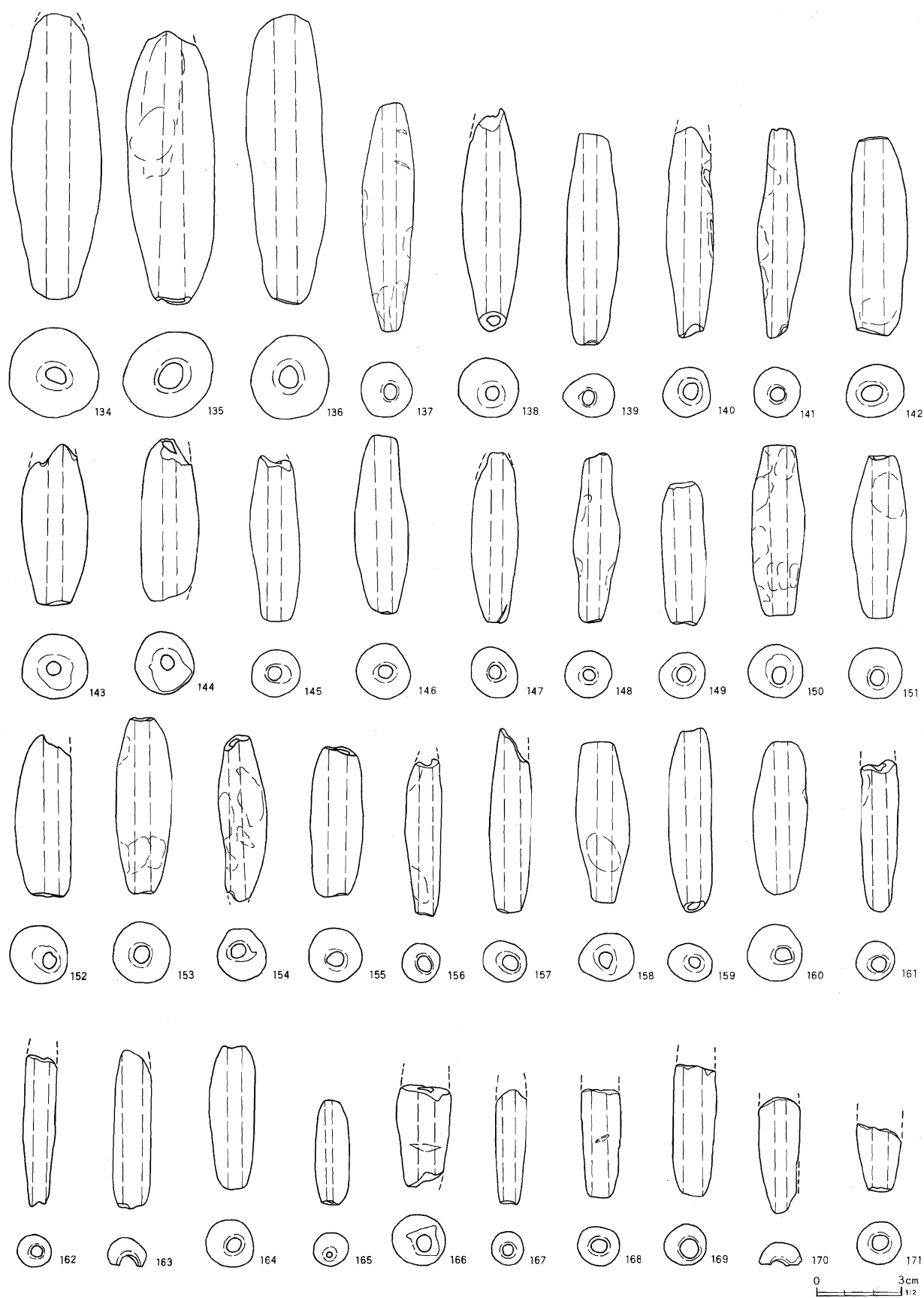
第174図 第234号住居跡出土遺物(8)

第234号住居跡出土遺物観察表 (第173・174図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
119	小型甕	(15.9)	14.7	6.6	BCJL	不良	にぶい橙	40		歪み大 外面磨耗著しい
120	甕			(5.2)	AB	普通	にぶい橙	20		多孔
121	甕			6.0	ABDH	良好	にぶい赤褐	60		雑な作り 孔は偏る 孔径2.1cm
122	甕	(22.0)	28.5	(7.0)	BCJL	不良	浅黄橙	40		内外面磨耗著しい
123	甕	(22.0)	28.3	(8.0)	BCDJL	普通	にぶい橙	60		
124	甕	(17.0)	26.3	(7.6)	BCJL	普通	橙	60		器形歪み大きい
125	甕	(20.2)	20.0	7.0	CEJL	普通	にぶい黄橙	60		
126	支脚				BEJL	普通	橙	50		直径約5cm
127	羽口	残存長6.8cm 幅4.4cm 厚さ2.2cm 孔径(2.2)cm						40		重さ58.17g SJ229覆土・炉跡から混入か
128	石製模造品	直径3.20cm	厚さ0.50cm	孔径0.20cm	重さ4.27g			40		滑石製 有孔円板
129	石製模造品	長さ2.60cm	幅2.00cm	厚さ0.35cm	孔径0.15cm			95		滑石製 勾玉 重さ3.45g
130	白玉	直径1.15cm	厚さ0.50cm	孔径0.30cm	重さ0.84g			90		滑石製 一部欠損
131	小玉	直径0.70cm	厚さ0.50cm	孔径0.20cm	重さ0.29g			80		滑石製 一部欠損
132	小玉	直径0.65cm	厚さ0.40cm	孔径0.15cm	重さ0.35g			95		滑石製 わずかに欠損
133	土製紡錘車	長径4.5cm	短径3.0cm	ABC	普通	にぶい橙		95		厚さ2.30cm 孔径0.65cm 重さ45.23g

第234号住居跡出土土錘観察表 (第175図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
134	10.00	3.20	0.80	(87.97)	Cb	にぶい橙	95	N18G Na26
135	9.55	3.35	1.00	(82.16)	Ca	にぶい黄橙	95	N18G Na93
136	10.20	3.00	0.80	78.75	Ba	明褐	100	A区
137	8.00	1.95	0.55	24.93	Ca	にぶい黄褐	100	D区
138	(7.80)	2.10	0.50	(28.83)	Cb	浅黄	95	C区
139	7.40	1.85	0.50	(19.45)	Ca	にぶい黄橙	95	C区
140	(7.40)	1.80	0.60	(19.06)	Ca	明赤褐	95	D区
141	7.40	1.30	0.50	15.19	Ca	黒褐	100	SJ234・235C区
142	6.95	2.00	0.70	27.50	Cb	にぶい褐	100	N19G
143	(5.70)	2.30	0.55	(27.68)	Cb	灰黄褐	90	D区
144	5.80	2.20	0.50	(24.25)	Ca	黒褐	70	B区
145	(5.90)	1.75	0.50	(17.53)	Cb	黒褐	95	N19G
146	6.35	1.95	0.50	22.56	Ca	黒褐	100	SJ235・236



第175図 第234号住居跡出土遺物(9)

第234号住居跡出土土錘観察表 (第175図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
147	6.05	1.90	0.45	(15.70)	Ca	褐灰	90	M18G
148	6.05	1.70	0.45	13.15	Ca	にぶい橙	100	M18G
149	5.10	1.65	0.55	13.75	Ba	にぶい褐	100	N19G 砂粒目立つ
150	6.10	1.90	0.60	23.27	Cb	黒	100	SJ235・236
151	5.80	1.90	0.55	18.34	Ca	にぶい褐	100	SJ235・236
152	5.70	2.00	0.45	(22.31)	Cb	黒	95	SJ235・236 砂粒目立つ
153	6.25	2.10	0.60	27.29	Ca	黒褐	100	SJ237・238
154	5.90	1.80	0.55	(14.46)	Ca	赤褐	95	A区
155	5.30	1.90	0.60	18.57	Ca	黒	100	SJ235・236 砂粒目立つ
156	(5.55)	1.35	0.55	(7.99)	Ca	にぶい黄橙	90	C区
157	6.95	1.60	0.55	(11.48)	Ca	褐灰	90	D区
158	5.70	1.95	0.55	17.24	Cb	にぶい褐	100	SJ237・238
159	6.50	1.60	0.45	13.54	Ba	にぶい橙	100	SJ235・236
160	5.40	2.00	0.55	19.51	Ca	黒褐	100	SJ237・238
161	(5.40)	1.35	0.50	(8.37)	Ca	橙	75	C区
162	(5.30)	1.20	0.40	(5.42)	Ba	橙	80	D区
163	5.55	1.35	0.65	(7.03)	Ba	にぶい褐	50	N18・2G
164	5.10	1.75	0.55	14.93	Ca	黒褐	100	SJ237・238
165	3.20	1.20	0.20	4.27	Ba	浅黄橙	100	D区 胎土がキメ細かい
166	(3.60)	1.90	0.60	(11.70)	Ca	明赤褐	50	
167	(4.10)	1.15	0.40	(4.01)	Ba	にぶい黄橙	65	No46
168	(3.90)	1.45	0.55	(7.17)	Ba	褐灰	55	D区
169	(4.60)	1.55	0.65	(9.77)	Ba	にぶい赤褐	70	SJ235・236 砂粒目立つ
170	(4.10)	(1.45)	0.40	(4.56)	Ca	明褐	25	SJ235・236
171	(2.40)	1.55	0.55	(3.88)	Ca	橙	30	SJ235・236

第239号住居跡 (第176・177図)

M-20グリッドに位置する。第240・547号住居跡を切る。遺構確認段階では平面プランやカマドが不明瞭で、第240号住居跡と同一の住居跡として調査を始め、途中で2軒と判明した。また、用地の関係で2年度に分かれて調査された。平面形は南北に僅かに長い長方形で、長軸5.02m、短軸4.26m、深さは0.41~0.60mである。主軸方位はN-126°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は大きく1層で、埋め戻されたか、一度に埋まった可能性がある。

カマドは西壁中央よりやや南に設置される。煙道部付近の上層は攪乱で壊されていた。燃烧部は床面を10cmほど掘り下げ、覆土には灰層が明瞭に観察された。貯蔵穴は南西コーナーに設けられ、74×54cmの隅丸長方形で、深さは14cmである。カマド側に深さ24cmのピットがある。壁溝は南壁から北東コーナーまで検出され、幅17~31cm、深さは4~7cmで

ある。

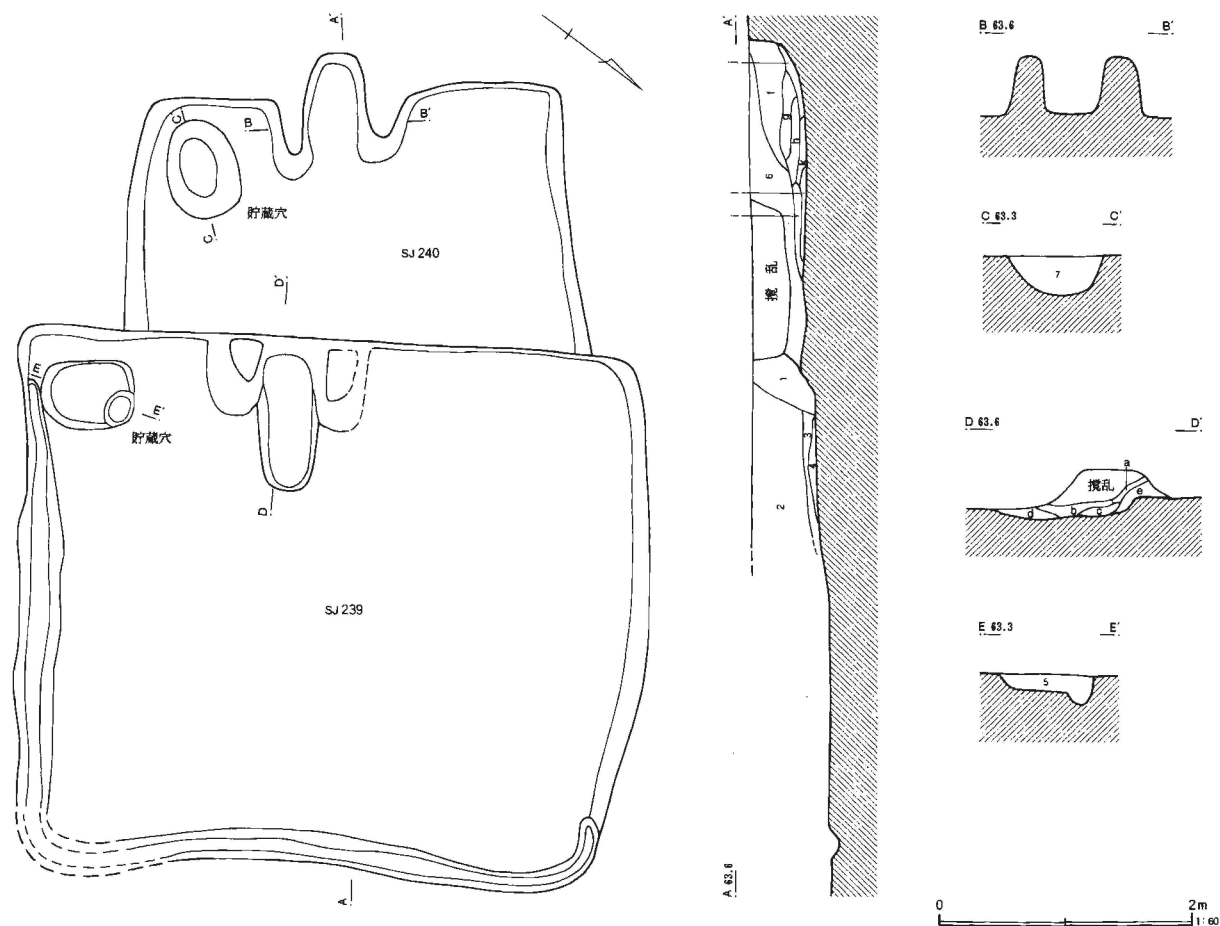
第240号住居跡と混じり合ってしまったが、多量の遺物が出土した。何れも小片で磨耗が激しく、接合率は悪い。須恵器は甕、土師器は坏・甕が認められる。

第240号住居跡 (第176・178図)

M-19・20に位置する。第239号住居跡に切られる。規模は西壁が3.58m、北壁は2.12m検出された。深さは0.37~0.46mである。主軸方位はN-121°-Wを指す。

床面はやや起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。カマドは西壁中央に設置される。燃烧部の掘り込みはなく、煙道部は急激に立ちあがる。貯蔵穴はカマド左に設けられ、78×56cmの楕円形で、深さは31cmである。壁溝・ピットは検出されなかった。

遺物は第239号住居跡からの混入もあると考えられるが、本住居跡には赤彩された土器が見られる。



SJ 239

- | | | |
|---|------------------|--------------------|
| 1 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | カマド袖構築土 炭化粒子・焼土粒子少 |
| 2 | 黒褐色 (10YR3/2) | 黄褐色粒子多 焼土粒子少 |
| 3 | 暗褐色 (10YR3/3) | 焼土粒子多 炭化粒子少 |
| 4 | 褐色 (10YR4/4) | 焼土粒子・炭化粒子微 |
| 5 | 褐色 (10YR4/4) | 焼土粒子・炭化粒子少 小礫 |

SJ 239 カマド

- | | | |
|---|------------------|--------------|
| a | 暗赤褐色 (5YR3/4) | 焼土層 多量の暗褐色土多 |
| b | 暗褐色 (10YR3/4) | 焼土粒子・焼土ブロック多 |
| c | 黒褐色 (10YR3/2) | 灰層 焼土少 |
| d | 暗褐色 (10YR3/3) | 焼土粒子・灰粒子多 |
| e | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 炭化粒子少 |

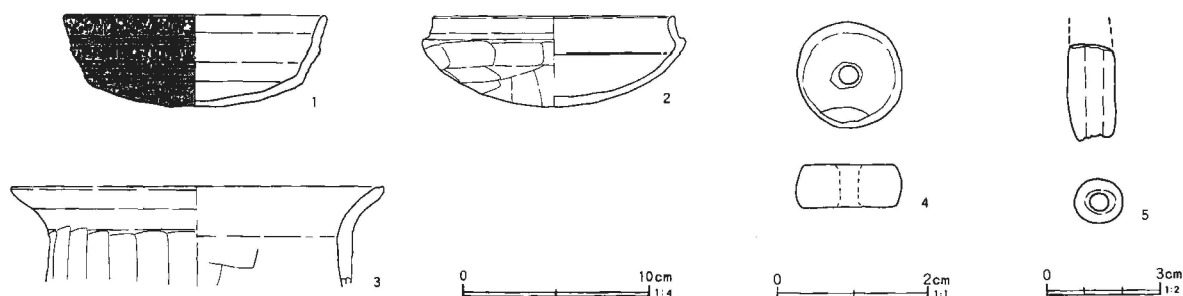
SJ 240

- | | | |
|---|------------------|------------|
| 6 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 炭化粒子少 |
| 7 | 暗褐色 (10YR3/4) | 焼土粒子・炭化粒子少 |

SJ 240 カマド

- | | | |
|---|------------------|---------------|
| f | 暗褐色 (10YR3/3) | 少量の炭化粒子・焼土粒子少 |
| g | 暗褐色 (10YR3/3) | f層に似るが焼土混入多 |
| h | 暗褐色 (10YR3/3) | 焼土粒子・焼土ブロック多 |
| i | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 焼土粒子・炭化粒子多 |
| j | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 炭化粒子少 |
| k | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 焼土粒子多 |
| l | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 炭化粒子少 |

第176図 第239・240号住居跡



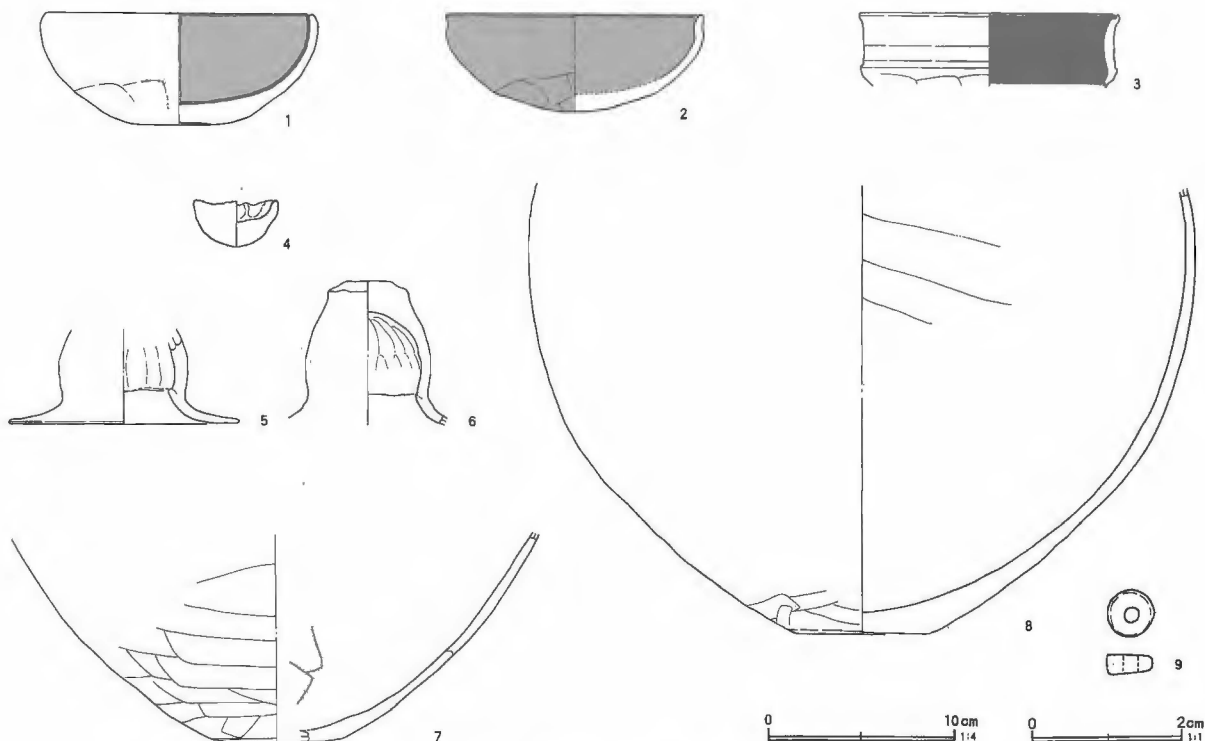
第177図 第239号住居跡出土遺物

第239号住居跡出土遺物観察表（第177図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	坏	13.4	4.8		ABCDEF	普通	明赤褐	45	覆土	外面黒色処理 やや磨耗
2	坏	(12.6)	4.7		ABCDE	普通	赤褐	45	B区	外面磨耗
3	甕	19.6			ACEF	普通	にぶい黄橙	70	覆土	口縁端部磨耗
4	白 玉	直径1.40cm 厚さ0.60cm 孔径0.25cm 重さ2.04g						95	覆土	滑石製

第239号住居跡出土土鍾観察表（第177図）

番号	長 さ	径	孔 径	重さ(g)	分 類	色 調	残 存	備 考
5	(2.55)	1.25	0.45	(2.92)	Ba	暗灰黄	50	



第178図 第240号住居跡出土遺物

第240号住居跡出土遺物観察表（第178図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	埴	(14.0)	5.3	3.6	ACEFJ	不良	橙	50	A区	内外面磨耗・剥落 内面赤彩
2	埴	(13.4)	5.2		BCE	不良	にぶい橙	40	覆土	内外面赤彩 磨耗・剥落著しい
3	坏	(13.6)			BCFJ	良好	にぶい黄褐	10	覆土	内面赤彩 剥落著しい
4	手捏ね	4.3	2.4		BCE	普通	にぶい黄褐	95	A区	
5	高 坏			(12.0)	BCEF	不良	にぶい褐	40	覆土	磨耗著しい
6	高 坏				BCD	普通	明赤褐	40	A区	磨耗著しい
7	甕			(6.9)	BCEFJ	普通	にぶい黄橙	40	覆土	やや磨耗
8	甕			(7.2)	ABCEF	不良	にぶい橙	20	A区	内外面磨耗・剥落著しい
9	小 玉	直径0.60cm 厚さ0.30cm 孔径0.20cm 重さ0.17g						100	覆土	滑石製

第241号住居跡（第179・180図）

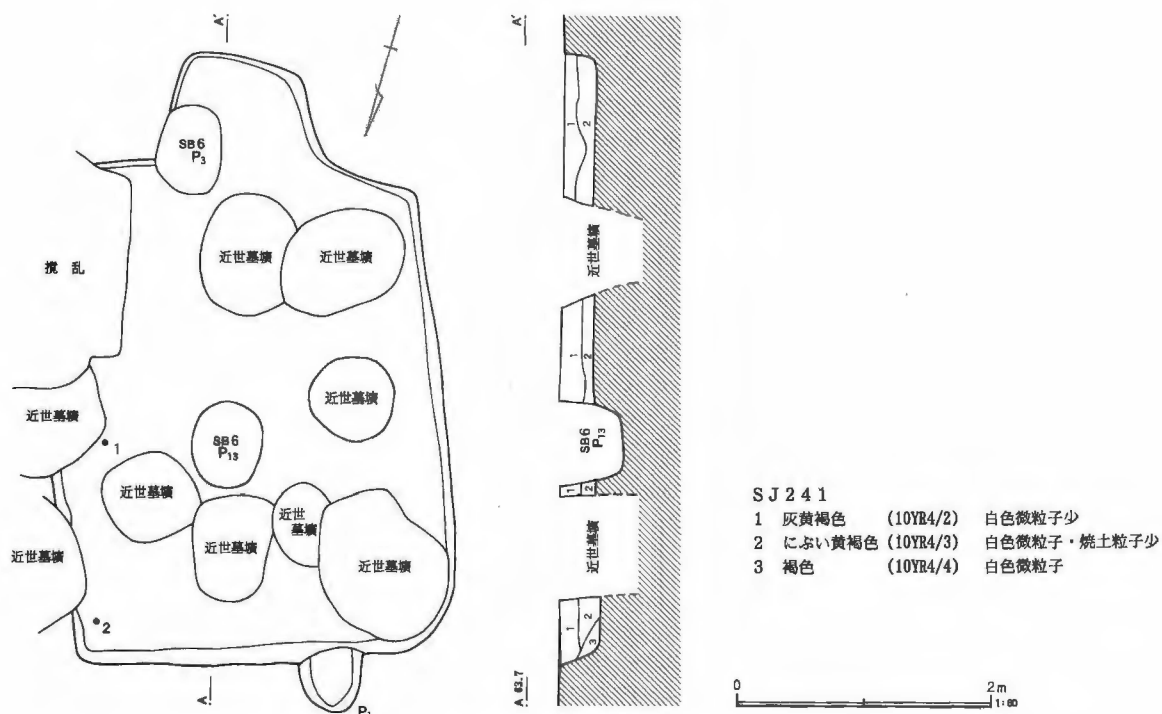
N・O-20グリッドに位置する。第6号掘立柱建物跡と9基の近世墓墳に切られ、南東コーナーを攪乱に壊される。平面形は南北に長い長方形で、長軸4.05m、短軸3.17m、深さは0.25～0.30mである。主軸方位はN-20°-Wを指す。

床面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

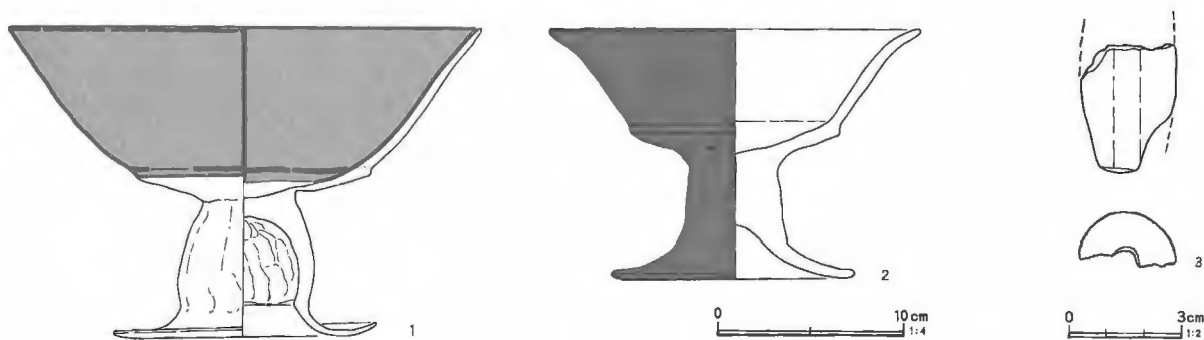
カマド・貯蔵穴は検出されなかった。南壁中央に

135×80cmの台形状の張り出しが検出された。ピットは北壁に1本検出されたが本住居跡に伴うかどうかは判断できなかった。深さは20cmである。

遺物はやや多く出土したが、図示した高坏以外は形にならなかった。須恵器は甕胴部が7片あるが、全て別個体とみられる。土師器には坏・甕・高坏が認められる。



第179図 第241号住居跡



第180図 第241号住居跡出土遺物

第241号住居跡出土遺物観察表（第180図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	高坏	24.9	16.4	13.9	ABEJL	不良	橙	90	床	坏部内外面赤彩 器壁薄く磨耗著しい
2	高坏	19.6	13.2	12.8	BCDEJL	不良	橙	90	床	外面赤彩 内外面磨耗著しい

第241号住居跡出土土錘観察表 (第180図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
3	(3.4)	(2.50)	(0.70)	(8.83)	Ca	明褐	20	A区(西半分)

第242号住居跡 (第181・182・183図)

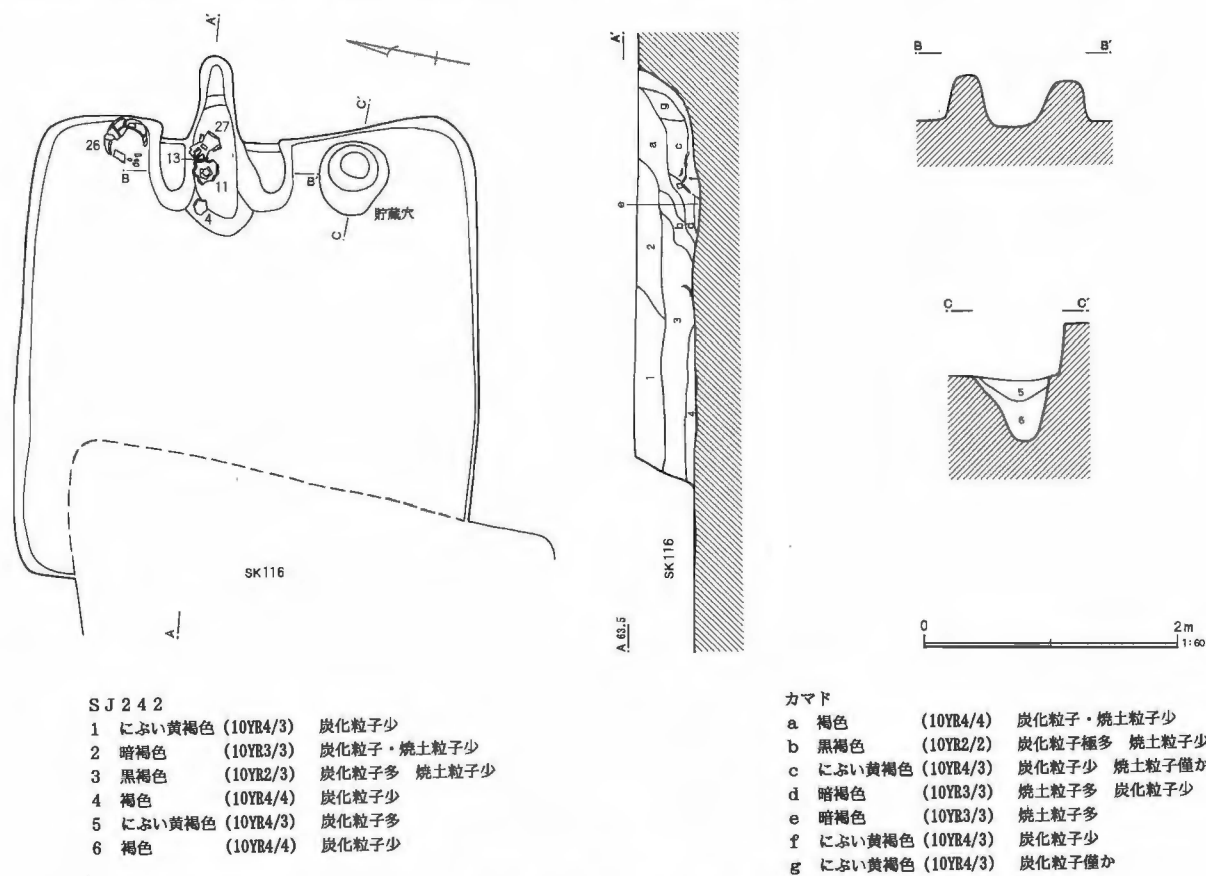
O-18グリッドに位置する。南西コーナーから西壁にかけて第116号土坑に壊される。平面形は正方形で、一辺が3.65m前後、深さは0.42~0.48mである。主軸方位はN-79°-Eを指す。

床面はやや起伏があり、第116号土坑の底面との高低差は見られない。壁は開き気味に立ち上がる。

カマドは東壁中央よりやや北に設置される。燃烧部は床面を10cmほど掘り込み、覆土には焼土粒子・

炭化粒子を含む。貯蔵穴はカマド右に設けられ、60×54cmの楕円形に近く、深さは46cmである。壁溝、ピットは検出されなかった。

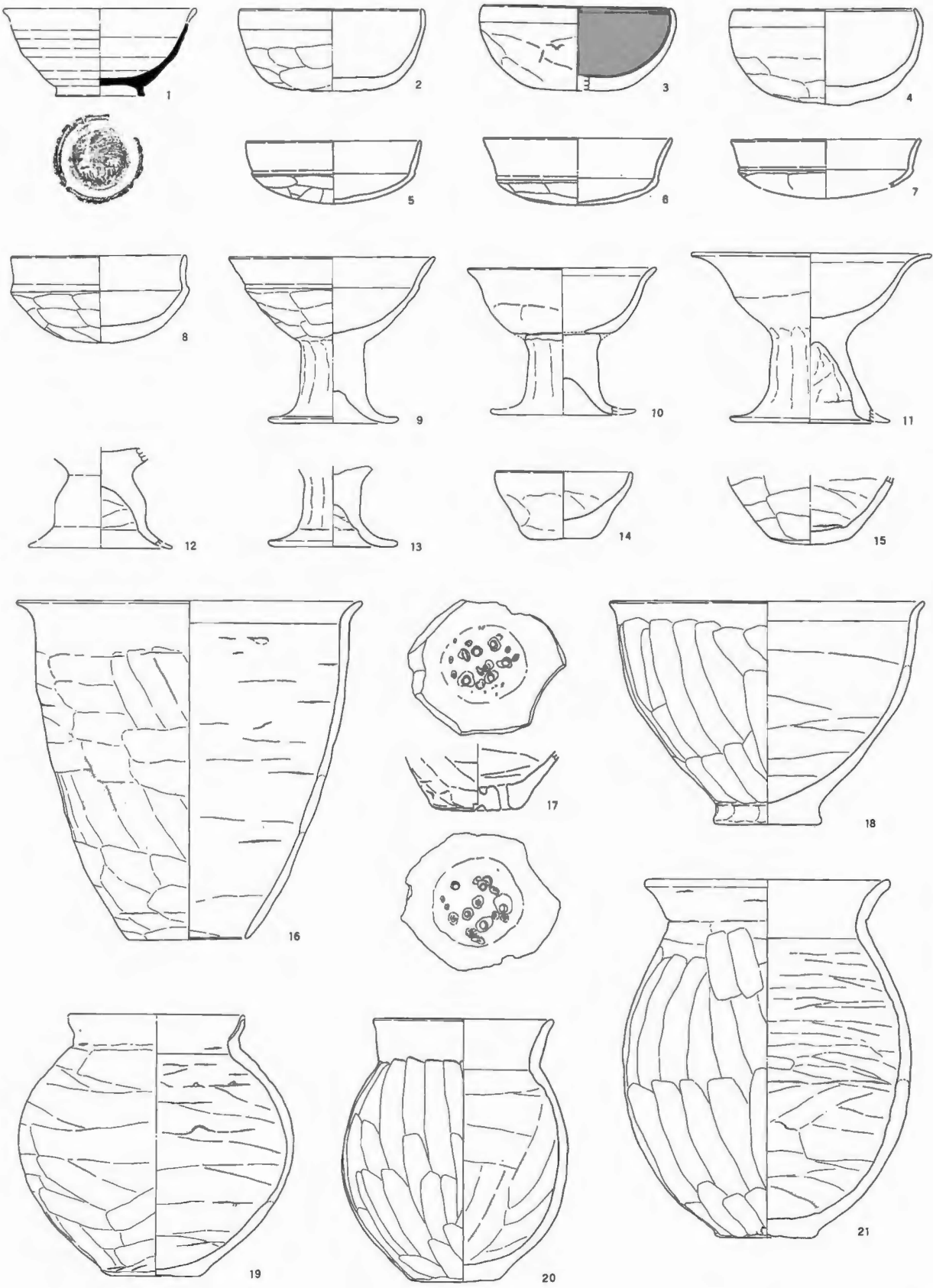
遺物は多量に出土したが、他の遺構からの混入もあるようである。接合率は良い方である。須恵器は小片少量で、蓋・坏・甕が認められる。図示した高台付坏は混入したものであろう。土師器の器種は図示した程度と思われるが、甕はこれ以外に5~6個体が見られる。



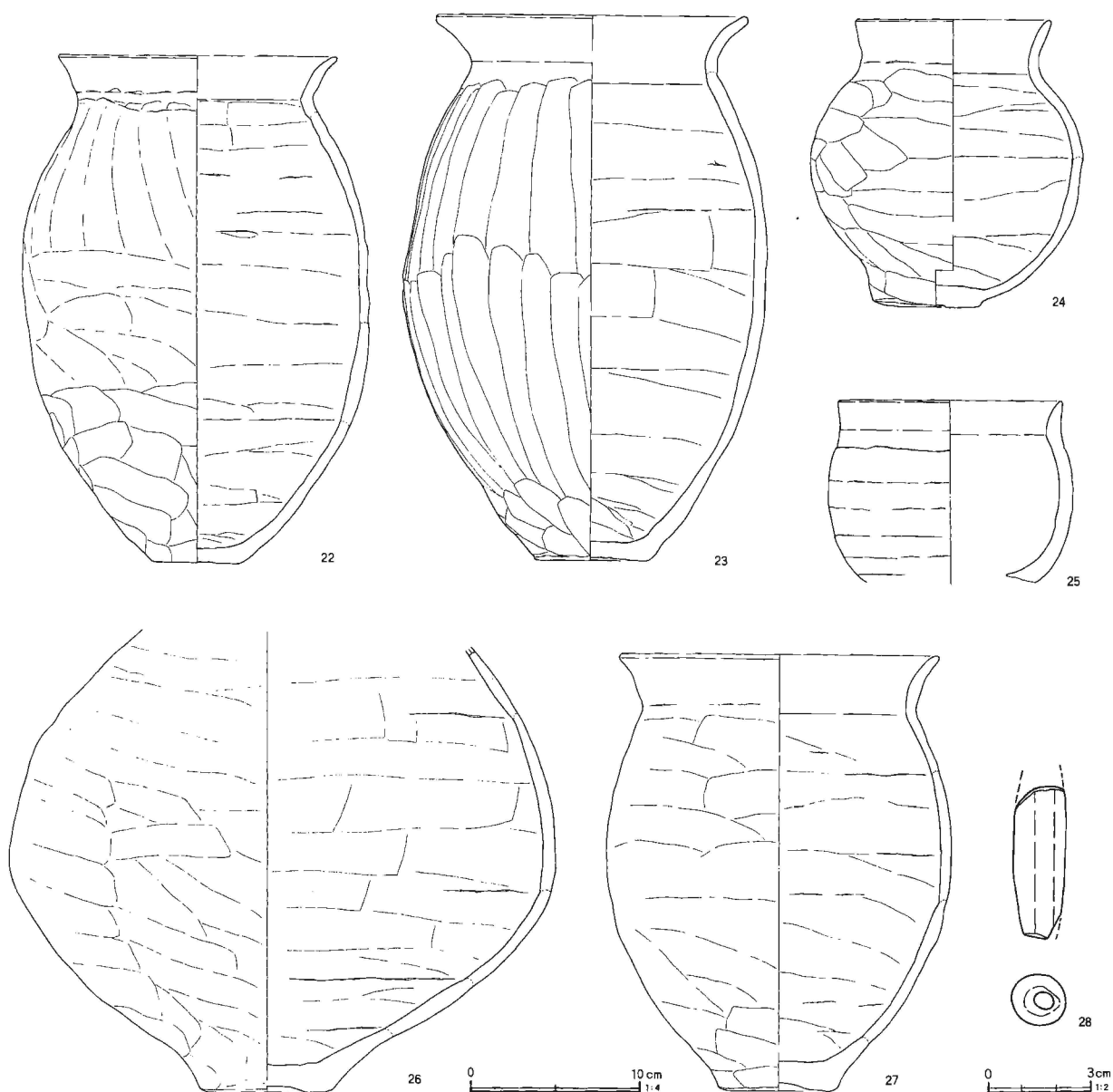
第181図 第242号住居跡

第242号住居跡出土遺物観察表 (第182図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	高台付 埴			6.2	ABJL	良好	灰	60	B区	末野産 重量がある
2	埴	(12.6)	5.6		BCEJL	不良	橙	70	A区	内外面磨耗著しい
3	坏	(13.0)	5.7		BEJL	不良	にふい橙	40	B区	内面黒色化 外面磨耗著しい
4	埴	12.6	6.7		BEJL	不良	橙	80	+ 3 cm	内外面やや磨耗
5	坏	(12.0)	4.4		BCEJL	不良	にふい橙	75	A・B区	
6	坏	13.0	4.7		ADEJL	不良	にふい橙	60	B区	内外面やや磨耗



第182図 第242号住居跡出土遺物(1)



第183図 第242号住居跡出土遺物(2)

第242号住居跡出土遺物観察表 (第182図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
7	坏	(13.0)			ABEJL	不良	にぶい橙	25	A区	
8	坏	12.0	6.0		BEJL	不良	にぶい褐	80	カマド	外面やや磨耗
9	高坏	(14.1)	11.4	(9.0)	BEJL	不良	橙	40	貯蔵穴	器形の歪み大
10	高坏	(13.0)			ABJL	不良	にぶい橙	60	B区	内外面磨耗著しい
11	高坏	(16.6)	12.3	(11.0)	BEJL	不良	にぶい橙	75	カマド	器形の歪み大 内外面磨耗著しい
12	高坏			9.0	BEJL	不良	橙	100	床	内外面磨耗著しい
13	高坏				ABEJL	不良	にぶい橙	80	カマド	内外面磨耗著しい
14	小型鉢	9.3	4.7	4.7	BCEJL	不良	橙	80	貯蔵穴	外面やや磨耗
15	甕			5.6	ABCJL	不良	にぶい橙	80	B区	内外面磨耗著しい
16	甕	23.9	23.6	8.0	BEJL	不良	橙	95	カマド	内外面磨耗著しい
17	鉢			6.0	BJL	普通	にぶい橙	90	B区	多孔 5ヶ所貫通
18	鉢	(21.6)	15.6	7.4	BCEJL	不良	にぶい橙	50	A区	内外面やや磨耗
19	甕			7.0	BEJL	不良	橙	65	B区	外面上半やや磨耗
20	甕	12.5	18.2	6.5	BEJL	普通	にぶい黄橙	80	B区	

第242号住居跡出土遺物観察表（第182・183図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
21	甕	(16.6)	24.6	6.8	BEJL	普通	にぶい褐	60	B区	器形やや歪む 内外面磨耗著しい 輪積痕明瞭 内外面磨耗著しい 内外面磨耗著しい
22	甕	16.2	29.6	5.1	BCEJL	普通	にぶい黄橙	85	B区	
23	甕	18.0	31.8	6.6	ABEJL	普通	にぶい黄橙	70	B区	
24	甕	11.2	16.8	6.2	BEJL	不良	橙	70	A・B区	
25	鉢	(13.0)			BDEJL	不良	橙	30	A・B区	
26	甕			7.8	BEJL	不良	にぶい黄橙	70	床	
27	甕	(18.4)	25.6	(7.0)	BEJL	不良	橙	40	カマド	

第242号住居跡出土土錘観察表（第183図）

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ (g)	分 類	色 調	残 存	備 考
28	(4.50)	1.55	0.55	(9.58)	Ba	にぶい褐	55	B区

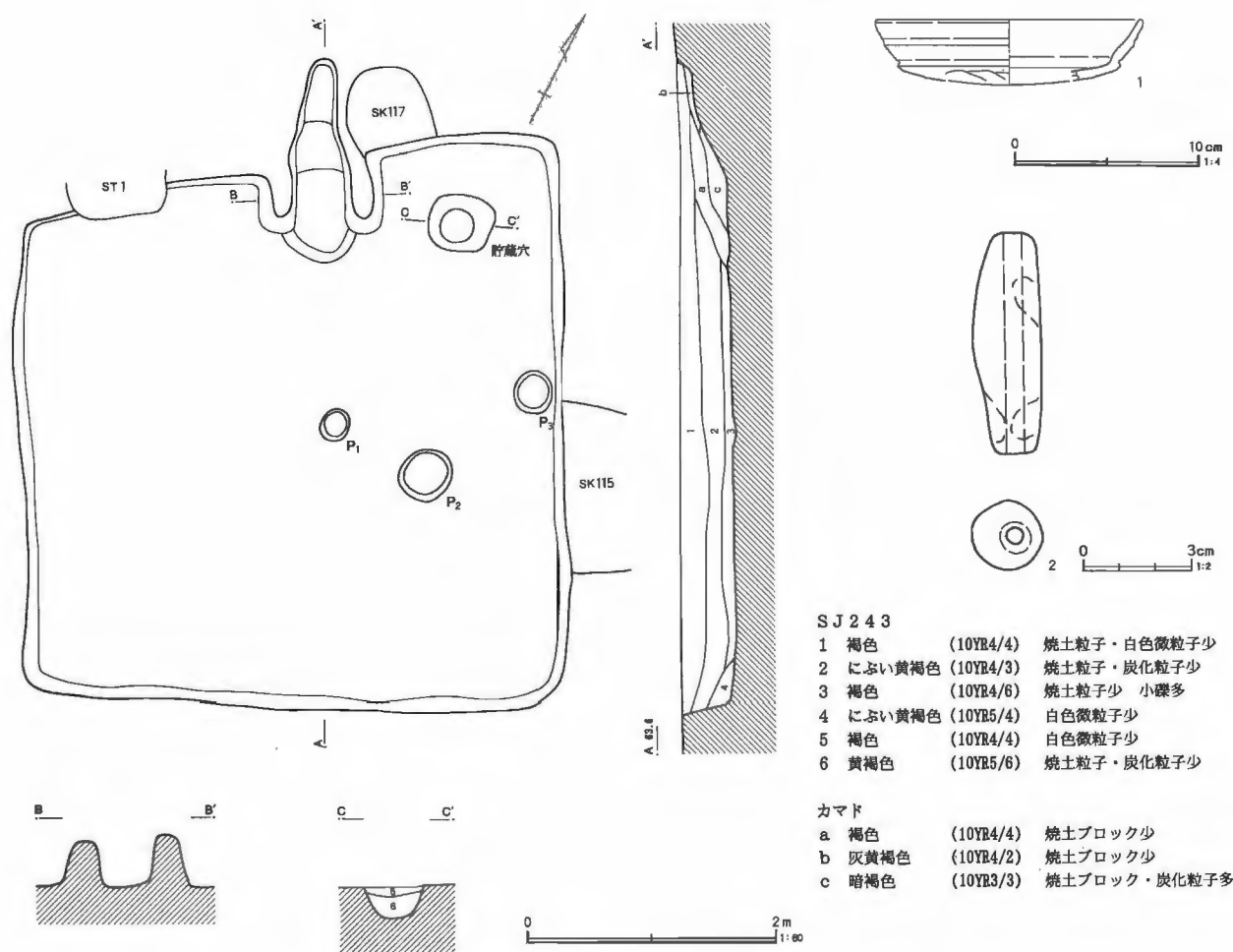
第243号住居跡（第184図）

O・P-18グリッドに位置する。カマド左の北壁を第1号墓墳に切られる。第115・117号土坑との新旧関係は不明である。平面形は東壁が長く、西壁がやや短い台形に近く、長軸4.63m、短軸4.39m、深

さは0.38m前後である。主軸方位はN-65°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

カマドは北壁中央よりやや東に設置される。燃烧部は床面を5cm程度掘り込み、緩やかな段を持って



第184図 第243号住居跡・出土遺物

煙道部へ続く。覆土には焼土ブロックが観察された。
貯蔵穴はカマド右に設けられ56×46cmの隅丸正方形で、深さは48cmである。壁溝は検出されなかった。
ピットは3本検出され、P1～P3の深さは9cm、

11cm、14cmである。

遺物は少量で、小片で磨耗が著しく、接合率は悪い。須恵器は坏が7片のみで、土師器には坏・甕が認められる。

第243号住居跡出土遺物観察表 (第184図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(14.1)			ABDE	普通	灰黄褐	15	B区	磨耗著しい

第243号住居跡出土土錘観察表 (第184図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
2	6.00	1.90	0.45	20.05	B'b	浅黄	100	A区

第244号住居跡 (第185・186・187図)

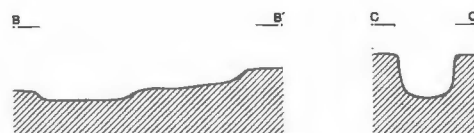
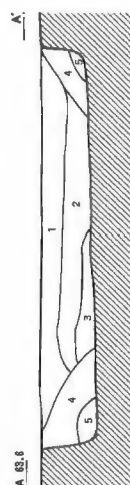
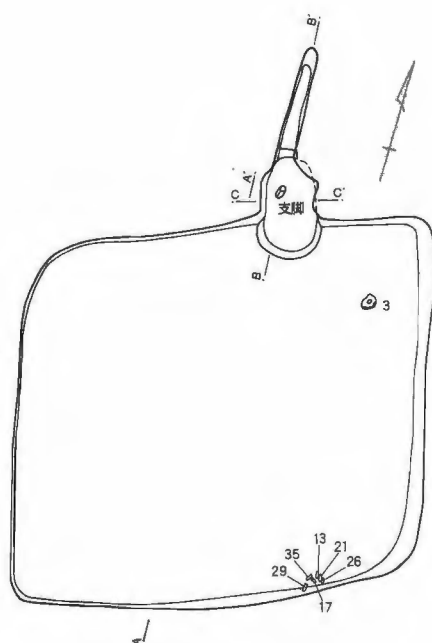
N-18グリッドに位置する。第245・248号住居跡を切る。平面形は東西に僅かに長い長方形だが、やや歪む。長軸3.32m、短軸3.02m、深さは0.25～0.37mである。主軸方位はN-20°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は5層に分けられ、全体に炭化粒子を含んでいる。

カマドは北壁中央より東に設置される。燃烧部は

床面を10cm程掘り込み、緩やかな段を持って細長い煙道部へ続く。煙道部は先端を東に振って検出された。燃烧部からは川原石を利用した支脚が検出された。貯蔵穴、壁溝は検出されなかった。

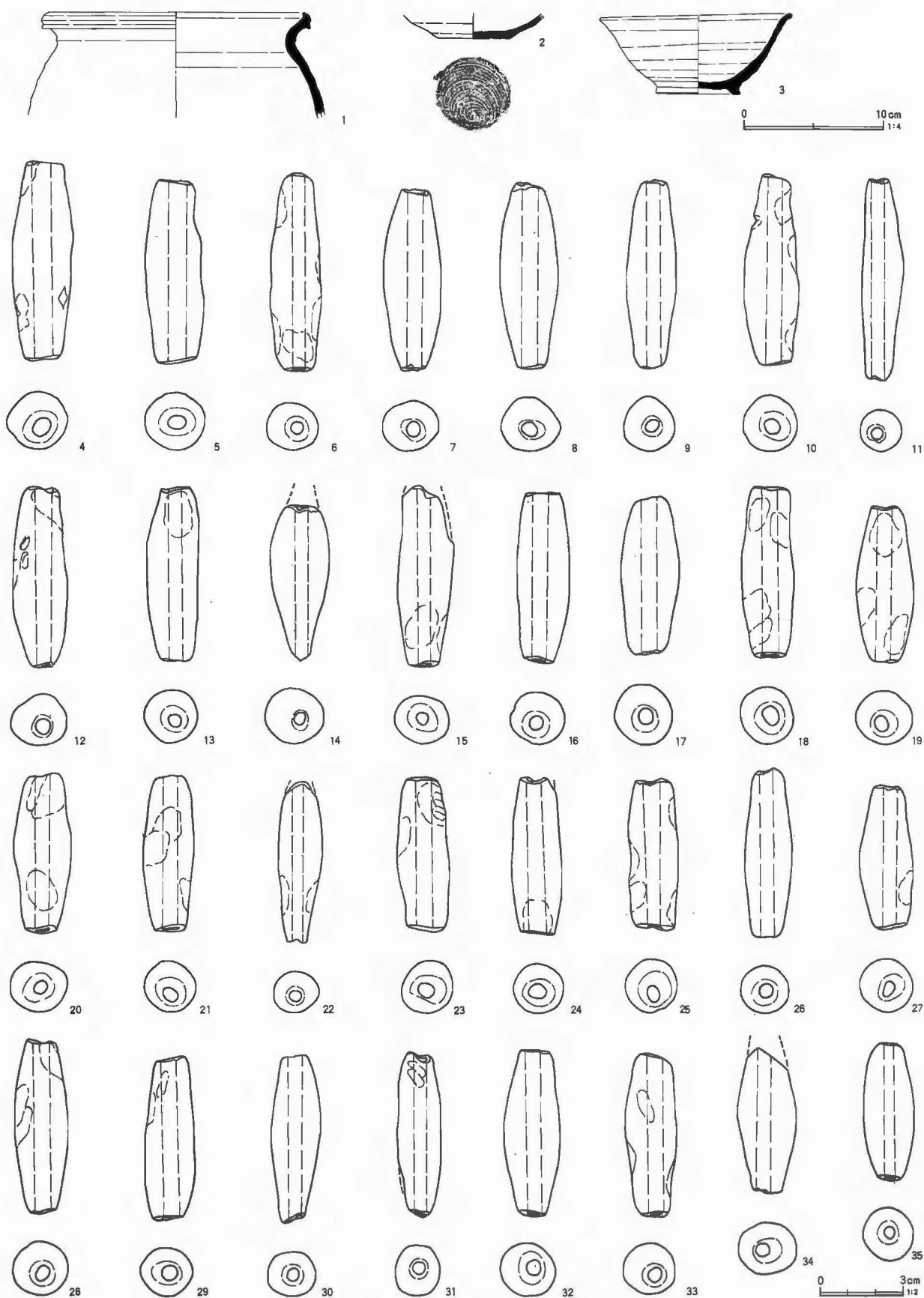
遺物はやや多く出土したが、周辺からの混入も考えられ、接合率は悪い。須恵器の破片は少量で、図示した以外にも蓋・坏・甕が認められる。土師器では坏片が少なく、甕片が多く見られる。また、土錘が破片も含めて46点出土した。



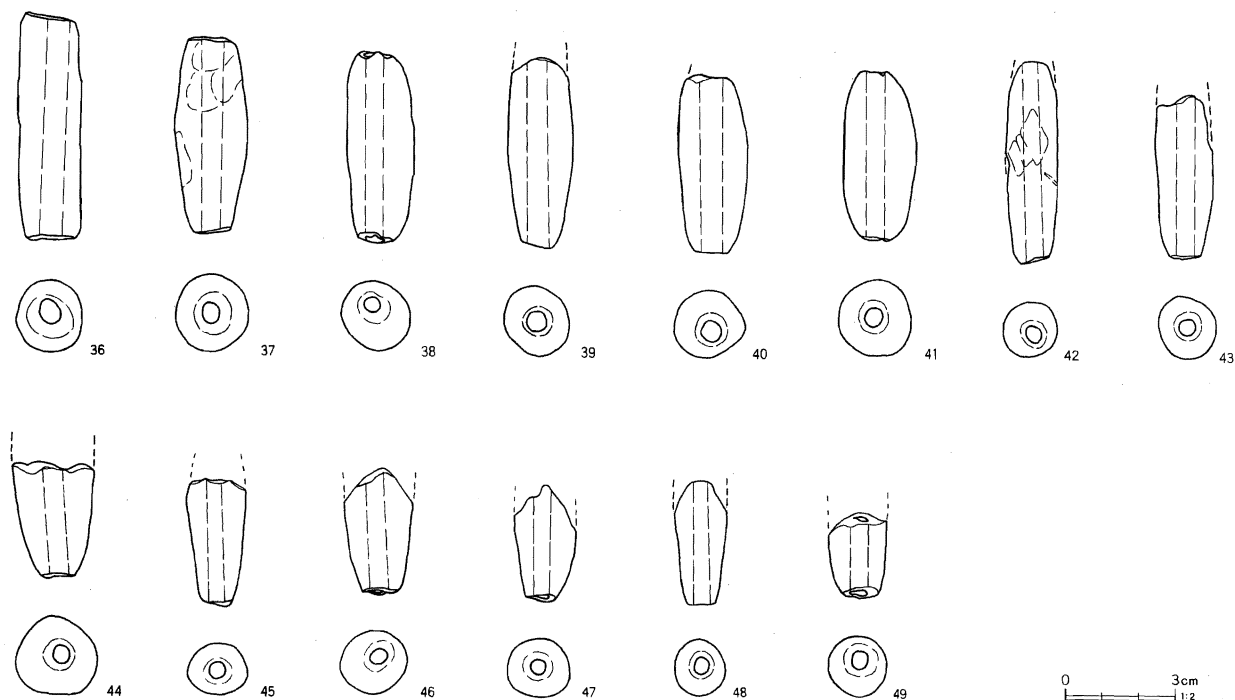
- SJ244
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 炭化粒子少 焼土粒子僅か
 - 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子少
 - 3 にふい黄褐色 (10YR4/3) 2層に似るが褐色ブロック混入
 - 4 暗褐色 (10YR3/3) 炭化粒子多 焼土粒子僅か
 - 5 暗褐色 (10YR3/3) 炭化粒子極多

0 2m 1:60

第185図 第244号住居跡



第186図 第244号住居跡出土遺物(1)



第187図 第244号住居跡出土遺物(2)

第244号住居跡出土遺物観察表 (第186図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	鉢	(18.0)			ABCD	良好	黄灰	15	B区	末野産 角閃石多し
2	環			5.1	BCJ	良好	灰	70	B区	末野産
3	高台付環	13.3	5.8	5.7	BCFJ	不良	黄灰	70	床	末野産

第244号住居跡出土土錘観察表 (第186図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
4	7.00	2.15	0.70	30.86	Bb	灰褐	100	B区
5	6.40	2.10	0.65	25.92	Cb	にふい褐	100	B区
6	6.90	1.85	0.45	22.24	Cb	橙	100	B区
7	6.35	2.00	0.55	21.82	Ca	褐	100	
8	6.50	2.05	0.55	24.63	Cb	暗褐	100	B区
9	6.60	1.95	0.50	21.58	Ca	橙	100	B区
10	6.65	2.00	0.60	24.21	Cb	にふい黄橙	100	A区
11	7.10	1.50	0.45	13.50	Ba	灰黄褐	100	B区
12	6.45	1.95	0.50	23.07	Cb	にふい褐	100	B区
13	6.25	1.90	0.50	22.46	Ba	褐	100	No. 7
14	(5.50)	2.10	0.45	(19.32)	Ca	にふい黄橙	75	B区
15	6.40	1.95	0.40	(21.93)	Bb	にふい褐	90	A区
16	6.05	1.90	0.50	22.13	Cb	にふい橙	100	A区
17	5.70	2.15	0.60	22.71	Ca	黒褐	100	No. 9
18	6.05	2.10	0.65	22.50	Cb	にふい黄橙	100	B区
19	5.55	2.00	0.55	19.95	Cb	明褐	100	B区 表面なめらか
20	5.60	2.05	0.50	19.08	Cb	にふい褐	100	B区
21	5.50	1.85	0.55	18.44	Bb	黒	100	No. 6
22	(5.70)	1.60	0.40	(10.88)	Ca	灰黄褐	80	A区
23	5.45	1.90	0.60	18.23	Cb	明褐	100	
24	5.55	1.80	0.60	18.19	Cb	灰褐	100	
25	5.35	1.90	0.60	18.04	Cb	灰褐	100	B区
26	6.00	1.70	0.50	16.31	Ba	にふい橙	100	No. 5
27	5.10	1.90	0.50	18.48	Cb	褐	100	B区

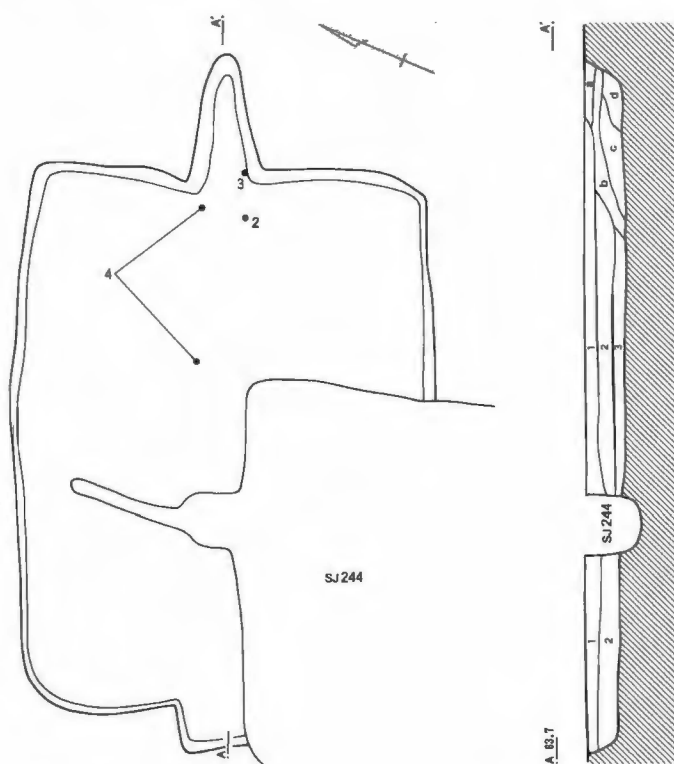
第244号住居跡出土土錘観察表 (第186・187図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
28	6.10	1.90	0.55	20.42	Cb	にぶい褐	100	A区
29	5.80	1.90	0.55	16.77	Ca	にぶい橙	100	No.10
30	5.90	1.80	0.45	14.54	Ca	にぶい褐	100	
31	5.80	1.80	0.40	15.19	Ca	にぶい黄橙	100	A区
32	5.85	1.95	0.55	22.71	Cb	橙	100	A区
33	5.75	1.85	0.50	17.31	Ca	にぶい褐	100	B区
34	(5.15)	2.05	0.50	(17.33)	Cb	にぶい褐	80	A区
35	4.85	1.85	0.40	16.43	Cb	黒	100	No.8
36	5.85	1.90	0.65	20.51	Bb	にぶい橙	100	B区
37	5.15	2.00	0.50	19.53	Cb	にぶい黄橙	100	A区
38	5.00	1.85	0.40	16.47	Bb	褐灰	100	A区
39	(5.00)	1.85	0.50	(14.29)	Ca	褐灰	75	A区
40	4.65	1.85	0.55	(14.29)	Ca	にぶい黄橙	95	A区
41	4.45	2.00	0.50	16.24	Ca	黒褐	100	B区
42	(5.40)	1.45	0.45	(9.10)	Ba	明褐	75	B区
43	(4.30)	1.60	0.45	(8.26)	Cb	灰黄褐	50	B区
44	(3.10)	2.15	0.50	(12.26)	Cb	黒	40	B区
45	(3.35)	1.60	0.45	(6.61)	Ca	にぶい黄橙	40	B区
46	(3.30)	1.80	0.50	(7.58)	Cb	にぶい黄褐	45	A区
47	(3.05)	1.65	0.45	(5.87)	Ca	にぶい黄褐	30	B区
48	(3.30)	1.45	0.50	(4.72)	Ca	にぶい黄橙	45	A区
49	(2.25)	1.60	0.55	(5.40)	Cb	にぶい黄褐	25	B区

第245号住居跡 (第188・189図)

N-18グリッドに位置する。第244号住居跡に切られる。第244号住居跡を挟んで第248号住居跡とも

僅かに重複するが、新旧関係は不明である。平面形は東西に長い長方形で、長軸4.36m、短軸3.34m、深さは0.22~0.35mである。主軸方位はN-64°-E



SJ245

- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 白色微粒子
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子
- 3 褐色 (10YR3/3) 褐灰色シルト

カマド

- a にぶい黄褐色 (10YR5/4)
- b 褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化粒子僅か
- c 暗褐色 (10YR3/4) 焼土極多
- d にぶい黄褐色 (10YR4/3)

第188図 第245号住居跡

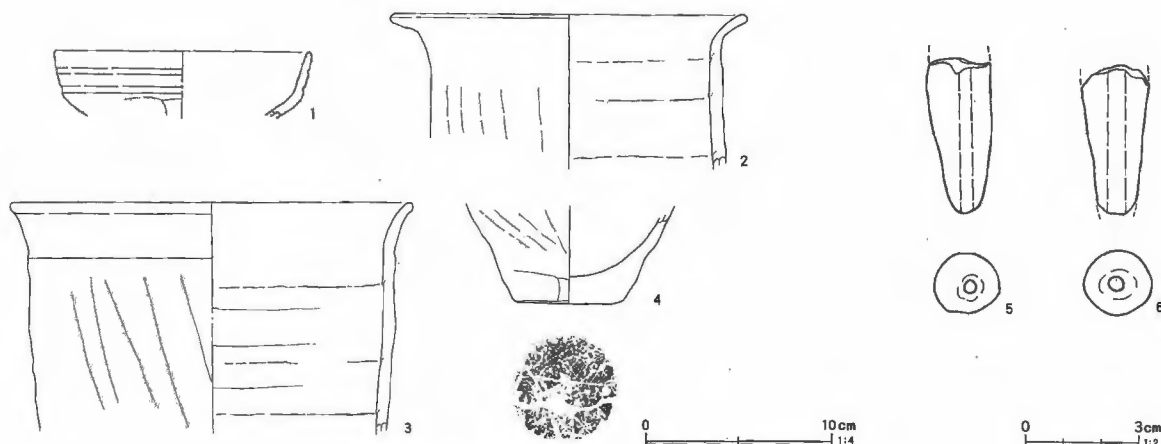
を指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開きながら立ち上がる。

カマドは東壁中央に設置される。燃焼部の掘り込みはなく、煙道部は急激に立ちあがる。貯蔵穴、壁溝は検出されなかった。第244号住居跡で壊されて

いるため明確ではないが、西壁には40cm程の張り出しが検出された。

遺物は多量に出土したが、磨耗が激しく、接合率は悪い。須恵器は甕胴部の小片が1片だけで、土師器は図示した以外にも坏・甕が認められる。



第189図 第245号住居跡出土遺物

第245号住居跡出土遺物観察表 (第189図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(13.4)			ABDE	普通	橙	20	A区	磨耗著しい
2	甕	18.4			ABEJK	不良	にぶい黄褐	70	+7cm	歪み有り・磨耗著しい
3	甕	(20.8)			BCFJ	不良	にぶい黄褐	15	+12cm	磨耗・剥落
4	甕			5.6	ABCF	不良	灰黄褐	85	+10cm	底部木葉痕 磨耗

第245号住居跡出土土錘観察表 (第189図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
5	(4.10)	1.75	0.40	(10.38)	Ca	にぶい赤褐	60	B区
6	(3.90)	1.80	0.45	(8.92)	Ca	黒褐	50	A区

第246号住居跡 (第190・191図)

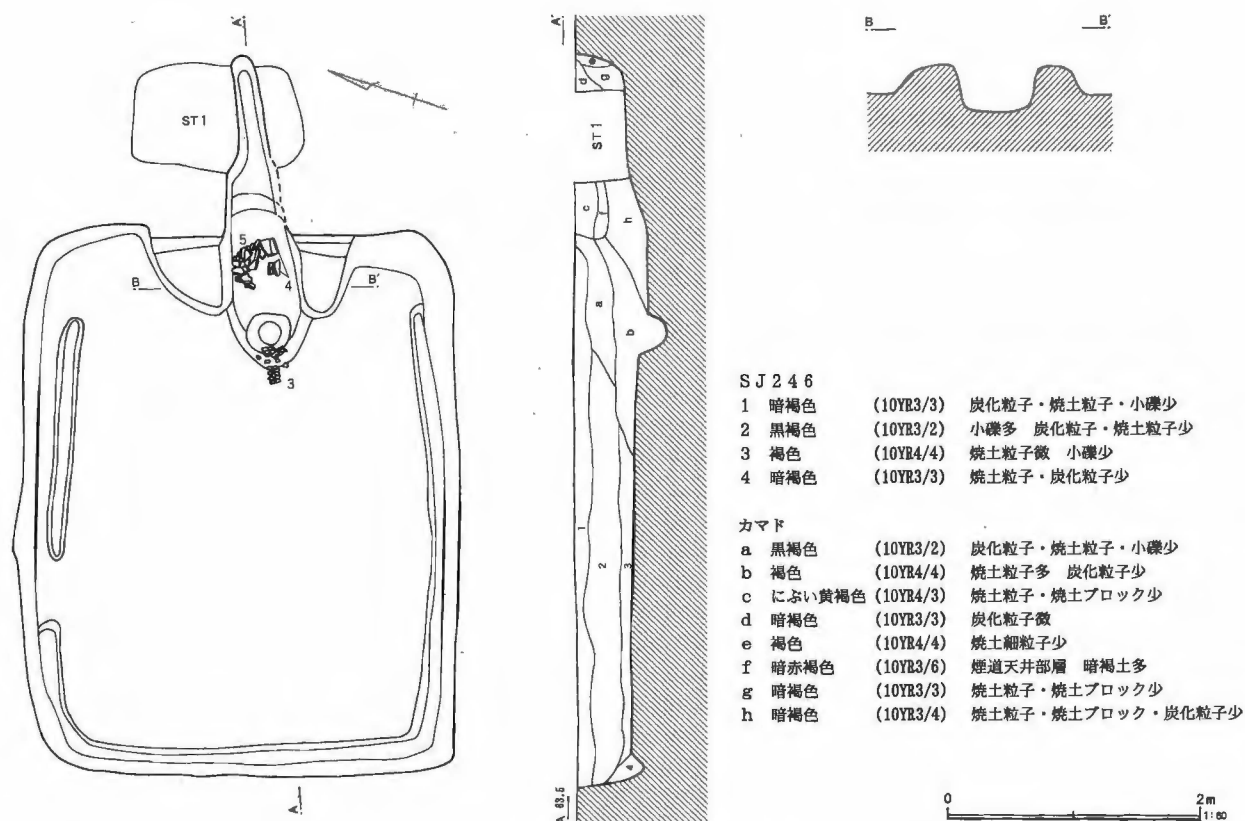
O・P-17・18グリッドに位置する。第247号住居跡を切り、カマド煙道部を第1号墓墳に切られる。平面形は東西に長い長方形で、長軸4.43m、短軸3.51m、深さは0.46m前後である。主軸方位はN-67°-Eを指す。

床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は4層に分けられ、概ね自然堆積と考えられる。

カマドは東壁中央に設置される。燃焼部の掘り込み

みは僅かだが、手前に深さ20cm程のピットが検出された。煙道部は一部を第1号墓墳に壊されるが、底面はほぼ同レベルであったため検出が可能であった。貯蔵穴は検出されなかった。壁溝は東壁以外で検出され、北壁では一部途切れていた。幅15~26cm、深さは3~6cmである。

遺物はカマドやその周辺を中心に多量に出土したが、小片が多く、接合率は悪い。土師器は甕片が多く、坏片がほとんど見られない。



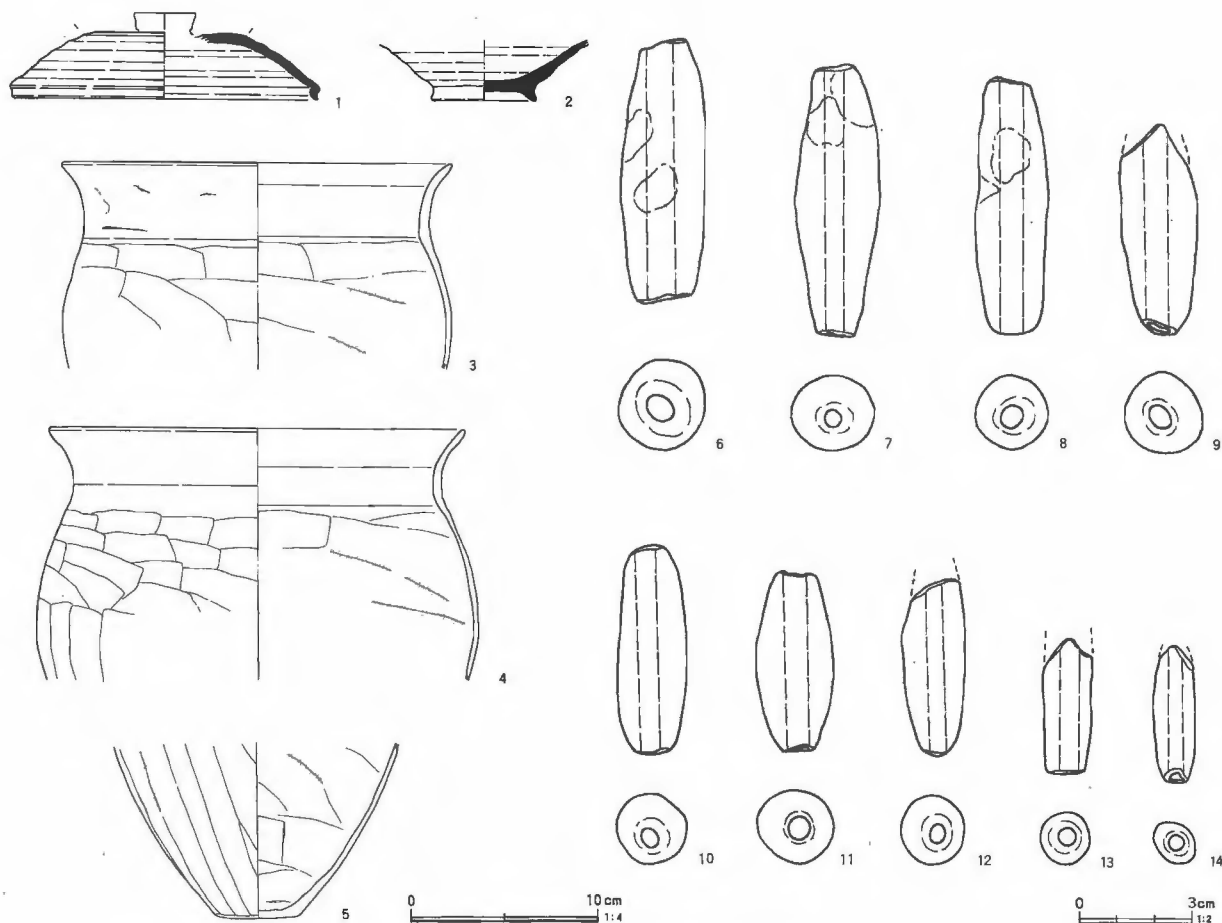
第190図 第246号住居跡

第246号住居跡出土遺物観察表 (第191図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	蓋	(16.0)			BJL	良好	灰	25	B区	末野産 歪み大 天井部回転ヘラケズリ
2	高台付 埴			(5.4)	BCDJL	不良	灰黄	70	A区	在地産
3	甕	(20.6)			ABCDJL	普通	にぶい褐	75	カマド	
4	甕	(22.0)			ABCDEJL	不良	橙	40	カマド	
5	甕		4.4		ABCJL	普通	にぶい褐	40	カマド	

第246号住居跡出土土錘観察表 (第191図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
6	6.95	2.40	0.75	39.00	Bb	黒	100	B区
7	7.20	2.25	0.50	29.05	Cb	にぶい褐	100	B区
8	6.85	2.00	0.65	25.86	Bb	橙	100	A区
9	5.55	2.20	0.60	(18.60)	Ca	橙	85	B区
10	5.55	1.90	0.55	20.05	Ba	にぶい黄橙	100	A区
11	4.35	2.05	0.65	(17.88)	Ca	黒	95	B区
12	(4.70)	1.90	0.50	(12.90)	Ca	橙	75	A区
13	(3.60)	1.40	0.45	(6.16)	Bb	明褐	50	B区
14	(3.65)	1.25	0.40	(3.87)	Ba	橙	95	A区



第191図 第246号住居跡出土遺物

第247号住居跡 (第192図)

O・P-17グリッドを中心に位置する。第246号住居跡に切られる。平面形は南北に長い長方形で、長軸5.43m、短軸3.73m、深さは0.30~0.40mである。主軸方位は西壁でN-30°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は3層に分けられ、炭化粒子・焼土粒子を含んでいる。

カマドは検出されなかった。東壁の第246号住居跡に壊された部分に設置されていたと考えられる。貯蔵穴・壁溝は検出されなかった。ピットは2本検出され、P1、P2の深さは10cm、9cmである。

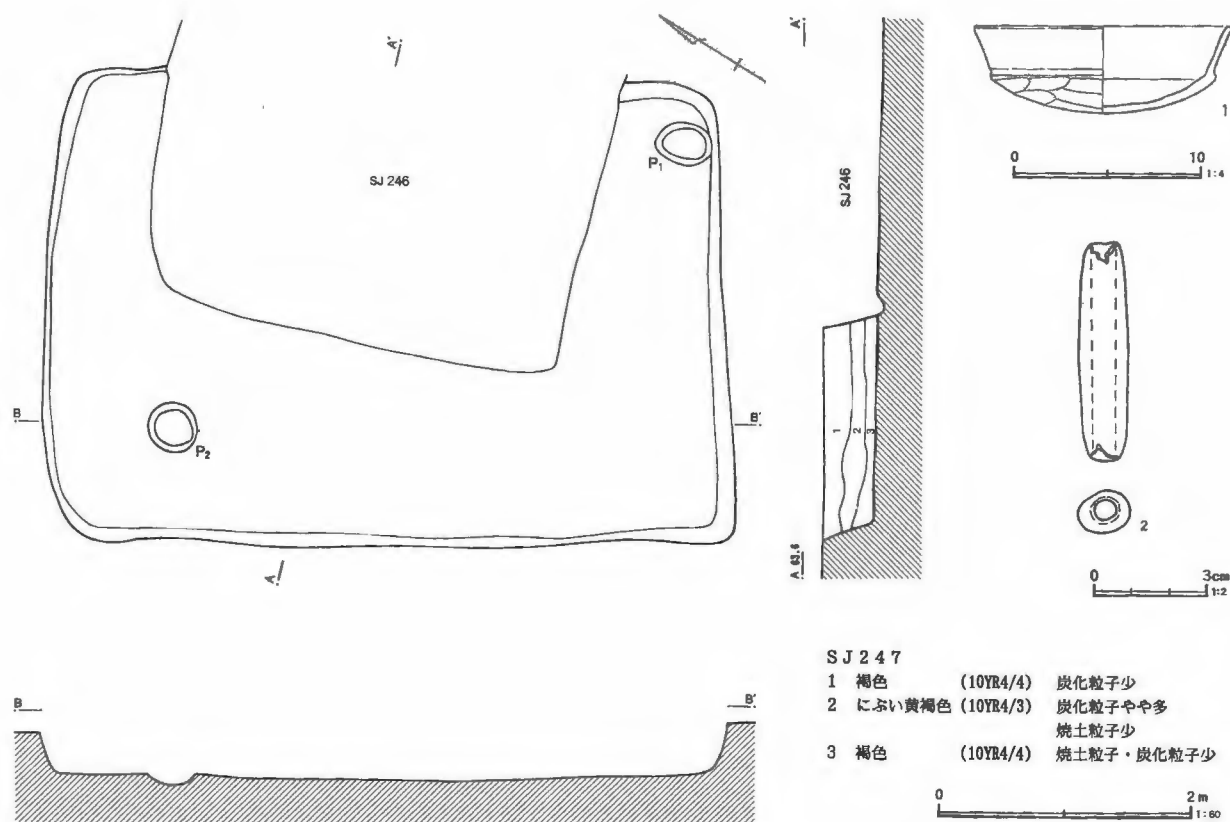
遺物は多量に出土したが、大半が小片である。須恵器は5片あり、坏・甕が認められる。土師器には坏・甕が見られるが、多くは甕片と思われる。

第247号住居跡出土遺物観察表 (第192図)

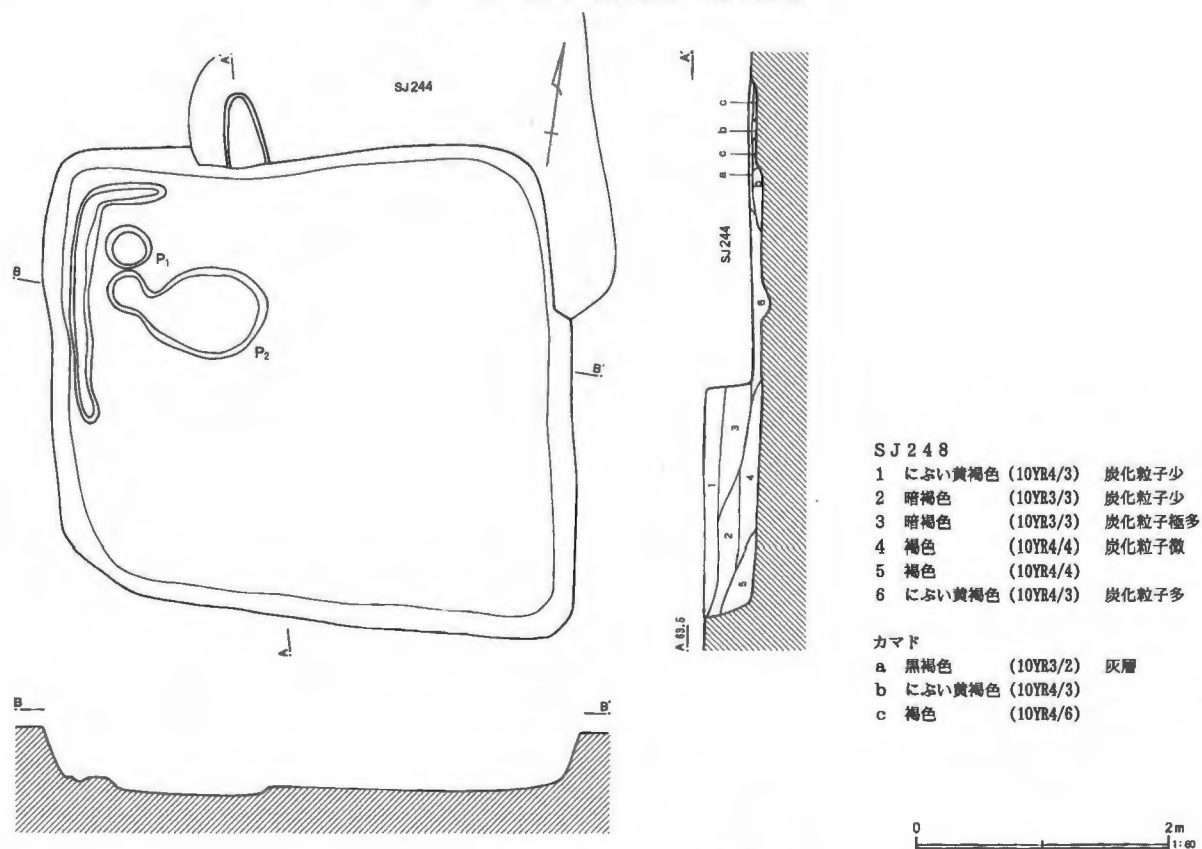
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	13.4	4.5		ABDE	不良	明赤褐	95	覆土	磨耗著しい

第247号住居跡出土土錘観察表 (第192図)

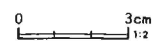
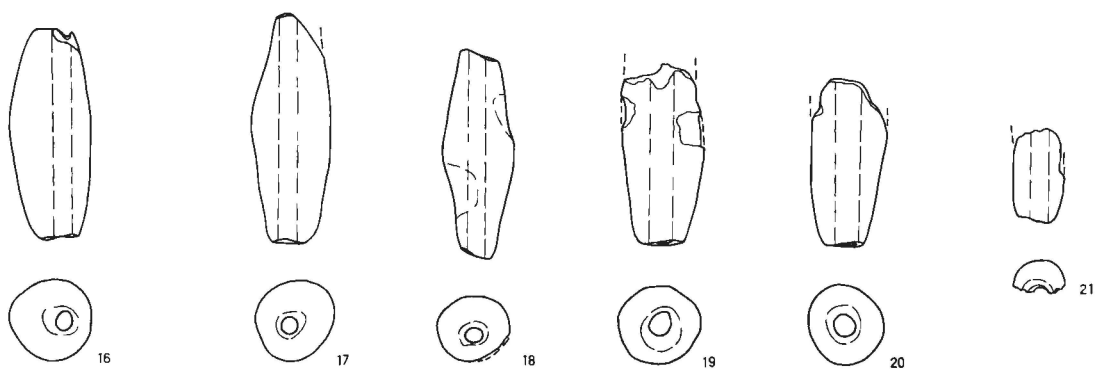
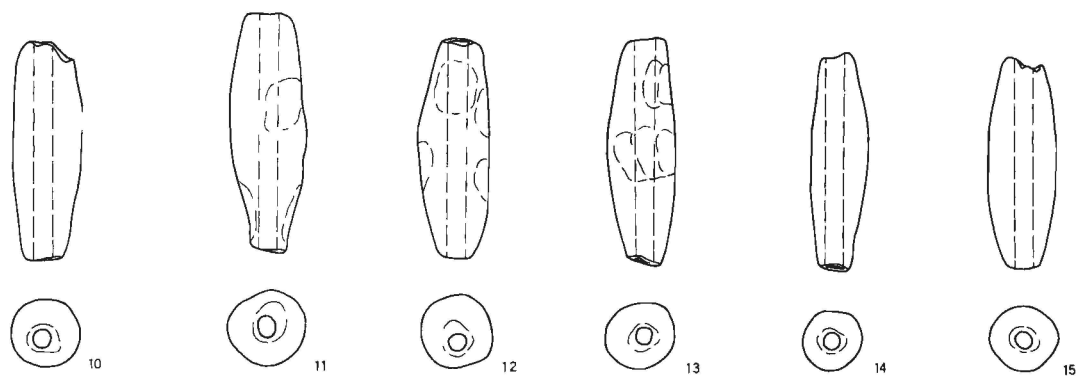
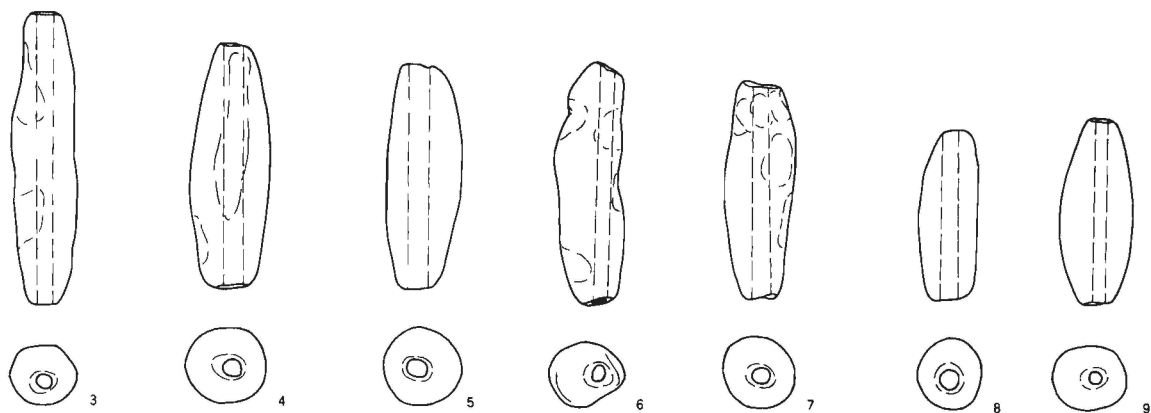
番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
2	5.80	1.40	0.55	(6.74)	Ba	にぶい橙	95	B区



第192図 第247号住居跡・出土遺物



第193図 第248号住居跡



第194図 第248号住居跡出土遺物

第248号住居跡（第193・194図）

N-17・18グリッドに位置する。第244号住居跡に切られる。第245号住居跡との新旧関係は不明である。平面形はやや歪むが正方形に近く、長軸4.15m、短軸3.90m、深さは0.38～0.46mである。主軸方位はN-15°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。

カマドは北壁中央より西に設置される。燃焼部や

袖は明確ではないが、煙道部の一部が第244号住居跡の床面に検出され、灰層が遺存していた。貯蔵穴は検出されなかった。壁溝は北東コーナー付近のみ検出され、幅15～20cm、深さは3～7cmである。ピットは2本検出されたが、深さが6cm、8cmと浅い。

遺物はやや多く出土したが、小片が多く、接合率は悪い。須恵器は図示した甕と同一個体と思われる破片や坏が認められ、土師器は坏・甕が見られる。土錘が破片を含めて20点出土した。

第248号住居跡出土遺物観察表（第194図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	甕	(14.0)			BCF	良好	褐灰	40	A・B区	末野産
2	甕				BCF	良好	褐灰	破片	B区	末野産

第248号住居跡出土土錘観察表（第194図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
3	7.80	1.80	0.45	21.39	Ba	にぶい黄褐	100	B区
4	6.60	2.15	0.50	26.53	Ca	にぶい黄褐	100	B区
5	6.05	2.05	0.60	24.76	Ca	黒	100	B区
6	6.50	1.95	0.45	20.35	Cb	灰褐	100	B区
7	5.90	2.00	0.50	21.22	Cb	にぶい黄橙	100	B区
8	4.60	1.85	0.50	13.80	Ca	にぶい橙	100	B区
9	5.00	1.95	0.35	17.01	Ca	黒褐	100	B区
10	5.80	1.85	0.45	(19.38)	Cb	にぶい褐	95	B区
11	6.30	2.10	0.55	26.52	Cb	にぶい褐	100	B区
12	5.80	1.95	0.50	21.86	Cb	にぶい褐	100	A区
13	6.00	1.85	0.50	18.94	Cb	灰黄褐	100	B区
14	5.80	1.60	0.45	12.51	Ca	暗褐	100	B区
15	5.65	1.85	0.50	(16.81)	Ca	黒	95	B区
16	5.60	2.20	0.50	(22.98)	Cb	黒褐	95	B区
17	6.05	2.10	0.45	(22.16)	Ca	黒褐	95	B区
18	5.55	1.90	0.50	(14.41)	Ca	橙	95	A区
19	(4.80)	2.20	0.65	(19.16)	Cb	明赤褐	65	B区
20	(4.40)	2.10	0.60	(14.29)	Cb	黒褐	55	B区
21	(2.45)	(1.35)	(0.50)	(2.50)	Ca	暗褐	20	B区

第249号住居跡（第195・196図）

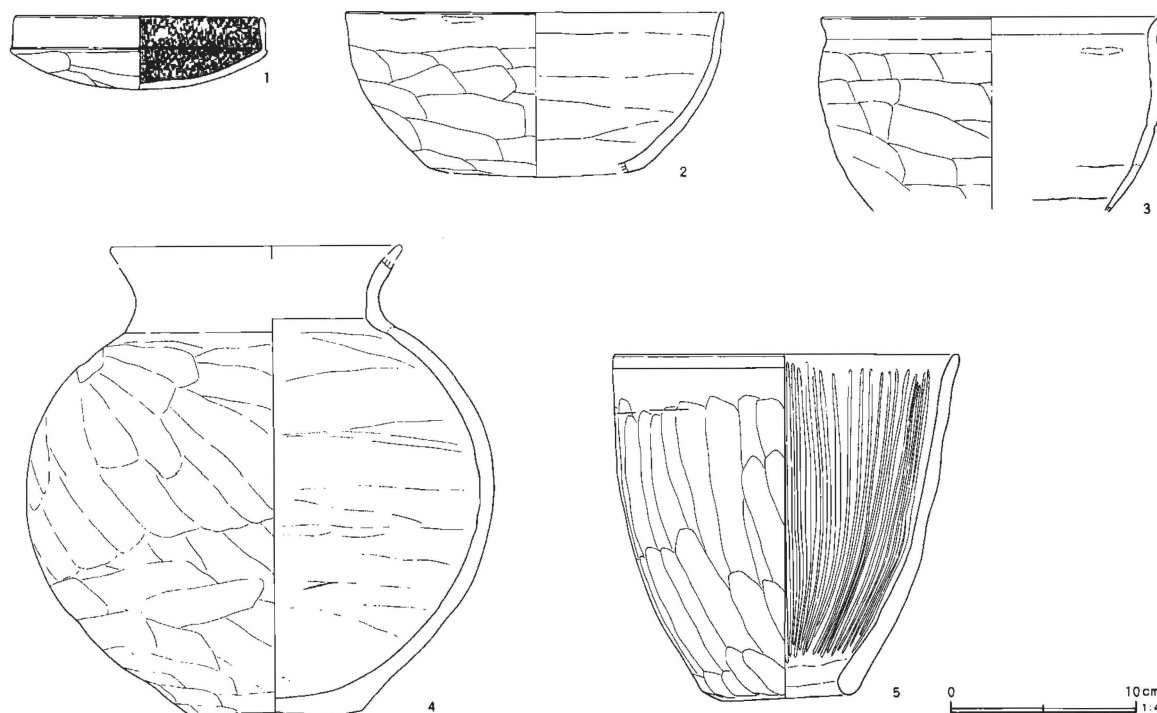
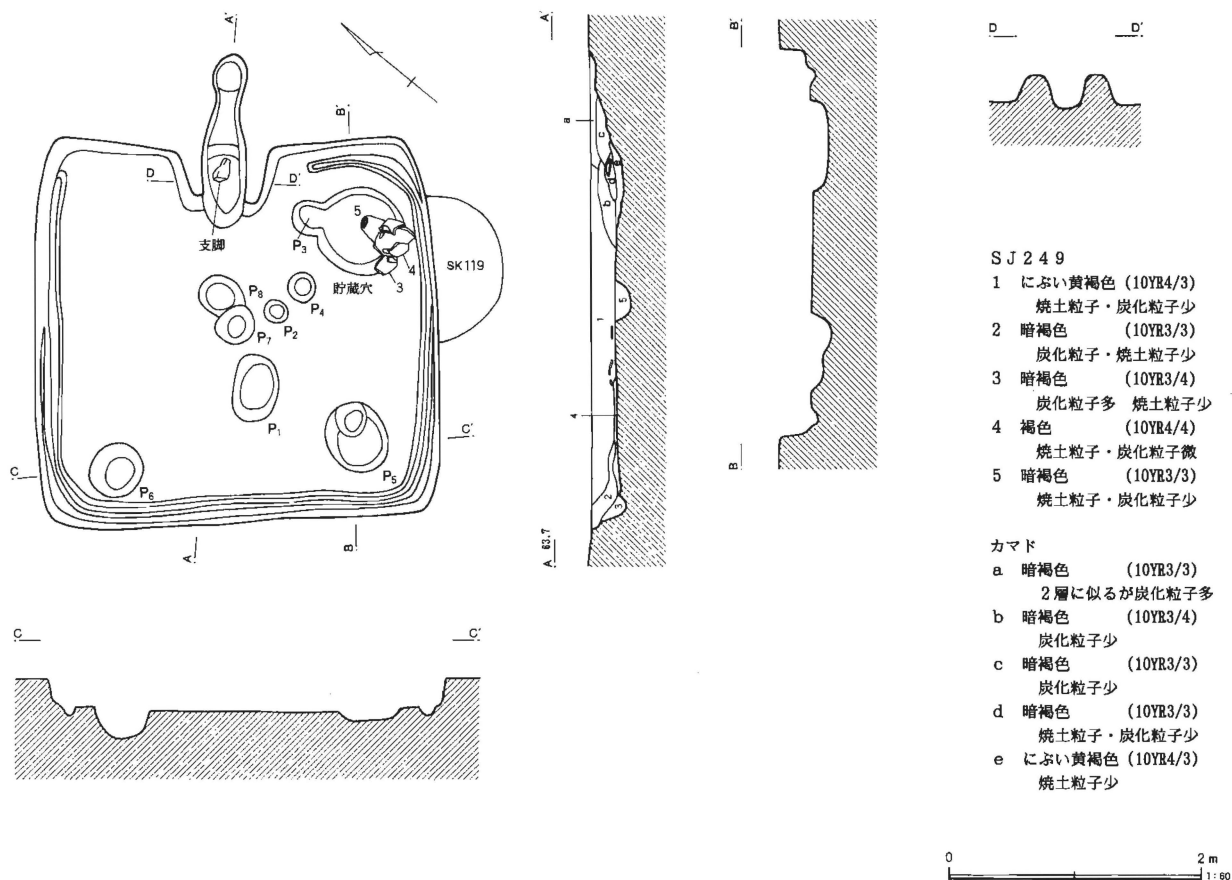
O-18・19グリッドに位置する。南東壁の一部を第119号土坑に壊される。平面形は正方形で、長軸3.16m、短軸3.06m、深さは0.22～0.25mである。主軸方位はN-54°-Eを指す。

床面は中央付近が僅かに高く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は3層に大別されるが、第1層は短期に埋まったか、埋められた可能性がある。

カマドは北東壁中央に設置される。燃焼部の掘り込みは浅く、段を持って煙道部へ続く。川原石の支

脚が出土した。貯蔵穴はカマド右に設けられ、71×68cmの円形で、深さは14cmである。壁溝はカマド左側以外で全周し、幅10～23cm、深さは3～6cmである。ピットは8本検出されたが何れが柱穴であるかは判断できなかった。P1～P8の深さは15cm、17cm、14cm、16cm、13cm、21cm、15cm、12cmである。

遺物はやや多く出土したが、図示した以外は接合率が悪い。全て土師器で、磨耗が激しく、坏・甕が認められる。



第249号住居跡出土遺物観察表 (第196図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(13.0)	3.9		BEJL	不良	灰黄褐	45	A・B区	内面黒色処理 内外面磨耗著しい
2	鉢	(20.0)	8.7	(11.2)	BDJL	普通	にぶい褐	15	A・B区	
3	鉢	(18.0)			BCJL	不良	にぶい褐	10	貯蔵穴	
4	甕			9.1	BCEJL	普通	橙	85	貯蔵穴	
5	甕	18.2	18.3	6.4	BCEJL	普通	にぶい赤褐	100	貯蔵穴	

第250号住居跡 (第197・198図)

N・O—18・19グリッドに位置する。第251号住居跡を切り、中央付近を第3号炉跡に壊される。調査当初は第251号住居跡のプランが不明瞭で、同時に掘削したため、西壁の一部が検出出来なかった。平面形は東西に長い長方形だがやや歪んでいる。長軸3.52m、短軸2.87m、深さは0.30～0.43mである。主軸方位はN—80°—Eを指す。

床面はほぼ平坦だが北西側がやや浅くなっている。壁は垂直に立ち上がる。

カマドは2基検出された。東壁に設置されたカマドAは、燃烧部を10cm程掘り込み、段を持って煙道部へ続く。左袖の一部は第3号炉跡に壊されていた。右袖は不明瞭で南東コーナーへ続く棚状となっていた。棚の高さは床面から25cm前後である。北壁の東

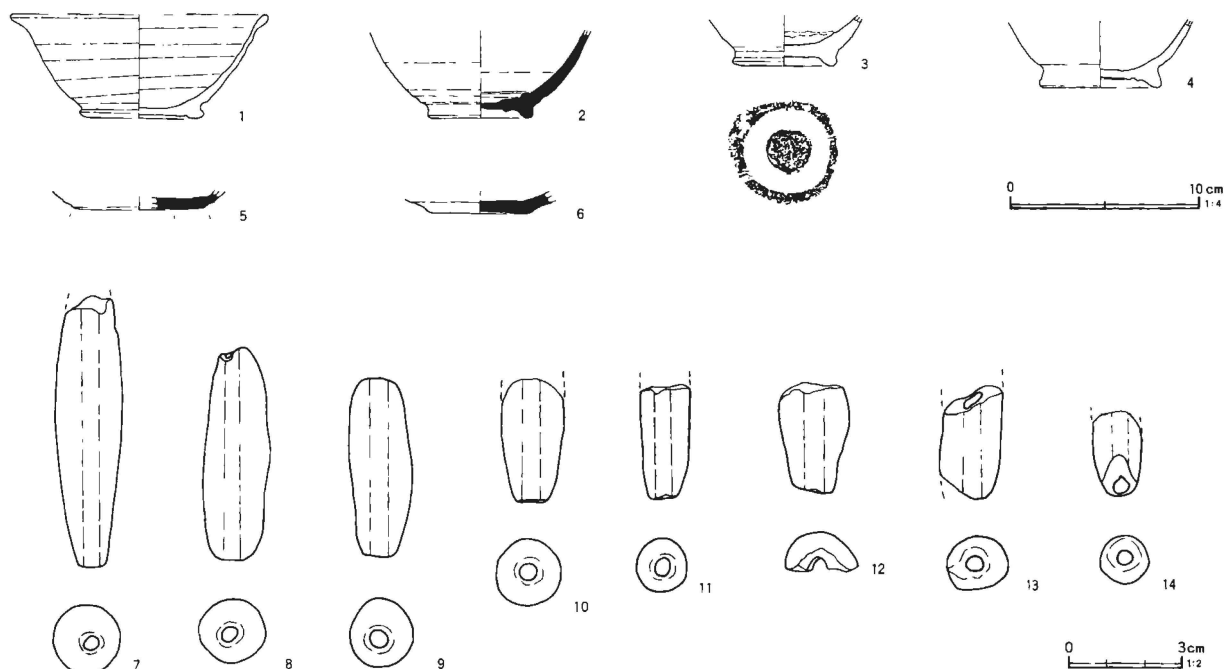
寄りに設置されたカマドBは、カマドAより先行すると考えられ、煙道部のみの検出であった。貯蔵穴・壁溝は検出されなかった。

遺物はやや多く出土したが、接合率は悪い。須恵器は坏・高台付坏・甕が認められ、図示した以外にも高台付坏の高台片が8個体分は見られる。土師器は何れも小片で、坏・甕が認められる。

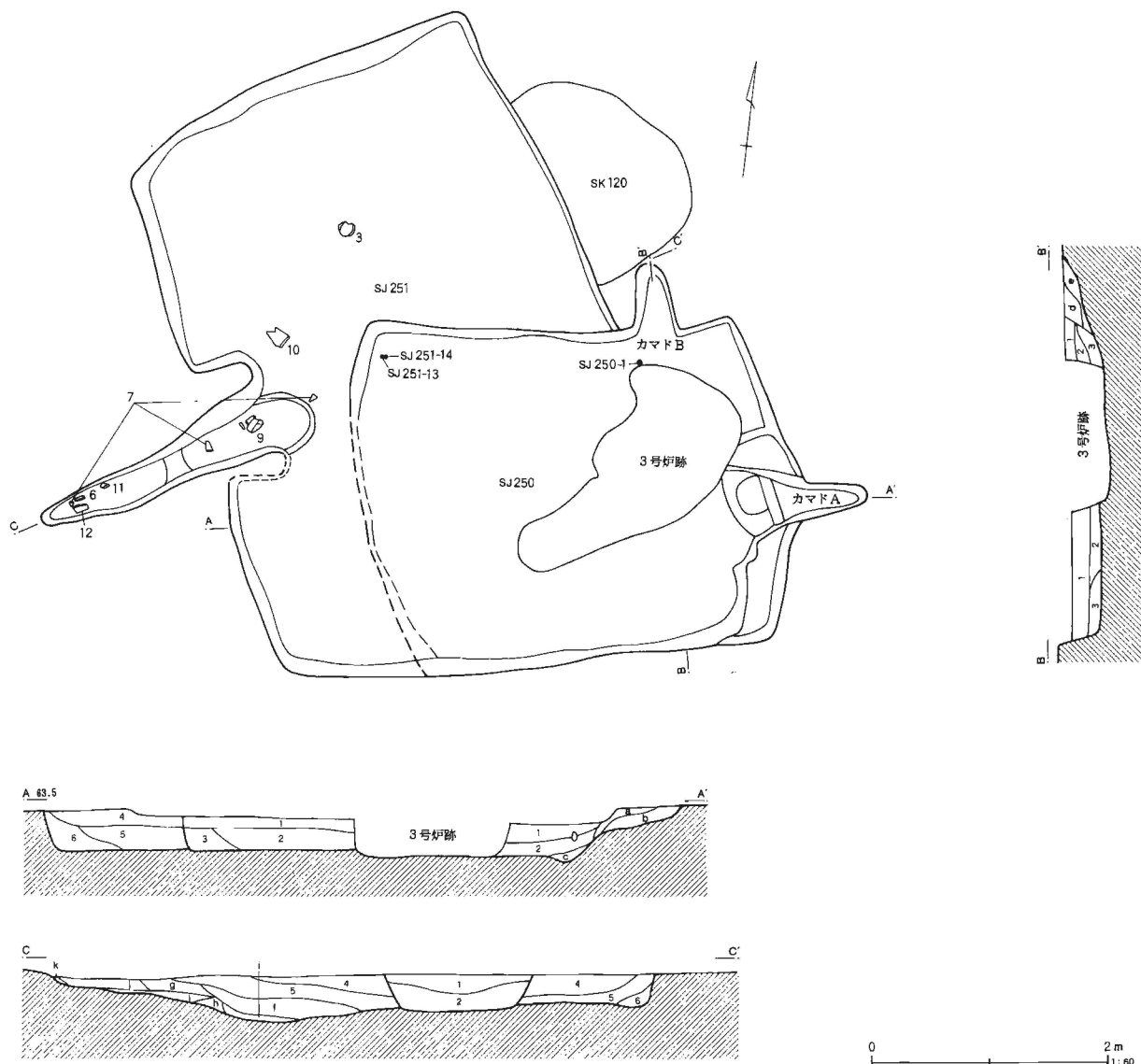
第251号住居跡 (第198・199図)

N・O—18グリッドに位置する。第250号住居跡・第120号土坑・第3号炉跡に切られる。平面形は南北に長い長方形だがやや歪む。長軸5.07m、短軸3.55m、深さは0.36m前後である。主軸方位はN—120°—Wを指す。

床面はほぼ平坦だがカマド前面はやや下がって



第197図 第250号住居跡出土遺物



SJ 250

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 炭化粒子僅か
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・明黄褐色シルト粒子 炭化粒子
- 3 にふい黄褐色 (10YR6/4)

SJ 250 カマドA

- a 褐色 (10YR4/6) 焼土・被熱土
- b 暗褐色 (10YR3/4)
- c 褐色 (10YR4/4)

SJ 250 カマドB

- d にふい黄褐色 (10YR4/3) 白色微粒子
- e 褐色 (10YR4/4) 焼土粒子僅か

SJ 251

- 4 褐色 (10YR4/4) 白色微粒子 炭化粒子
- 5 褐色 (10YR4/4) 炭化粒子・灰色シルト含
- 6 褐色 (10YR4/4) 白色微粒子多 炭化粒子僅か

SJ 251 カマド

- f 褐色 (10YR4/4) 焼土粒子・炭化粒子僅か
- g 褐色 (10YR4/4) 焼土粒子僅か
- h 褐色 (10YR4/4)
- i 暗褐色 (10YR3/3) 焼土粒子多
- j にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子僅か
- k にふい黄褐色 (10YR4/3) 黒褐色粒子含

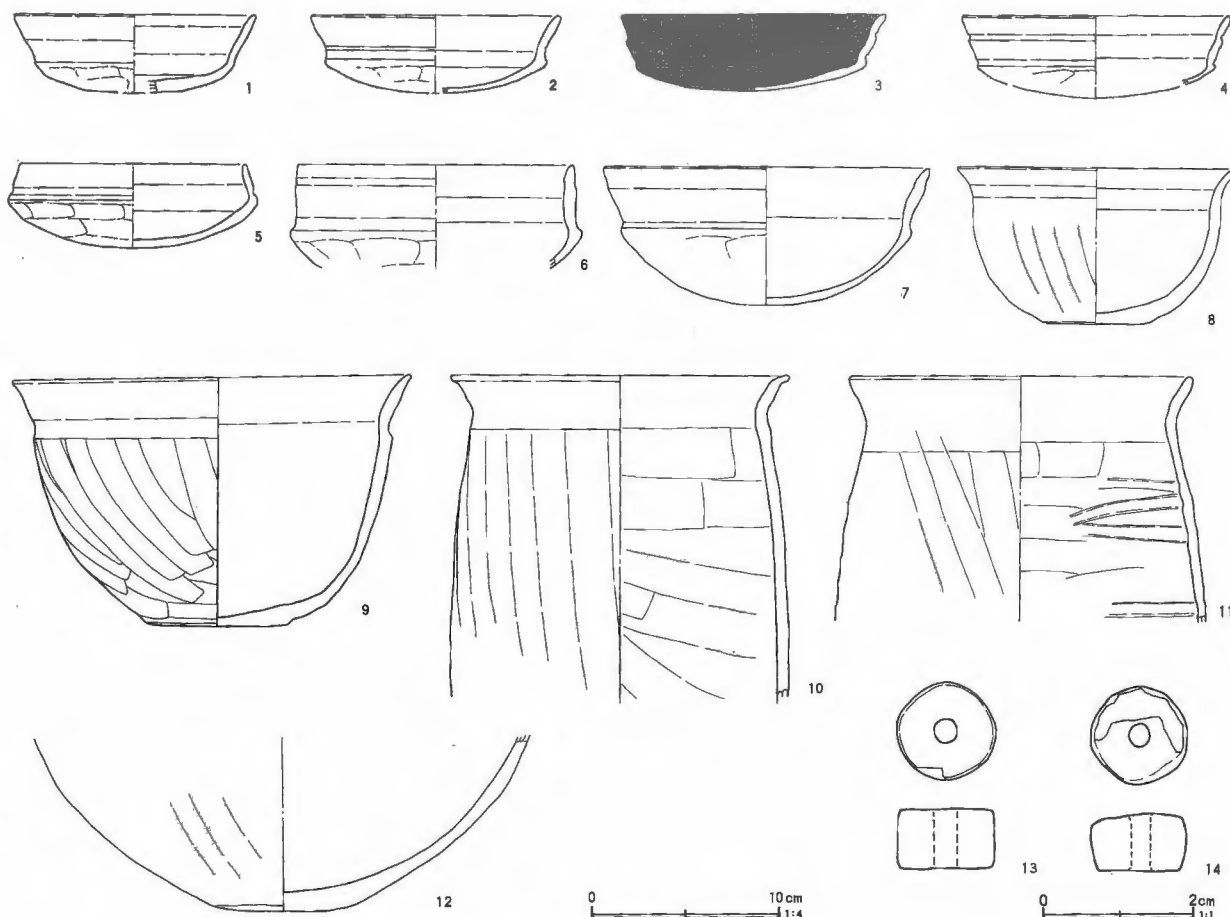
第198図 第250・251号住居跡

る。壁は開き気味に立ち上がる。

カマドは西壁中央よりやや南に設置される。燃焼部は床面を10cm程掘り下げ、緩やかに立ち上がり、長い煙道部へ続く。貯蔵穴・壁溝は検出されなかつ

た。

遺物は多量に出土し、接合率も良い方だが、全体に磨耗が著しい。全て土師器で、図示した以外に坏4個体、甕2～3個体が見られる。



第199図 第251号住居跡出土遺物

第250号住居跡出土遺物観察表 (第197図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	高台付坏	13.4	5.5	5.9	ABCD	不良	橙	80	床	在地産 酸化焰焼成 高台部やや歪む
2	高台付坏			5.3	ABCD	普通	黄灰	30	D区	在地産 内部重ね焼き痕明瞭 磨耗
3	高台付坏			4.6	BCD	普通	にぶい黄橙	60	C区	在地産 酸化焰焼成 磨耗著しい
4	高台付坏			6.1	ABCF	不良	にぶい橙	60	A区	在地産 酸化焰焼成 磨耗著しい
5	坏			(7.0)	ABC	良好	灰	25	D区	末野産 底部回転糸切後周辺回転ヘラケズリ
6	坏			(5.4)	ABC	良好	黄灰	25	A区	末野産 底部回転糸切

第250号住居跡出土土錘観察表 (第197図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
7	(7.10)	1.80	0.40	(23.47)	Ca	にぶい橙	95	A区
8	5.60	1.80	0.45	15.46	Ca	褐灰	100	A区
9	4.75	1.80	0.50	13.08	Ca	明褐	100	D区
10	(3.25)	1.75	0.50	(8.02)	Ca	黒褐	40	D区
11	(3.00)	1.40	0.50	(5.48)	Ba	明赤褐	50	C区
12	(2.95)	(1.90)	(0.50)	(4.55)	Ca	橙	15	D区
13	(3.00)	1.60	0.45	(6.80)	—	にぶい赤褐	30	D区
14	(2.20)	1.30	0.40	(2.75)	Ca	にぶい橙	20	D区

第251号住居跡出土遺物観察表（第199図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(12.6)			ABCE	不良	にふい黄橙	45	カマド	磨耗著しい 歪みあり
2	坏	(13.0)			ACDF	普通	にふい橙	25	B区	磨耗著しい
3	坏	13.9	4.1		ABCDE	良好	にふい黄橙	95	+29cm B区	内外面黒色処理 やや磨耗
4	坏	(14.0)			ABCDE	良好	にふい黄橙	20	B区	やや磨耗
5	坏	(11.8)	4.4		ABCEF	普通	橙	50	B区	
6	坏	(14.4)			ABCE	普通	にふい橙	20	カマド	磨耗著しい
7	碗	(17.0)	7.2		ABCEF	不良	にふい黄橙	40	カマド	磨耗著しく調整不明
8	鉢	(14.6)	8.2	(5.4)	ABCHJ	不良	にふい赤褐	30	カマド	磨耗著しい
9	鉢	12.9	13.5	7.5	ABJ	普通	にふい黄褐	75	カマド	内面磨耗著しい
10	甕	(17.7)			ABCHJ	不良	にふい赤褐	25	+17cm	磨耗著しい
11	甕	(17.9)			ABCEFJ	不良	にふい褐	25	カマド	磨耗著しい
12	甕			7.2	ABCEJ	不良	にふい赤褐	20	カマド	磨耗著しい
13	白 玉	直径1.30cm	厚さ0.80cm	孔径0.30cm	重さ2.18g			95	+9cm	滑石製 一部欠損
14	白 玉	直径1.30cm	厚さ0.80cm	孔径0.30cm	重さ2.09g			90	+9cm	滑石製 一部欠損

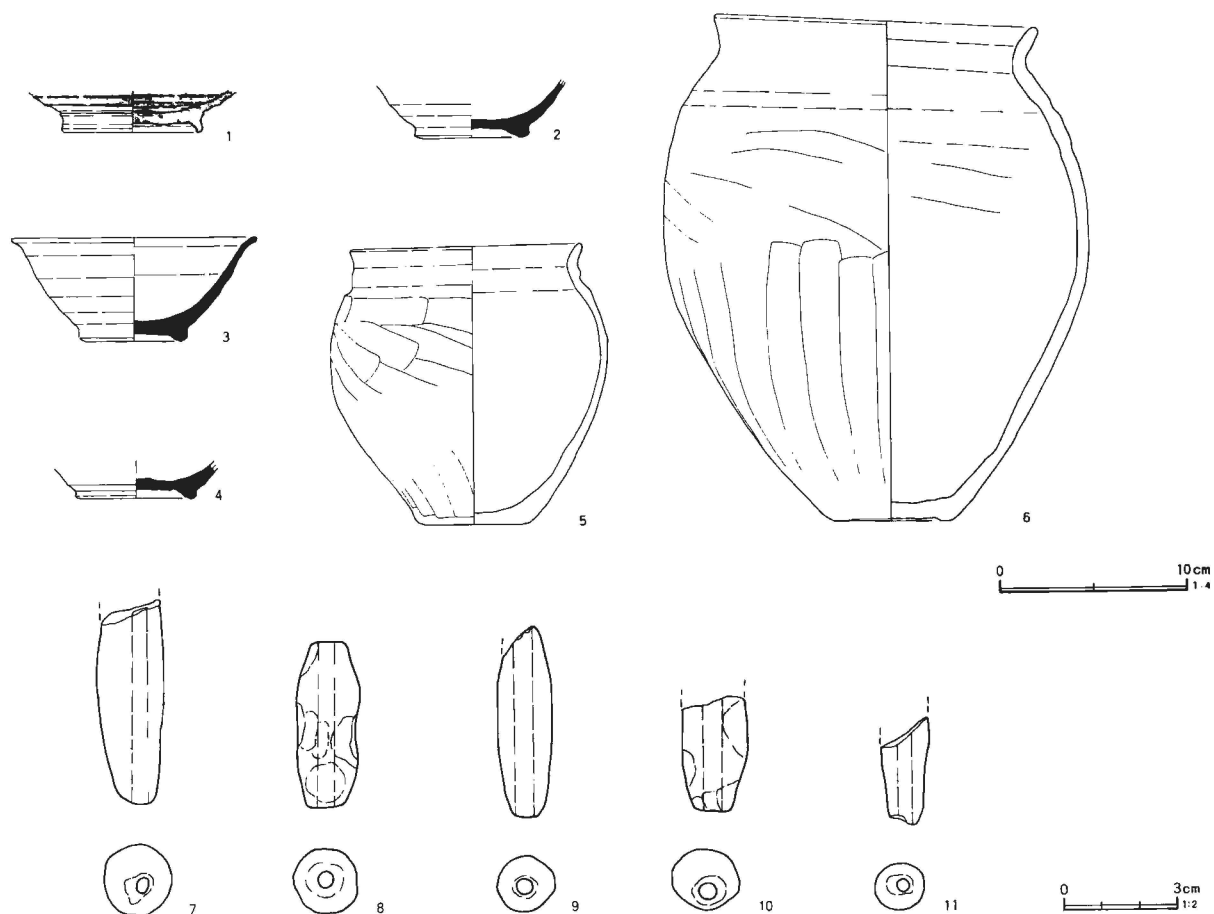
第252号住居跡（第200・201図）

○・P-19・20グリッドに位置する。第253・255号住居跡・第8号掘立柱建物跡と重複し、本住居跡が最も新しい。平面形は東西に長い長方形で、長軸4.15m、短軸3.41m、深さは0.31~0.38mである。

主軸方位はN-102°-Eを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は3層に分かれ、やや不自然な堆積である。

カマドは2基検出された。カマドAは東壁中央に



第200図 第252号住居跡出土遺物

設置される。燃焼部は床面を10cm弱掘り込み、段を持って煙道部へ続く。カマドBは北壁に設置され、カマドAより先行すると思われる。煙道部と火床面と思われる焼土を検出した。貯蔵穴は2ヶ所に設けられていた。貯蔵穴Aは南東コーナー近くに設置され、61×60cmの円形で、深さは15cmである。貯蔵穴Bは南西コーナー近くで、直径49cmの円形で、深さは6cmである。壁溝は南西コーナから南壁にかけて検出され、幅15~25cm、深さ2~5cmである。ピットは1本検出され、深さは11cmである。

遺物は多く出土したが、重複する遺構からの混入も多いと考えられる。接合率は図示した以外にものは悪い。灰釉陶器の高台付壺が出土した。須恵器は高台付杯・甕が、土師器は杯・甕が認められる。

第253号住居跡（第201図）

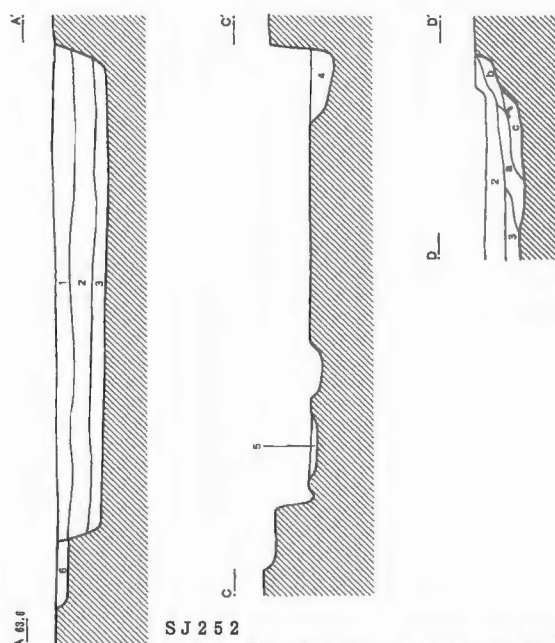
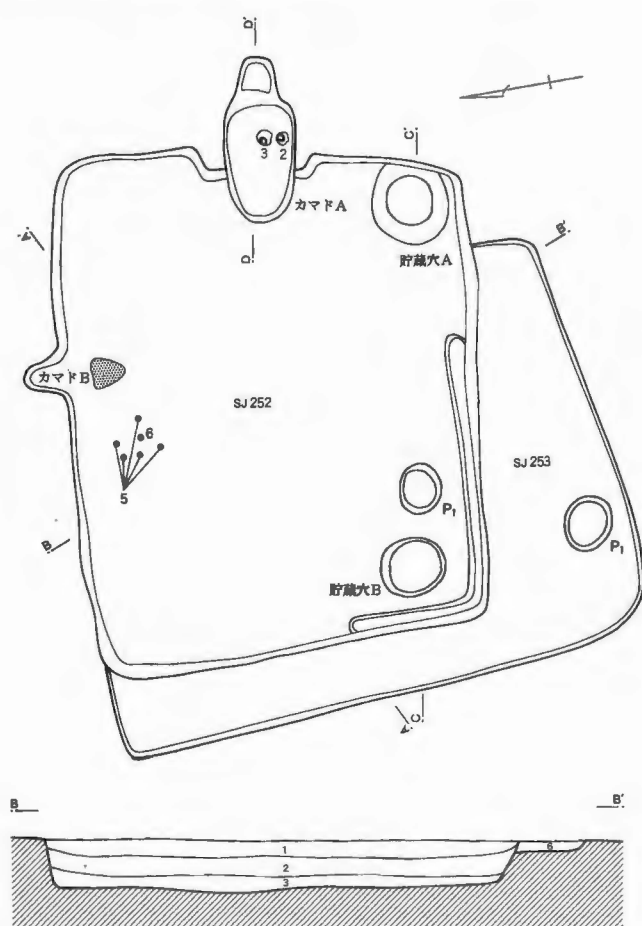
O・P-19・20グリッドに位置する。第252号住居跡・第8号掘立柱建物跡に切られる。第255号住居跡との関係は不明である。平面形は南北に長い長方形で、長軸4.38m、短軸3.3m、深さは0.04~0.11mである。主軸方位は西壁でN-3°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。

カマド、貯蔵穴は検出されなかった。第252号住居跡に壊された部分に設置されていたと考えられる。

ピットは1本検出され、深さは9cmである。

遺物は全く出土しなかった。



SJ 252

- | | | |
|---|------------------|-------------|
| 1 | にぶい黄褐色 (10YR5/4) | 白色微粒子・焼土粒子少 |
| 2 | 暗褐色 (10YR3/3) | 焼土粒子・炭化粒子少 |
| 3 | 灰黄褐色 (10YR6/2) | 炭化粒子・焼土粒子少 |
| 4 | 暗褐色 (10YR3/4) | 炭化粒子少 |
| 5 | 暗褐色 (10YR3/3) | 炭化粒子少 |

SJ 253

- | | | |
|---|------------------|--------|
| 6 | にぶい黄褐色 (10YR5/3) | 白色微粒子少 |
|---|------------------|--------|

SJ 252 カマドA

- | | | |
|---|------------------|--------------|
| a | 暗褐色 (10YR3/4) | 焼土ブロック・炭化粒子少 |
| b | にぶい黄褐色 (10YR5/3) | 黄褐色シルトブロック少 |
| c | 暗褐色 (10YR3/4) | 焼土ブロック・炭化粒子多 |

0 2m
1:60

第201図 第252・253号住居跡

第252号住居跡出土遺物観察表 (第200図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	高台付埴			(7.2)	BF	良好	灰	70	B区	東濃 K-90 施釉 ハケヌリ
2	高台付坏			(5.1)	ABCFH	良好	黄灰	70	カマド	在地産 磨耗著しい
3	高台付坏	(12.7)	5.5	5.0	ABCHK	不良	にぶい褐	70	カマド	磨耗著しい 酸化焰焼成
4	高台付坏			(5.9)	ABCJK	不良	黄灰	70	覆土	在地産 やや磨耗
5	甕	12.0	14.9	5.8	ABF	不良	にぶい褐	75	+ 3 cm	磨耗
6	甕	16.8	27.0	6.4	ABCJ	不良	にぶい黄橙	65	+ 8 cm	磨耗著しい

第252号住居跡出土土錘観察表 (第200図)

番号	長 さ	径	孔 径	重さ(g)	分 類	色 調	残 存	備 考
7	(5.40)	1.90	0.45	(17.70)	Ca	灰褐	80	A区
8	4.40	1.75	0.45	13.61	Cb	明赤褐	100	A区
9	5.05	1.55	0.50	(9.93)	Ca	にぶい橙	90	B区
10	(3.10)	1.80	0.50	(7.01)	Cb	黒褐	35	A区
11	(2.85)	1.30	0.40	(3.60)	Ca	明赤褐	35	

第254号住居跡 (第202図)

O-19グリッドに位置する。第255号住居跡と3本のグリッドピットに切られる。平面形は南北に長い長方形で、長軸4.31m、短軸3.19m、深さは0.11~0.14mである。主軸方位は長辺でN-26°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

カマド、貯蔵穴は検出されなかった。ピットは南壁の南西コーナー近くに1本検出され、直径65cm、深さは34cmである。

出土遺物で図示できたのは土錘1片のみで、他は小片が少量で、接合しない。須恵器は器種不明が1片、土師器は甕片と思われる。

第255号住居跡 (第202・203図)

O-19・20グリッドに位置する。第254号住居跡を切り、第252号住居跡・第6号掘立柱建物跡に切られ

る。西壁の一部は浅い攪乱に壊されていた。第253号住居跡との関係は不明である。平面形は南北にやや長い長方形で、長軸6.36m、短軸5.57m、深さは0.41~0.46mである。主軸方位はN-101°-Wを指す。

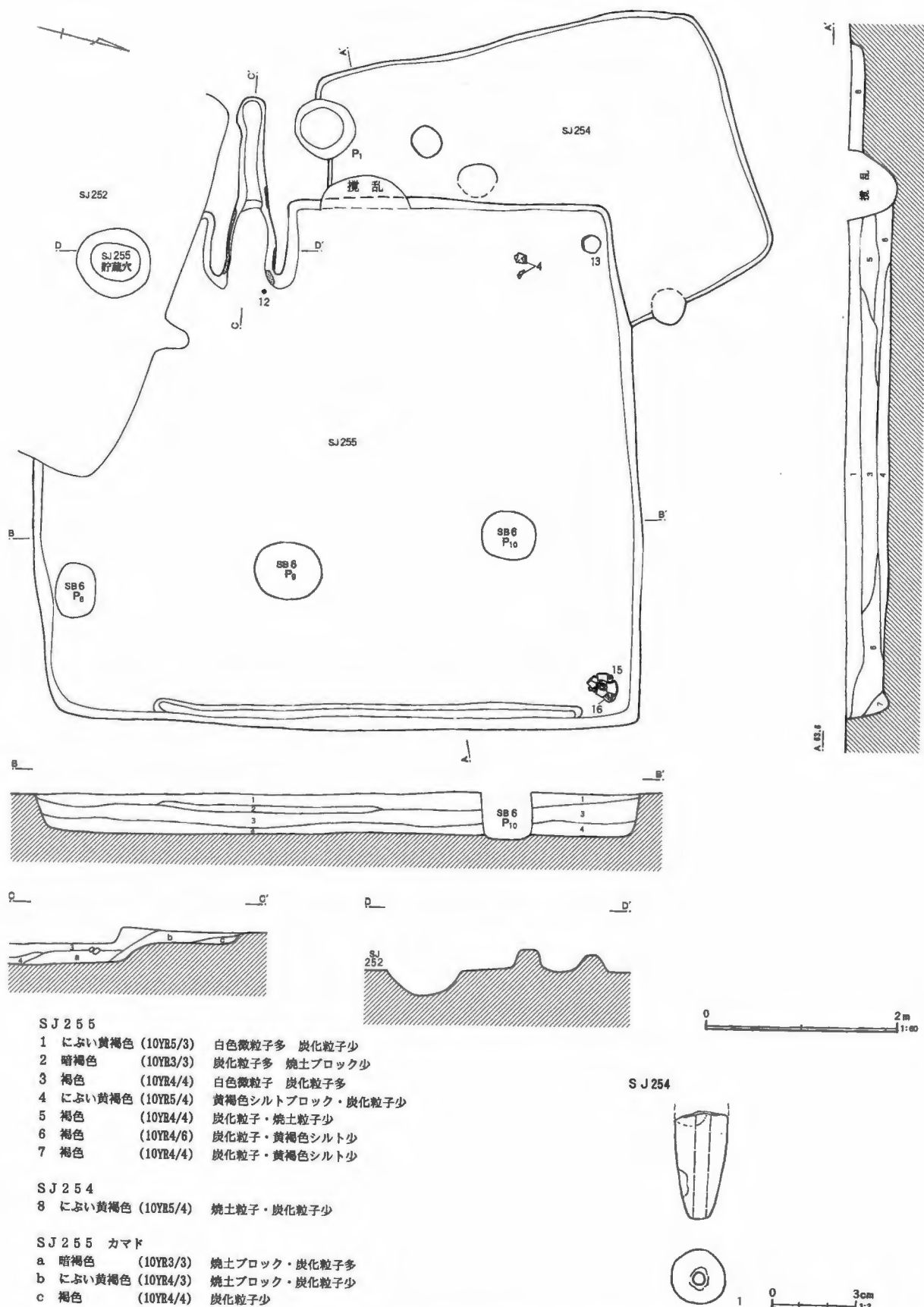
床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

カマドは西壁中央より南に設置される。燃烧部の掘り込みはなく、段を持って煙道部へ続く。カマド内側は一部焼土化していた。貯蔵穴は第252号住居跡の床面に検出した。位置的に南西コーナー近くに設けられたと考えられる。75×70cmの円形で、深さは26cmである。壁溝は東壁にのみ検出され、幅13~28cm、深さは2~5cmである。

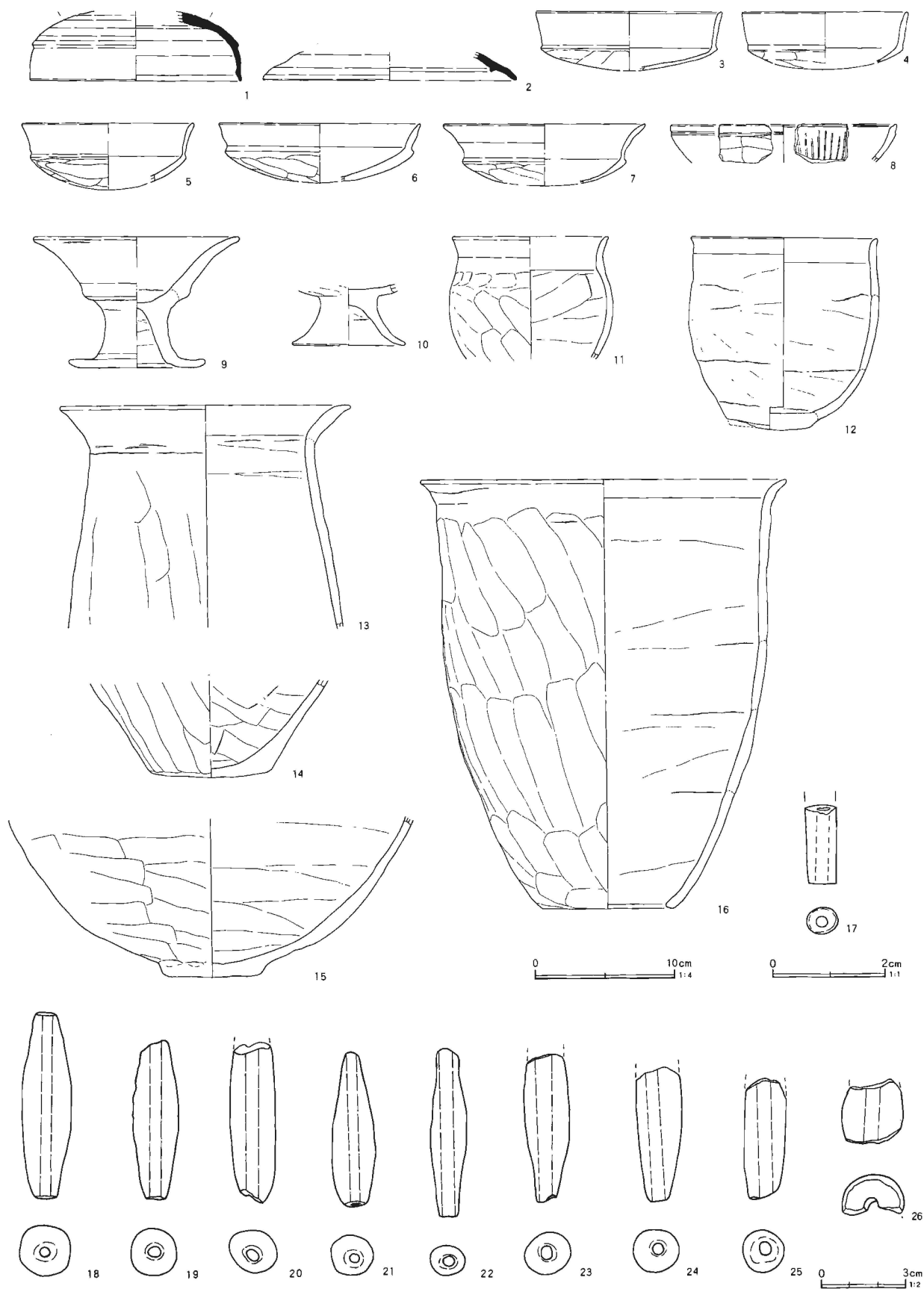
遺物は極めて多量に出土したが、重複する遺構からの混入も多いと思われる。磨耗が激しく、接合率は悪い。須恵器は蓋・坏が、土師器は坏・高坏・甕や甕の取っ手が認められる。また、混入と考えられるが灰釉陶器小片が1片見られる。

第254号住居跡出土土錘観察表 (第202図)

番号	長 さ	径	孔 径	重さ(g)	分 類	色 調	残 存	備 考
1	(3.80)	1.90	0.50	(11.74)	Ca	黒褐	60	A区(西半)



第202図 第254・255号住居跡・出土遺物



第203図 第255号住居跡出土遺物

第255号住居跡出土遺物観察表（第203図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	蓋	(15.0)	4.2		BJL	良好	灰	25	B・C区	産地不明 天井部内面に青海波当具痕
2	蓋	(18.0)			AFJL	良好	灰	10	覆土	末野産
3	坏	(13.2)			EJ	不良	にぶい褐	20	A区	
4	坏	11.8			JL	不良	橙	60	床	内外面磨耗著しい
5	坏	12.2	9.3	(9.6)	BEJ	不良	にぶい橙	60	床	内外面赤彩か やや磨耗
6	坏	(14.2)			BJL	不良	橙	20	A区	内外面磨耗著しい
7	坏	(14.3)			BEJL	不良	橙	15	覆土	
8	坏	(16.0)			BJ	普通	橙	5	C区	内面放射状暗文
9	高 坏	(14.6)			ABCEJL	普通	にぶい赤褐	60	床	
10	高 坏				ABCJL	不良	橙	40	床	
11	小 型 甕	(11.0)			ABDEJL	不良	橙	25	覆土	内外面磨耗著しい
12	小 型 甕	13.2			BCJL	不良	にぶい黄橙	80	床	内外面磨耗著しい
13	甕	20.6			BCJL	不良	にぶい黄橙	80	+ 4 cm	内外面磨耗著しい
14	甕				BJL	不良	にぶい赤褐	60	覆土	
15	甕				BJL	不良	橙	90	床	内外面磨耗著しい
16	甕	(26.0)	30.7	(9.8)	BCJL	不良	にぶい黄橙	60	床	内外面磨耗著しい
17	管 玉	残存長1.40cm	直径0.50cm	孔径0.20cm	重さ0.70g			—	A区	碧玉製 上部欠損

第255号住居跡出土土錘観察表（第203図）

番号	長 さ	径	孔 径	重さ(g)	分 類	色 調	残 存	備 考
18	6.55	1.80	0.35	20.82	Cb	にぶい黄橙	100	A区
19	5.60	1.70	0.40	14.60	Ca	にぶい褐	100	C区
20	(5.65)	1.75	0.50	(14.23)	Ca	灰白	90	C区
21	5.40	1.55	0.30	11.36	Ca	にぶい橙	100	C区
22	5.90	1.25	0.45	6.34	Ca	にぶい褐	100	B区
23	(5.20)	1.70	0.50	(10.79)	Ca	浅黄橙	85	C区
24	(4.70)	1.60	0.45	(11.07)	Ca	明赤褐	70	C区
25	(4.20)	1.55	0.50	(8.90)	Ca	にぶい黄橙	60	C区
26	(2.20)	(2.20)	(0.50)	(6.25)	—	明赤褐	10	A区

第256号住居跡（第204・205図）

N・O—19・20グリッドに位置する。用地の関係で2年度に分けて調査された。東壁は攪乱で壊され、西半は検出できなかった。平面形は不明で、南北は6.28m、南辺が2.8m検出された。深さは0.11～0.25mである。主軸方位は南壁でN—64°—Eを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は4層に分けられるが、上層は埋めら

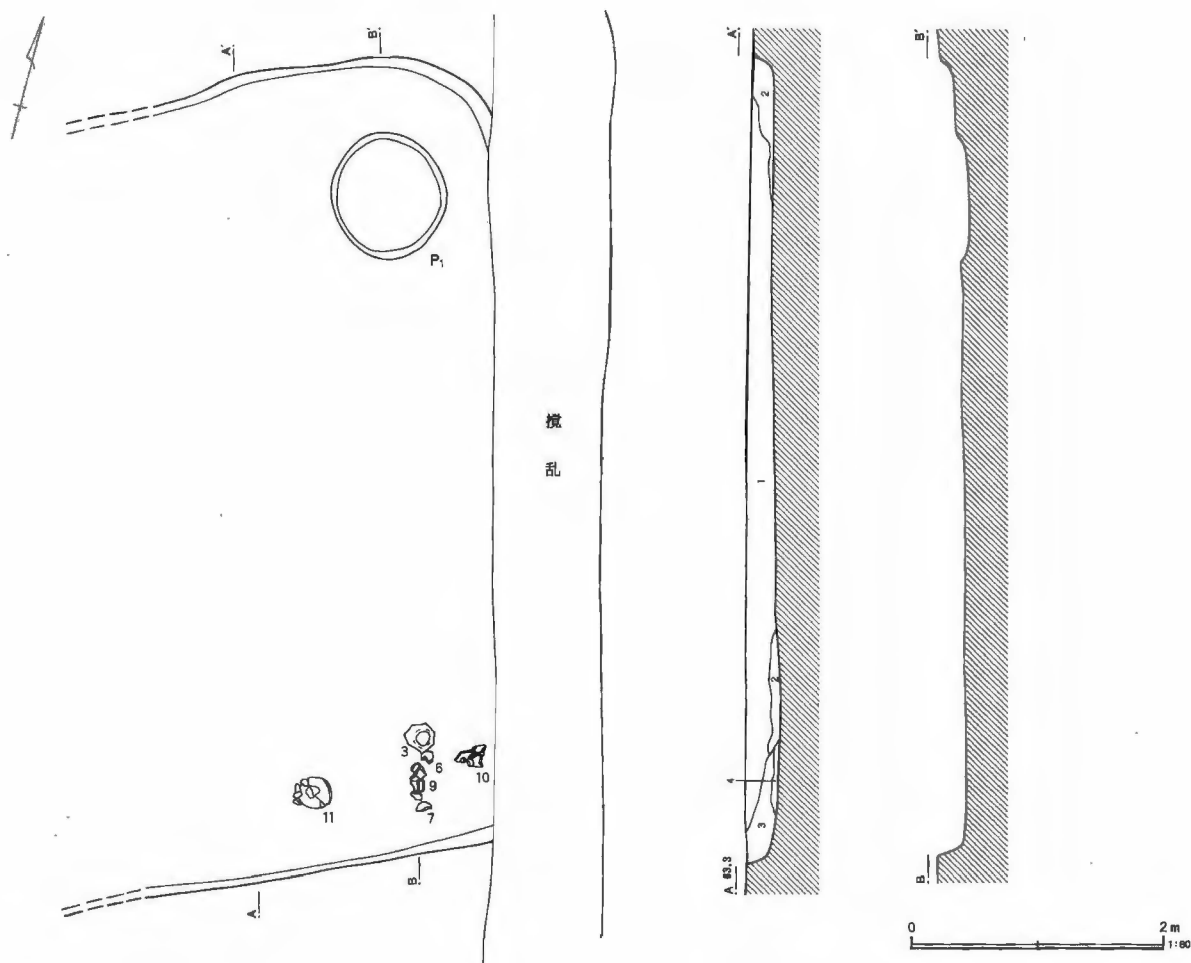
れた可能性も考えられる。

カマド、貯蔵穴は検出されなかった。ピットは北東コーナーに検出され、直径90cm、深さ6cmである。やや浅いが貯蔵穴の可能性もある。

遺物はやや多く出土したが、図示した個体以外はほとんど接合しない。須恵器は高坏脚部・甕胴部が、土師器には坏・大型の甕胴部が見られる。

第256号住居跡出土遺物観察表（第205図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	壺				BJL	良好	灰	15	覆土	末野産 底部外面へラ記号？
2	高 坏				ABJ	良好	灰白	10	覆土	末野産 方形透孔2ヶ所残存
3	甕	18.0	3.8		BJL	良好	灰	90	+ 3 cm	末野産 頸部内面に押圧痕が均等に巡る
4	坏	13.0			ABDJL	普通	褐	75	覆土	
5	坏	(13.0)			ABFJL	不良	灰褐	30	覆土	内外面黒色処理
6	坏	13.2			ABEJL	不良	橙	70	+ 7 cm	
7	坏	11.6	3.8	7.6	ABEJL	不良	にぶい橙	60	+ 8 cm	内外面磨耗著しい
8	小 型 甕				ABJL	普通	にぶい橙	40	覆土	底部木葉痕



SJ256

1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子少
2 褐色 (10YR4/4) 焼土粒子・炭化粒子少

3 黒褐色 (10YR2/3) 焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子極多
4 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子僅か

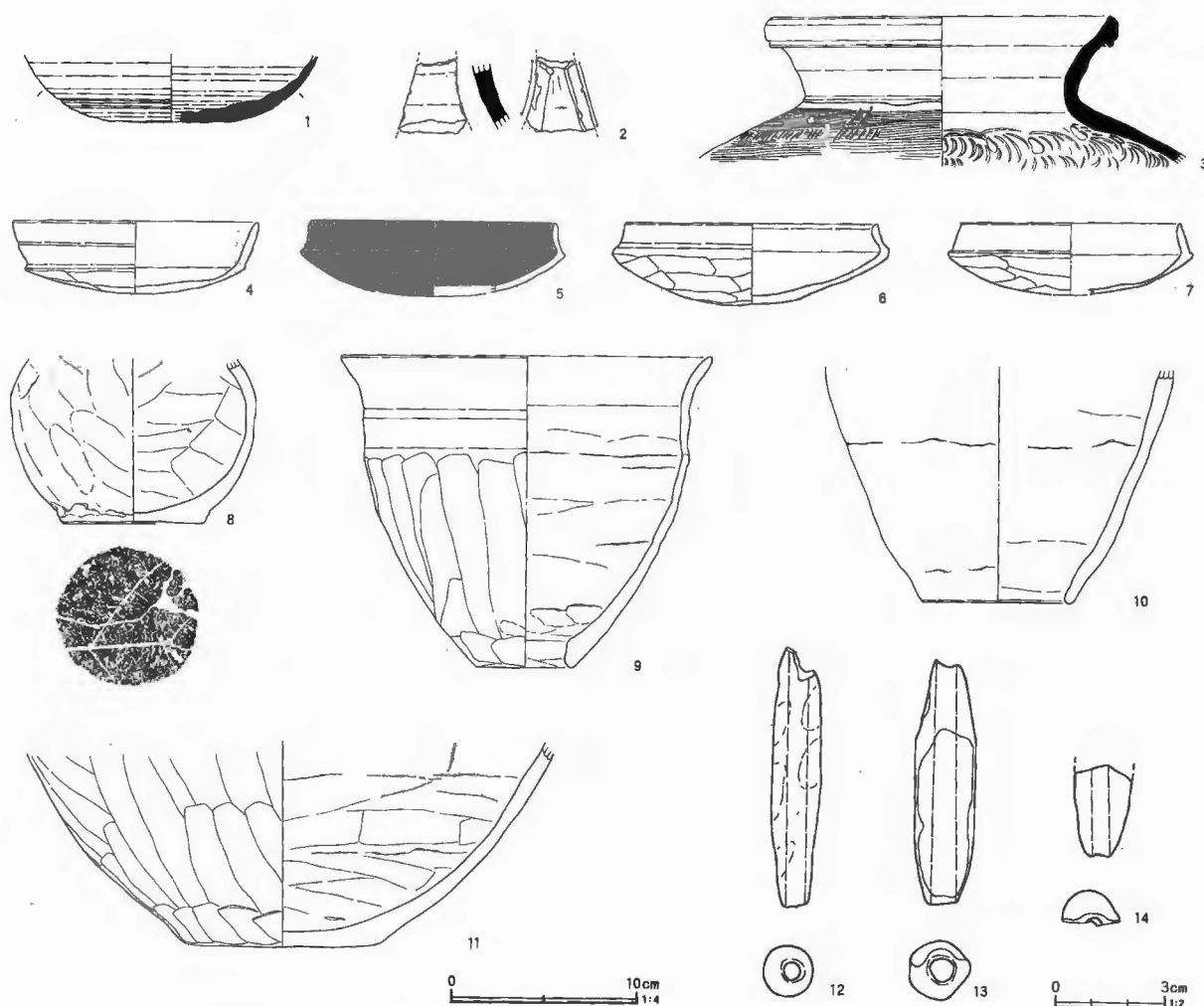
第204図 第256号住居跡

第256号住居跡出土遺物観察表 (第205図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
9	甗	19.8	16.7	5.2	ABCEJL	不良	にふい橙	50	+8cm	内外面やや磨耗する
10	甗			8.0	ABCEJL	不良	にふい黄橙	60	+14cm	内外面磨耗著しい
11	甗			10.4	BEJL	普通	にふい赤褐	90	床	

第256号住居跡出土土錘観察表 (第205図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
12	7.00	1.90	0.50	(11.02)	Ba	浅黄橙	95	
13	6.65	1.65	0.65	(10.06)	Ca	にふい黄橙	65	
14	(2.45)	(1.55)	(0.50)	(2.52)	Ca	にふい橙	10	



第205図 第256号住居跡出土遺物

第361号住居跡（第206・207・208・209図）

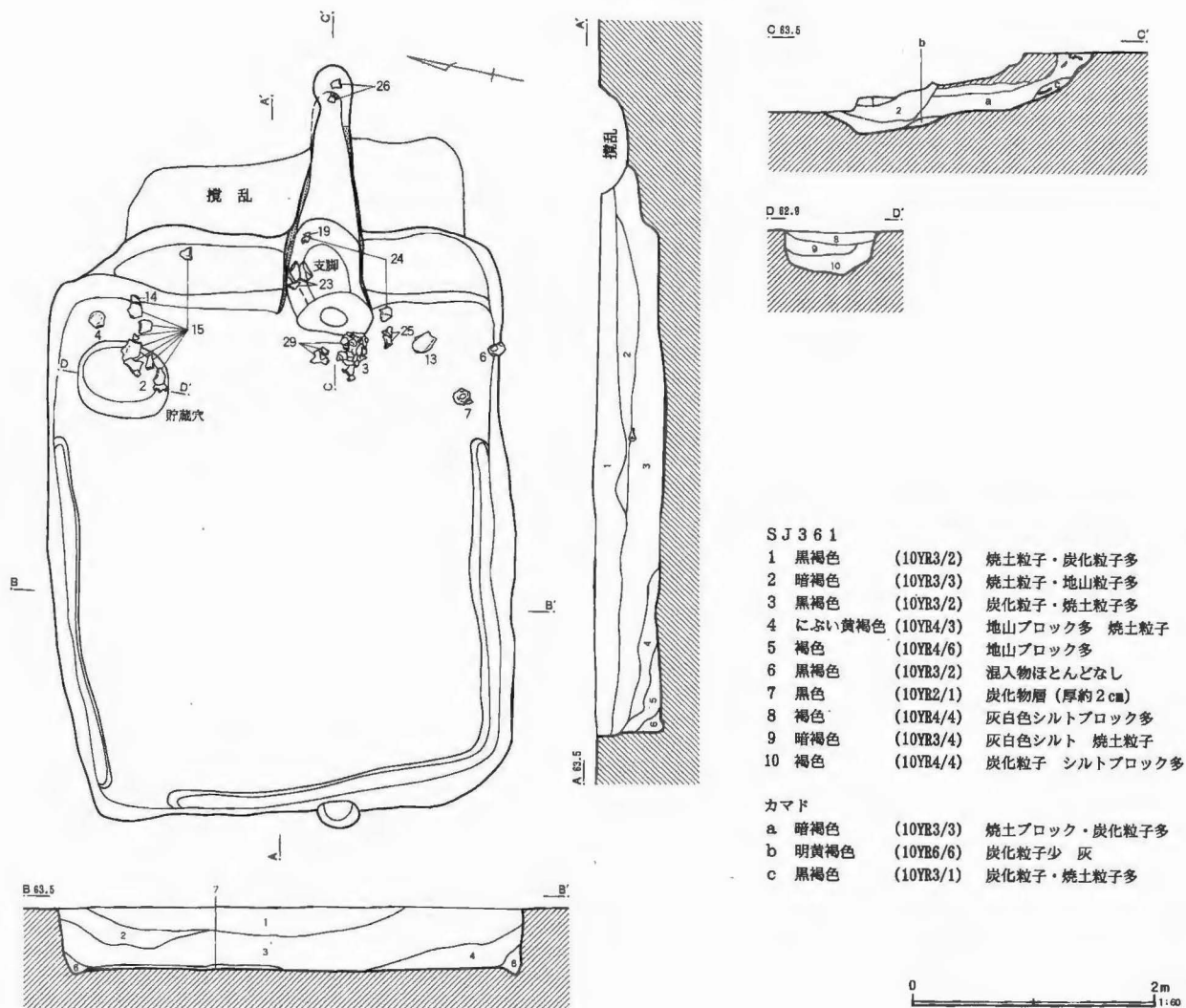
M-17グリッドに位置する。第362・363・364・380号住居跡・第214号土坑と重複し、本住居跡が最も新しい。東壁からカマド煙道部を浅い攪乱に壊される。平面形は東西に長い長方形で、長軸4.87m、短軸3.85m、深さは0.57~0.64mである。主軸方位はN-81°-Eを指す。

床面はやや起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土中の第7層は、床面直上で検出され、炭化しているガムシロ状である。

カマドは東壁中央よりやや南に設置される。燃焼部は床面を15cm程掘り込み、緩やかな段を持って煙

道部へ続く。煙道部では天井部が遺存しており、カマド内壁が焼土化していた。カマドの左右には棚状の段が検出された。貯蔵穴は北東コーナーに設けられ、86×61cmの楕円形で、深さは31cmである。壁溝は北壁と西壁から南壁にかけて検出され、幅18~38cm、深さは2~3cmである。

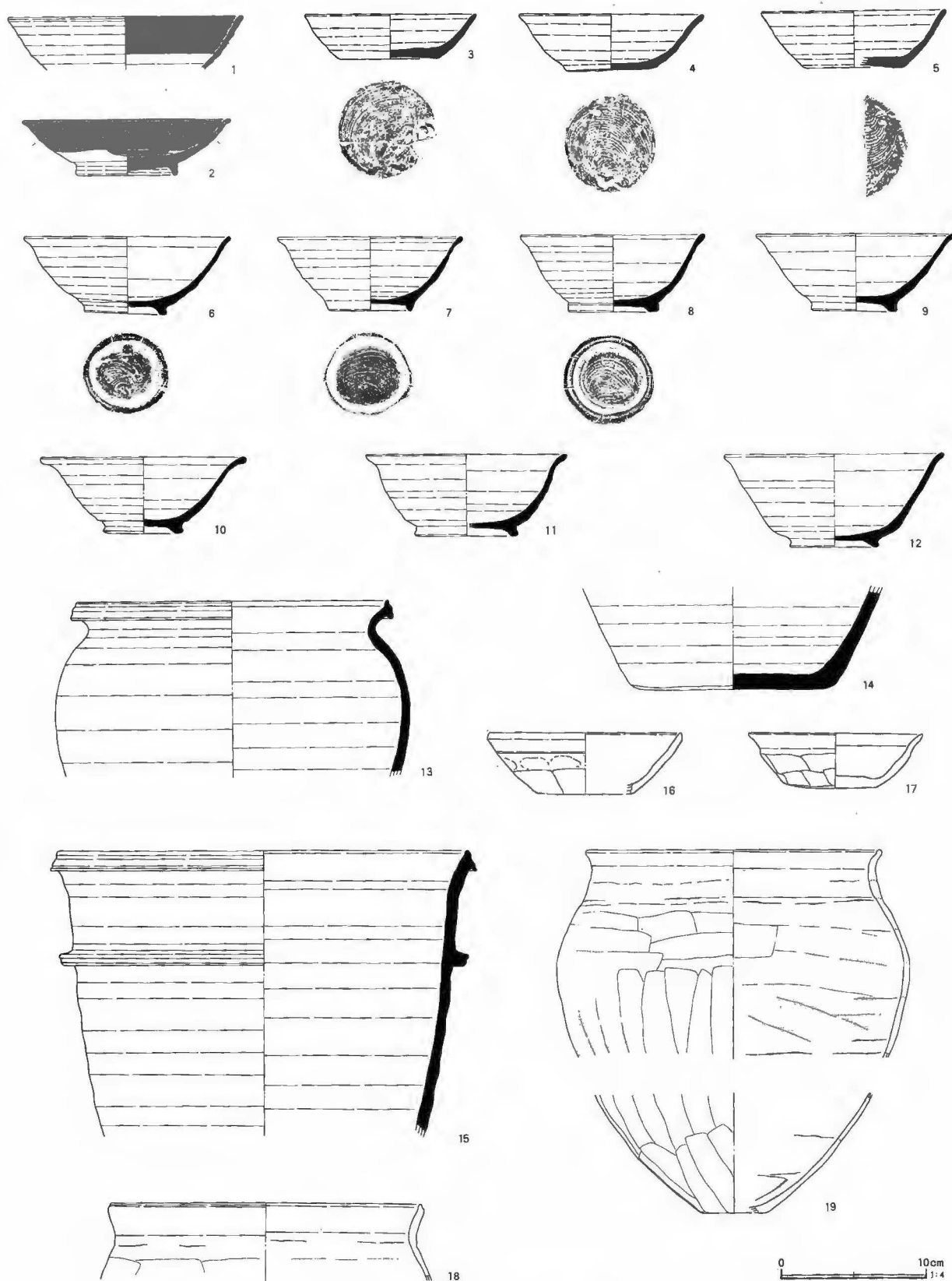
遺物は極めて多く出土し、接合率も良い方である。灰釉陶器が2個体出土した。須恵器は蓋・坏・高台付坏・甕・羽釜等が、土師器には坏・甕が認められる。第208図-32は鉄製刀子で茎の部分が彎曲し、木製の目釘が遺存していた。土鍾が破片を含めて27点出土した。



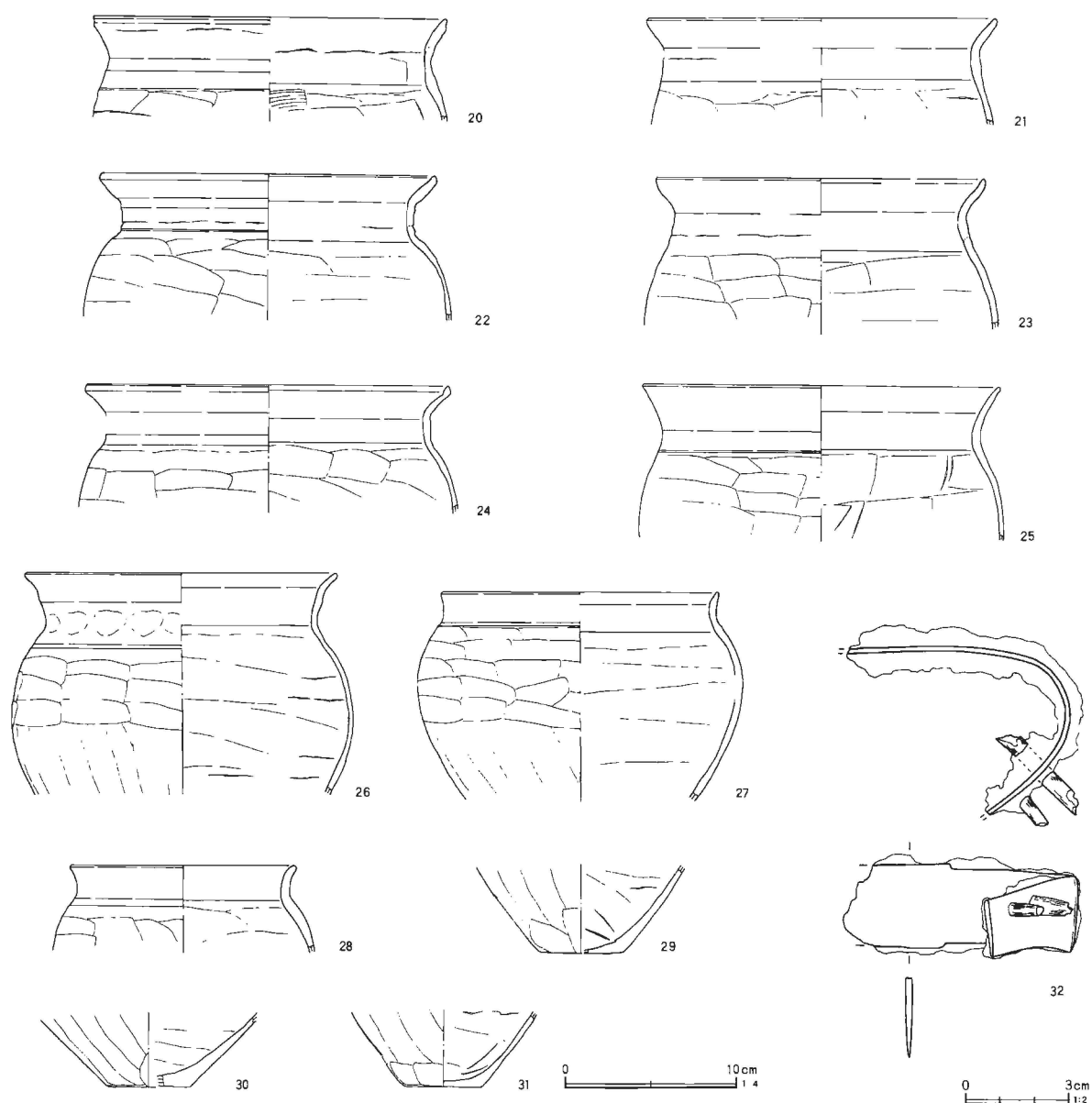
第206図 第361号住居跡

第361号住居跡出土遺物観察表 (第207図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	埵	(16.0)			BF	普通	灰白	10	B区	光ヶ丘 施釉 ハケヌリ
2	高台付 埵	(14.0)	3.8	(6.6)	BF	普通	灰白	60	貯蔵穴	光ヶ丘 K-90 施釉 ハケヌリ 貼付高台
3	坏	11.6	3.1	6.6	BJL	良好	灰	95	床	末野産
4	坏	12.4	3.9	6.2	BJL	良好	灰	90	+12cm	末野産
5	坏	(12.6)	3.9	(6.6)	BIJL	良好	灰	40	B区	南比企産
6	高台付 坏	14.0	5.3	5.6	BJL	普通	灰白	70	+47cm	末野産
7	高台付 坏	(12.6)	5.1	(5.6)	BJ	普通	にぶい橙	60	+30cm	末野産
8	高台付 坏	(12.6)	5.3	6.1	BJ	普通	灰白	60	覆土	末野産
9	高台付 坏	13.6	5.3	5.8	BJL	普通	灰黄	70	B区	末野産 底部回転糸切後、高台を貼付
10	高台付 坏	(14.0)	5.3	(5.4)	BJ	普通	灰白	30	A区	末野産 底部回転糸切後、高台を貼付
11	高台付 坏	(13.6)	5.6	(7.0)	BJL	普通	灰黄	20	B区	末野産 底部回転糸切後、高台を貼付
12	高台付 埵	(15.0)	6.4	6.1	BJL	普通	灰黄褐	40	A区	末野産 底部回転糸切後、高台を貼付
13	鉢	(21.0)			BJL	普通	灰	30	+13cm	末野産
14	甕			(14.0)	BJL	良好	灰	40	床	末野産 底部ヘラケズリ
15	羽 釜	(28.0)			BJ	普通	灰白	60	床・貯蔵穴	
16	坏	(13.0)	4.2	(6.6)	ABJ	普通	にぶい褐	20	C・D区	
17	坏	11.8	3.8	6.2	BDJ	普通	橙	100	D区	
18	甕	(21.0)			DEJ	普通	にぶい黄橙	25	A区	



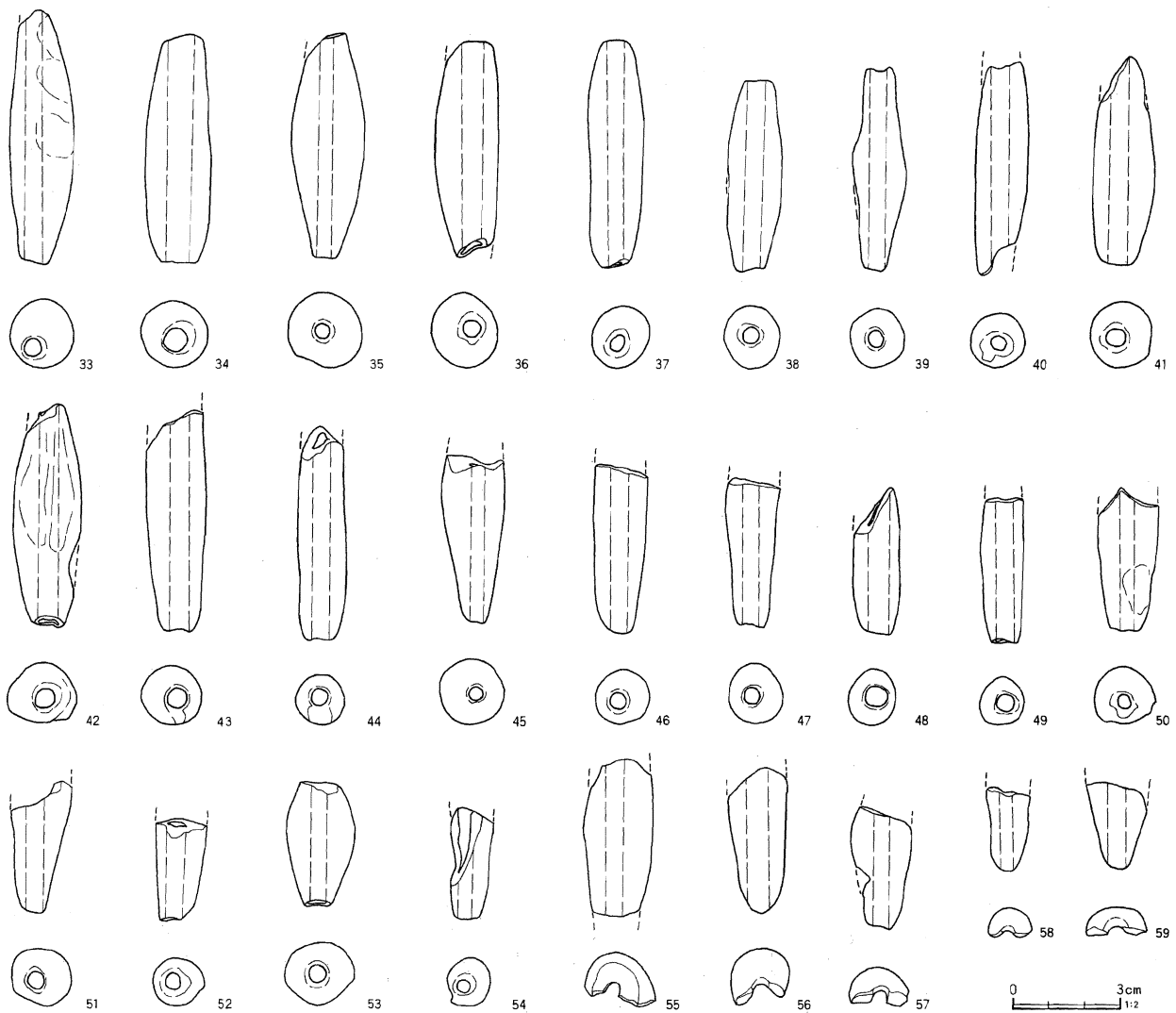
第207図 第361号住居跡出土遺物(1)



第208図 第361号住居跡出土遺物(2)

第361号住居跡出土遺物観察表 (第207・208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
19	甕	(20.0)	—	(4.5)	BJ	不良	にぶい黄橙	60	カマド	内外面磨耗著しい 器形やや歪みあり
20	甕	(20.2)			BCJL	普通	にぶい赤褐	15	A区	
21	甕	(20.0)			BEJL	普通	にぶい橙	20	カマド	
22	甕	(19.0)			BDEJ	普通	にぶい橙	15	カマド	
23	甕	(18.8)			BCEJL	普通	橙	40	カマド	
24	甕	(20.8)			ABEJL	普通	にぶい橙	15	カマド	
25	甕	(20.6)			BDEJL	普通	にぶい褐	20	床	
26	甕	(17.6)			BJ	普通	にぶい褐	15	カマド	
27	甕	(16.0)			BEJL	普通	にぶい褐	15	A区	
28	甕	(13.0)			BJ	普通	にぶい黄橙	25	覆土	
29	甕			4.8	BDEJ	普通	にぶい褐	60	床	
30	甕			(4.6)	ABCJ	普通	にぶい橙	40	覆土	
31	甕			4.4	ABDJ	普通	褐	70	A区	
32	刀	子 現存長6.70cm+2.70cm		背幅0.25cm		刃幅2.30cm		60	覆土	重さ35.98g 木質部残存 折れ曲がる



第209図 第361号住居跡出土遺物(3)

第361号住居跡出土土錘観察表 (第209図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
33	7.05	1.90	0.55	(23.87)	Ca	にふい黄橙	95	A区
34	6.35	1.85	0.65	22.52	Cb	にふい褐	100	C区
35	6.25	2.10	0.40	(23.71)	Ca	にふい橙	95	B区
36	(6.00)	2.00	0.50	(21.29)	Ca	明赤褐	85	C区 砂粒目立つ
37	6.35	1.75	0.50	17.59	Ba	橙	100	B区
38	5.30	1.70	0.45	(13.21)	Ca	橙	95	D区
39	5.65	1.65	0.50	(10.55)	Ca	橙	95	
40	(6.00)	1.50	0.45	(11.51)	Ca	にふい黄褐	85	C区
41	(5.75)	1.80	0.55	(15.43)	Ca	赤褐	95	C区 砂粒目立つ
42	(6.20)	1.95	0.60	(18.78)	Cb	にふい赤褐	95	C区
43	(6.20)	1.70	0.55	(16.01)	Ca	にふい黄橙	85	C区
44	(6.00)	1.40	0.45	(11.40)	Ba	にふい赤褐	90	A区
45	(4.70)	1.80	0.35	(13.34)	Ca	褐	65	A区
46	(4.30)	1.50	0.45	(11.83)	Ba	赤褐	70	C区
47	(4.20)	1.60	0.50	(7.84)	Ba	にふい黄褐	60	C区
48	(4.10)	1.55	0.60	(7.04)	Ba	明褐	85	C区
49	(4.10)	1.30	0.50	(6.04)	Ba	にふい黄橙	90	C区
50	(4.00)	(1.70)	0.40	(8.61)	Ca	黒褐	40	D区
51	(3.70)	1.70	0.50	(6.66)	Ca	橙	45	B区

第361号住居跡出土土錘観察表 (第209図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
52	(2.80)	1.45	0.45	(4.85)	Ca	明赤褐	35	B区
53	(3.50)	1.90	0.50	(9.67)	Ca	赤褐	90	A区 砂粒目立つ
54	(3.15)	1.35	0.40	(3.53)	Ca	明黄褐	30	
55	(4.40)	2.00	0.50	(10.69)	Ca	にぶい褐	40	
56	(4.10)	(1.80)	(0.45)	(4.34)	Ca	褐	25	
57	(3.40)	(1.65)	(0.50)	(7.13)	Ca	灰褐	20	
58	(2.35)	(1.20)	(0.35)	(2.17)	Ba	赤褐	15	C区
59	(2.50)	(1.75)	(0.45)	(2.16)	Ca	明褐	10	B区

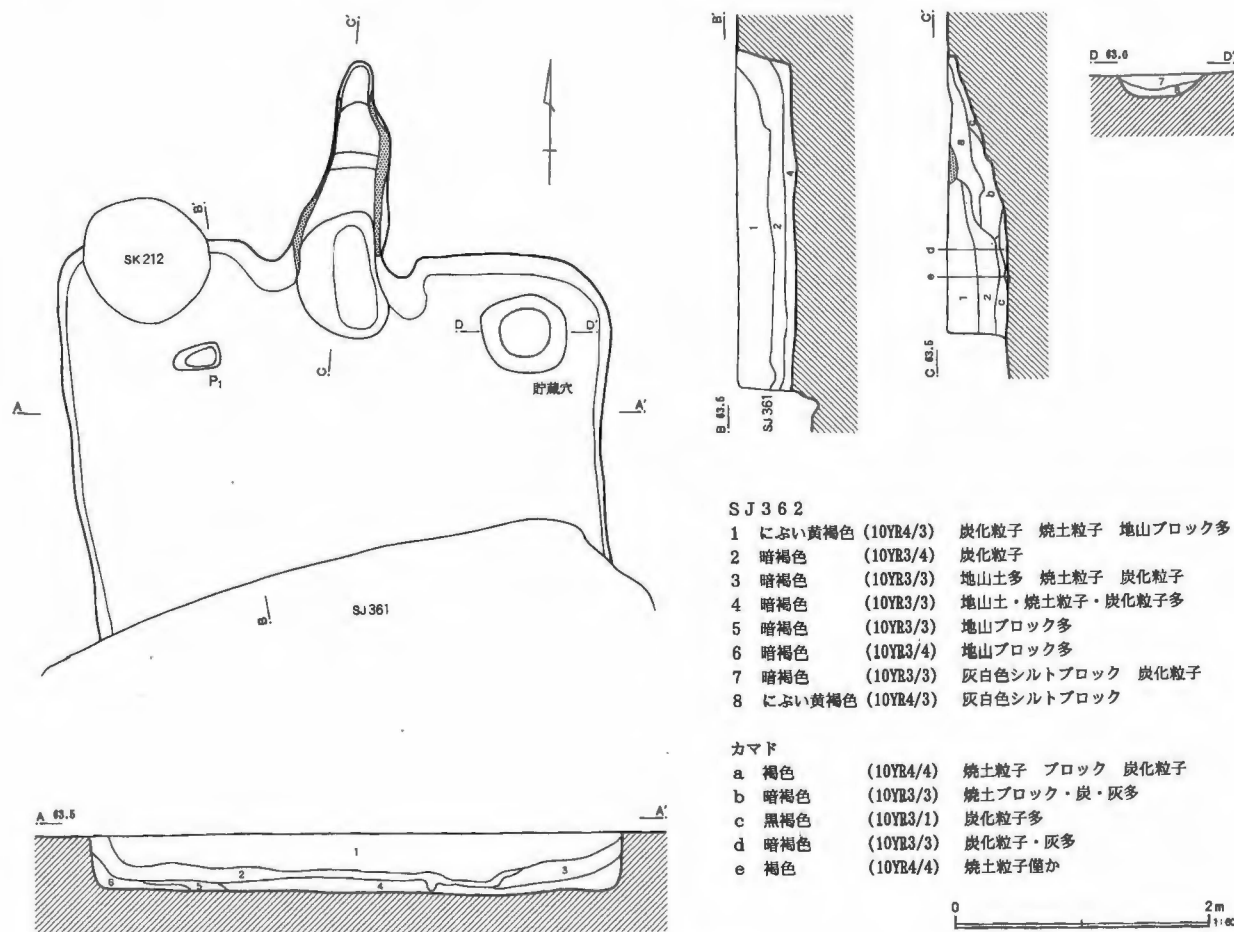
第362号住居跡 (第210・211図)

L・M-17グリッドに位置する。第367・372・380号住居跡を切り、南半を第361号住居跡に、北西コーナー付近を第212号土坑に切られる。東西4.38m、南北は西壁で3.04mが検出された。深さは0.41~0.45mである。主軸方位はN-6°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土は6層に分けられるが、第1層に含まれる

地山ブロックは角張り、人為的な埋め戻しの可能性がある。

カマドは北壁中央に設置される。燃焼部の掘り込みはなく、小さな段を持って緩やかに煙道部へ続き、内壁は焼土化していた。覆土には明瞭な焼土が遺存していた。貯蔵穴は北東コーナーに設けられ、70×59cmの不整円形で、深さは15cmである。壁溝は検出されなかった。ピットは1本検出され、深さは4cmで

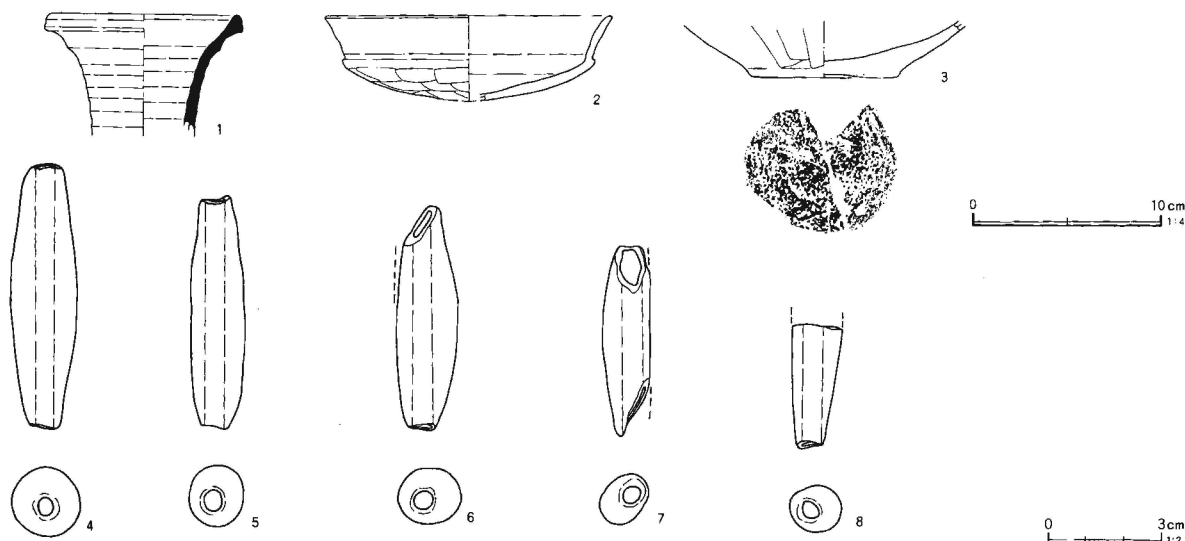


第210図 第362号住居跡

ある。

遺物は多量に出土したが、接合率は悪い。須恵器は図示した以外に甕片が2片見られるだけで、土師

器は坏・甕・取っ手付甕が認められる。赤彩された比企型坏の小片が1片出土した。



第211図 第362号住居跡出土遺物

第362号住居跡出土遺物観察表（第211図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	瓶	(9.8)			BF	良好	黄灰	30	覆土	産地不明(群馬・秋間産?) 自然釉 胎土緻密
2	坏	(14.9)			ABEF	良好	にぶい橙	30	覆土	やや磨耗
3	甕		7.8		ABCHJ	不良	にぶい黄橙	60	覆土	底部木葉痕

第362号住居跡出土土錘観察表（第211図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
4	7.00	1.85	0.50	19.68	Ca	にぶい赤褐	100	
5	6.10	1.65	0.60	(13.29)	Ca	にぶい橙	95	
6	(5.85)	1.70	0.50	(12.43)	Ca	橙	95	砂粒目立つ
7	(5.00)	1.45	0.55	(6.33)	B'a	橙	70	砂粒目立つ
8	(3.30)	1.35	0.55	(3.77)	Ca	にぶい黄橙	55	

第363号住居跡（第212・213図）

M-17グリッドに位置する。第364号住居跡を切り、第361号住居跡に切られる。南半は調査区域外にある。本住居跡は第368号住居跡を拡張した住居跡と判断した。平面形は東西に長い長方形と考えられるが、西側がやや膨らむようである。東西は4.46m、西壁で2.50mが検出された。深さは0.45～0.51mである。主軸方位はN-75°-Eを指す。

床面はやや起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。

カマドは東壁に設置される。燃烧部は床面を20cmほど掘り下げ、煙道部は急激に立ち上がる。底面に

は明瞭な焼土層が観察された。貯蔵穴、壁溝は検出されなかった。

遺物は小片が少量で、図示できたのは土錘のみである。須恵器は坏・高坏脚部が、土師器には坏・高坏・甕が認められるが、他の遺構からの混入も考えられる。

第364号住居跡（第212・213図）

M-17グリッドに位置する。第361・363・368号住居跡に切られ、西壁は3本のグリッドピットに壊される。平面形は不明とせざるを得ない。南北は西壁

で3.88m、東西は2.23m検出されたのみである。深さは0.38~0.46mである。主軸方位は西壁でN-18°-Wを指す。

床面はやや起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は6層に分けられるが概ね自然堆積と考えられる。

カマド、貯蔵穴等の施設は検出されなかった。

遺物は少量で、図示した以外はほとんど接合しない。須恵器は高坏・甕が、土師器には坏・甕が認められる。

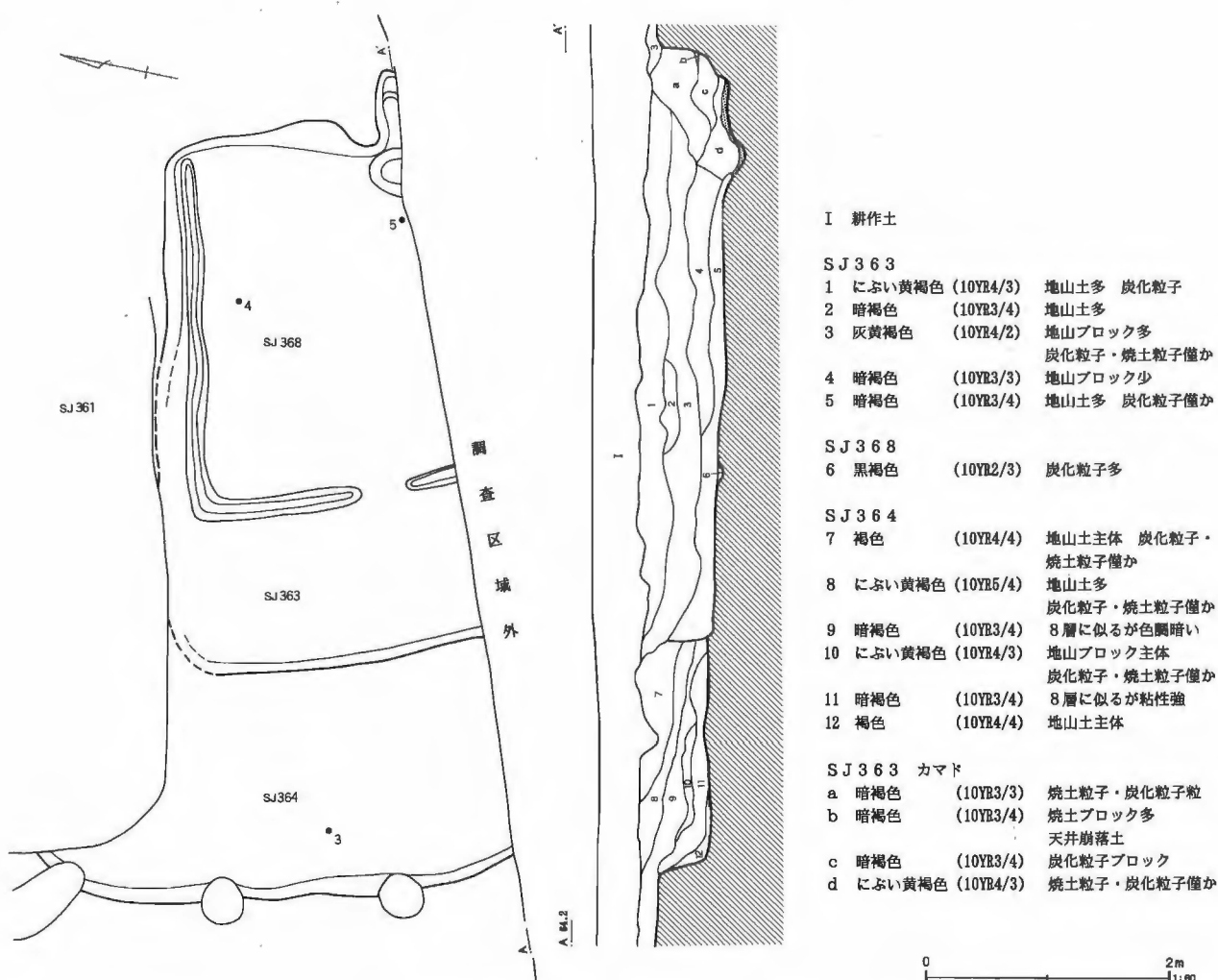
第368号住居跡 (第212・213図)

M-17・18グリッドに位置する。第364号住居跡を切り、第361号住居跡に切られる。南半は調査区域外

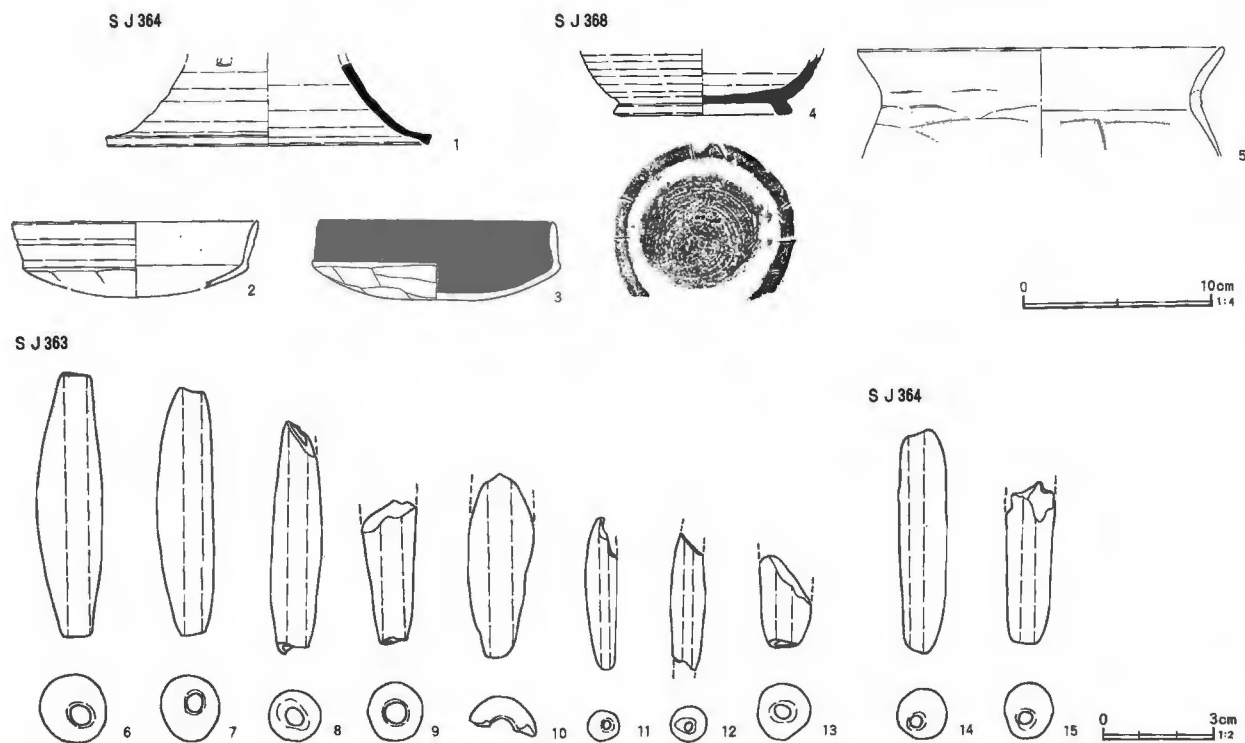
にある。本住居跡は第363号住居跡の床面に壁溝が検出され確認できたもので、第363号住居跡は本住居を拡張したものと考えられる。平面形はやや歪んだ正方形と思われ、東西3.18m、南北は西壁で2.19mが検出された。深さは0.51m前後だが本来の床面かどうかは明瞭でない。主軸方位はN-75°-Eを指す。

床面、壁の状態は不明である。覆土は壁溝のみ遺存していた。壁溝は東壁以外で全周するようだが、西側は一部途切れる。幅12~16cm、深さは2~7cmである。カマドは第363号住居跡と同位置とも考えられるが不明とせざるを得ない。

遺物は少量で、須恵器は図示した1点のみで、土師器は坏・甕が認められる。



第212図 第363・364・368号住居跡



第213図 第363・364・368号住居跡出土遺物

第364号住居跡出土遺物観察表 (第213図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	高 坏			(17.0)	BJ	良好	灰	10	覆土	末野産 方形透孔1ヶ所残存
2	坏	(13.0)			BEJ	普通	灰褐	15	覆土	
3	坏	(12.2)	4.2		BEJ	普通	にぶい褐	40	+ 8 cm	内外面黒色処理 磨耗著しい

第368号住居跡出土遺物観察表 (第213図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
4	高台付 埴 鉢			9.4	JL	普通	灰白	60	+ 4 cm	末野産 底部回転糸切後、高台を貼付
5		(19.4)			BCJ	不良	橙	20	+16cm	内外面磨耗著しい

第363号住居跡出土土錘観察表 (第213図)

番号	長 さ	径	孔 径	重さ(g)	分 類	色 調	残 存	備 考
6	6.95	1.85	0.60	19.81	Ca	にぶい黄橙	100	
7	6.55	1.80	0.50	17.47	Ba	赤褐	100	
8	6.20	1.35	0.55	(9.31)	Ba	明黄褐	95	
9	(3.85)	1.55	0.60	(6.13)	Ca	灰黄褐	55	
10	(4.85)	(1.80)	(0.65)	(4.91)	Ca	にぶい黄褐	30	
11	(4.05)	0.85	0.25	(2.52)	Ba	明赤褐	95	砂粒目立つ
12	(3.60)	0.95	0.25	(2.99)	Ba	明赤褐	80	砂粒目立つ
13	(2.45)	(1.50)	0.45	(3.73)	Ca	褐	25	

第364号住居跡出土土錘観察表 (第213図)

番号	長 さ	径	孔 径	重さ(g)	分 類	色 調	残 存	備 考
14	5.90	1.35	0.35	10.81	Ba	明赤褐	100	
15	(4.30)	1.50	0.35	(7.97)	Ba	暗赤褐	55	

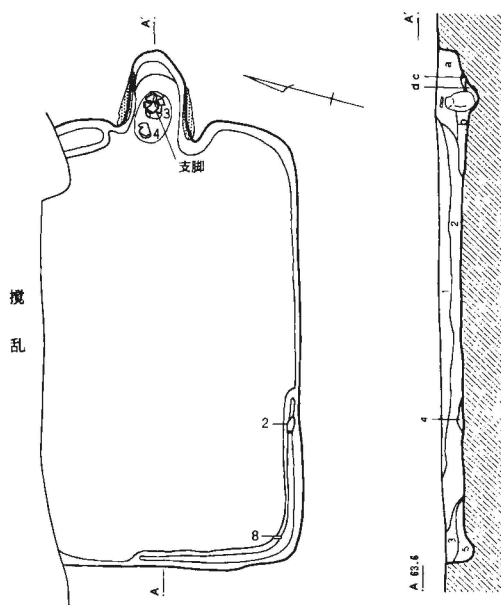
第365号住居跡（第214・215図）

L-17・18グリッドに位置する。第213・214・403号住居跡を切り、北側を攪乱に壊される。平面形は東西に長い長方形と思われる、東西が3.54m、南北は1.82m検出された。深さは0.15～0.20mである。主軸方位はN-77°-Eを指す。

床面はやや起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。

カマドは東壁に設置される。燃烧部は10cm程掘り下げ、川原石を利用した支脚が出土した。貯蔵穴は検出されなかった。壁溝はカマド左と南西コーナー付近で検出され、幅11～17cm、深さ5～7cmである。

遺物はやや多量に出土したが、接合率は悪い。須恵器は高台付坏・甕が、土師器は甕が認められる。



SJ365

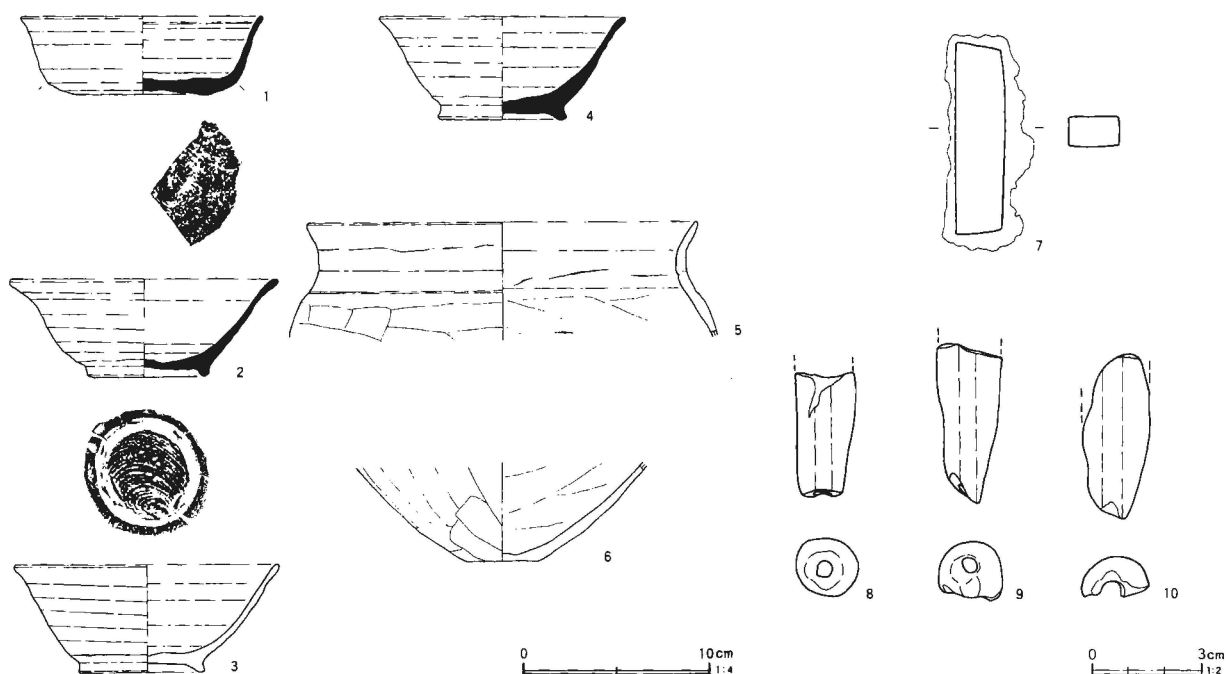
- | | | |
|-------|-----------|---------------------|
| 1 褐色 | (10YR4/4) | 地山ブロック多 暗褐色ブロック少 |
| 2 暗褐色 | (10YR3/3) | 地山ブロック |
| 3 褐色 | (10YR4/4) | 灰白色シルトブロック |
| 4 褐色 | (10YR4/4) | 灰白色シルト・地山ブロック多 |
| 5 褐色 | (10YR4/4) | 灰白色シルト・地山ブロック多 炭化粒子 |

カマド

- | | | |
|-------|------------|------------------|
| a 暗褐色 | (10YR3/2) | 焼土粒子・焼土ブロック |
| b 赤褐色 | (2.5YR4/8) | 焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子 |
| c 黒褐色 | (10YR3/1) | 焼土粒子 |
| d 暗褐色 | (10YR3/2) | 焼土粒子 |



第214図 第365号住居跡



第215図 第365号住居跡出土遺物

第365号住居跡出土遺物観察表 (第215図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(12.6)	4.2	(7.2)	BJ	良好	灰	30	覆土	群馬産? 底部へラ切り
2	高台付 埴	14.2	5.2	6.4	BJL	不良	暗灰黄	95	+6cm	在地産
3	高台付 埴	14.1	5.7	6.6	BJL	不良	橙	70	カマド	在地産 酸化焙焼成
4	高台付 埴	(13.0)	5.5	6.8	BDEJ	普通	浅黄橙	60	カマド	在地産
5	甕	(20.6)			BDEJ	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
6	甕			3.8	BDEJ	普通	にぶい黄橙	40	覆土	
7	不明鉄製品	縦5.10cm 横1.35cm 厚さ0.80cm 重さ51.51g						—	床	

第365号住居跡出土土錘観察表 (第215図)

番号	長 さ	径	孔 径	重さ(g)	分 類	色 調	残 存	備 考
8	(3.25)	1.65	0.45	(7.80)	Cb	にぶい黄橙	50	
9	(4.20)	1.70	0.40	(7.91)	Ca	橙	50	
10	(4.30)	(1.80)	(0.55)	(5.96)	Ca	赤褐	35	

第367号住居跡 (第216・217・218図)

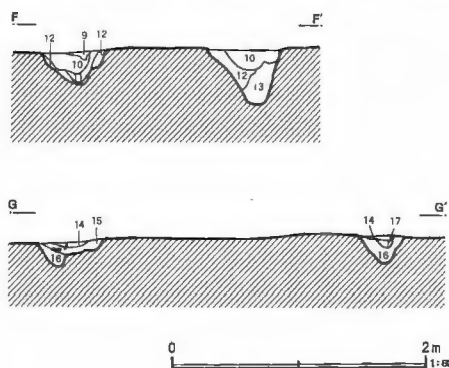
L・M—17グリッドを中心に位置する。第378・381・388・395号住居跡を切り、第362・366号住居跡に切られる。平面形は南壁がやや長いが正方形に近い。長軸5.90m、短軸5.37m、深さは0.33～0.37mである。主軸方位はN—24°—Wを指す。

床面はやや起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土の上層3層(第1層～3層)は、類似し人為的な埋め戻しと考えられる。

カマドは北壁中央よりやや西に設置される。燃焼部はやや左に寄っており、床面を10cm程掘り込む。自然石利用の支脚が出土し、段を持って煙道部へ続

く。明瞭な焼土層が観察された。貯蔵穴は明確に検出されなかったが、位置的にP2はその可能性が高い。壁溝はカマド周辺と南壁以外で検出されたが、断続的である。幅10～18cm、深さは2～7cmである。ピットは11本検出されたが何れが柱穴かは判断できなかった。P1～P11の深さは32cm、43cm、21cm、20cm、23cm、21cm、28cm、15cm、28cm、14cm、15cmである。

遺物は多量に出土したが、小片が多く接合率は悪い。須恵器は高坏・甕が認められるが破片が僅か4片である。土師器は坏・甕・甗が見られる。自然石利用の編物石が3個出土した。



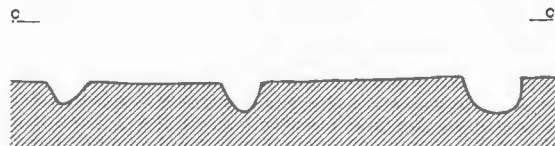
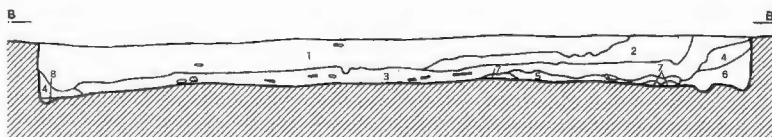
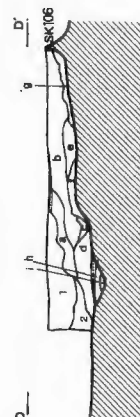
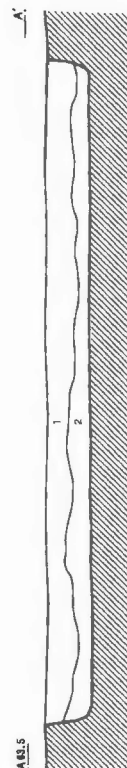
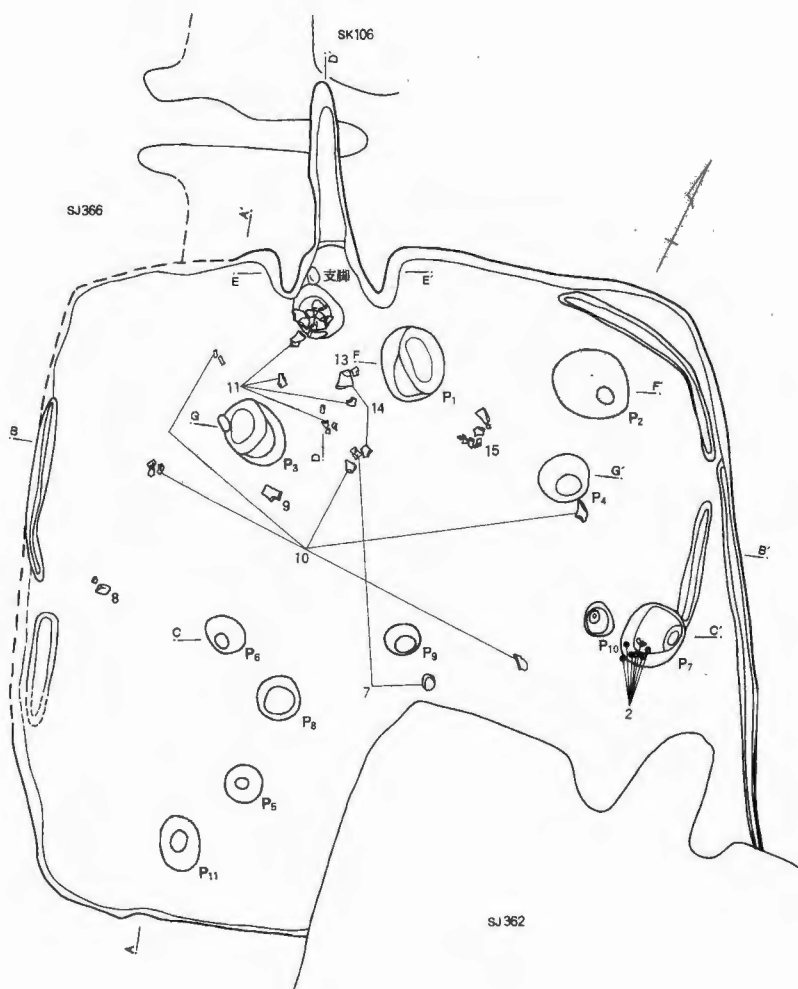
第216図 第367号住居跡(I)

SJ367 P1・2

- 9 にぶい黄褐色 (10YB5/4) 地山土主体 炭化粒子僅か
- 10 暗褐色 (10YB3/4) 焼土粒子・炭化粒子僅か
- 11 暗褐色 (10YB3/4) 10層に似るが焼土ブロック多
- 12 褐色 (10YB5/4) 地山土主体
- 13 暗褐色 (10YB3/3) 炭化粒子僅か

SJ367 P3・4

- 14 黒褐色 (10YB2/2) 黒色土主体 炭化粒子多 焼土粒子僅か
- 15 にぶい黄褐色 (10YB4/3) 地山土多
- 16 暗褐色 (10YB3/3) 炭化粒子粒子僅か
- 17 暗褐色 (10YB3/3) 16層に似るがしまり有



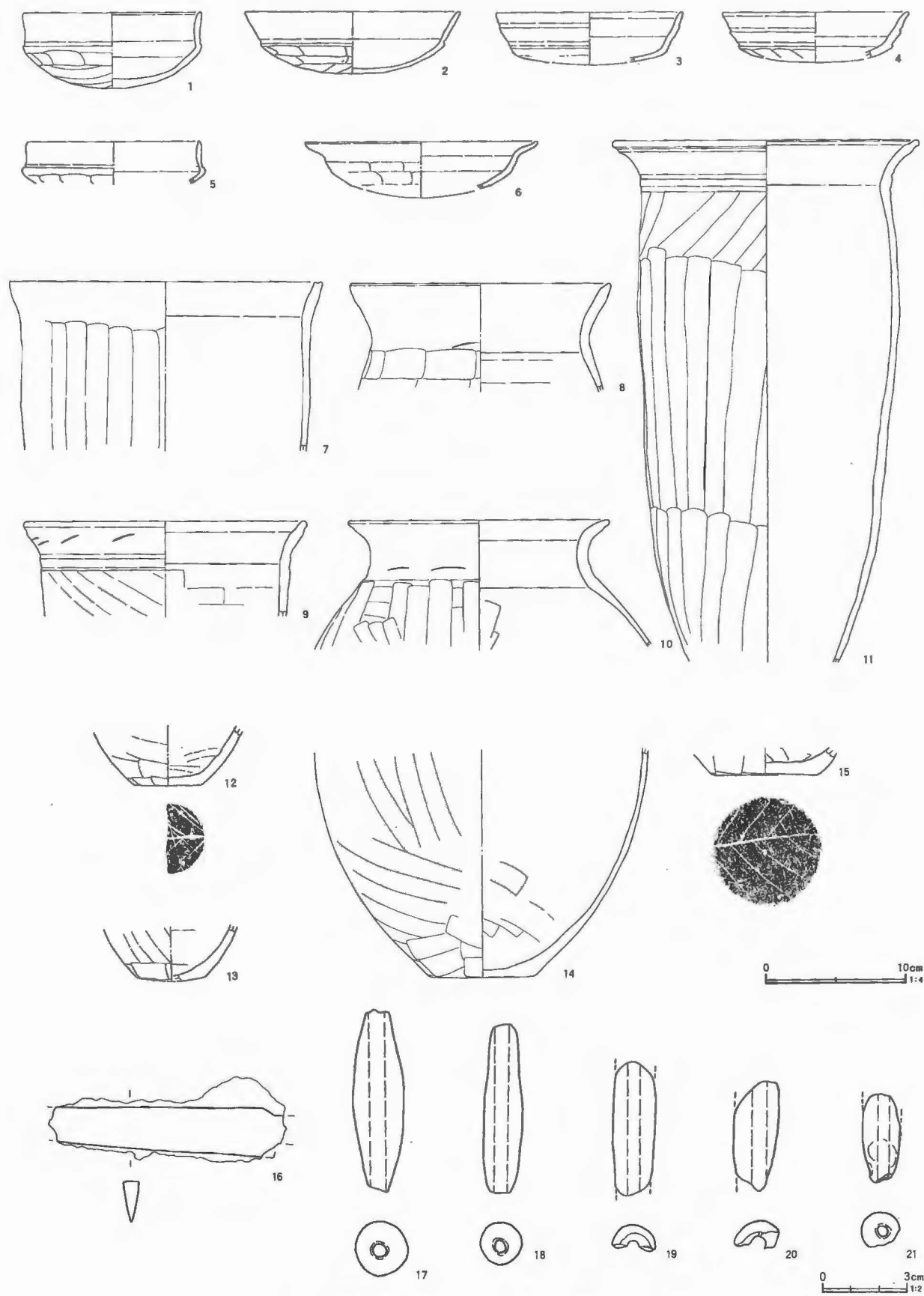
SJ367

- | | | |
|----------|-----------|--------------------|
| 1 褐色 | (10YR4/4) | 地山土多 焼土粒子 炭化粒子 |
| 2 褐色 | (10YR4/4) | 1層と似るがやや締まり有 |
| 3 にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 1層と似るがやや締まり有 |
| 4 暗褐色 | (10YR3/4) | 炭化粒子・焼土粒子多 |
| 5 黒褐色 | (10YR2/2) | 黒色土主体 炭化粒子多 焼土粒子僅か |
| 6 褐色 | (10YR4/6) | 地山土主体 焼土粒子僅か |
| 7 褐色 | (10YR4/4) | 地山土主体 |
| 8 黒褐色 | (10YR2/2) | 炭化粒子僅か |

カマド

- | | | |
|-------|-----------|-------------|
| a 暗褐色 | (10YR4/3) | 焼土粒子僅か |
| b 黒褐色 | (10YR3/3) | 炭化粒子僅か |
| c 褐色 | (10YR4/4) | 地山土主体 焼土粒子多 |
| d 暗褐色 | (10YR3/4) | 地山土多 |
| e 黒褐色 | (10YR3/2) | 地山土多 |
| f 黒褐色 | (10YR3/2) | 混入物ほとんど無 |
| g 黒褐色 | (10YR3/2) | 炭化粒子僅か |
| h 暗褐色 | (10YR3/3) | 焼土粒子・炭化粒子多 |
| i 暗褐色 | (10YR3/4) | 地山土多 |

第217図 第367号住居跡(2)



第218図 第367号住居跡出土遺物

第367号住居跡出土遺物観察表 (第218図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(12.4)	5.3		ABEF	良好	にふい橙	55	覆土	やや磨耗
2	坏	(15.1)	4.3		ABEF	普通	明赤褐	50	床	やや磨耗
3	坏	(13.0)			ABDF	普通	にふい褐	10	覆土	磨耗・剥落著しい 調整不明
4	坏	(13.0)			BDE	普通	にふい黄橙	20	覆土	やや磨耗 歪み有り
5	坏	(12.0)			ABEF	普通	灰黄褐	15	覆土	やや磨耗
6	坏	(16.2)			ABD	良好	橙	15	覆土	磨耗著しい
7	甗	(21.9)			ABCG	普通	にふい橙	15	床	内面磨耗著しい
8	甗	(18.1)			ABDF	普通	にふい橙	25	+13cm	
9	甗	(19.6)			ABCD	良好	にふい褐	20	+8cm	歪み有り
10	甗	18.1			ABCEF	普通	にふい橙	70	床	
11	甗	21.3			ABDEH	普通	にふい黄橙	80	+2cm	やや磨耗 歪み有り
12	甗			(4.8)	ABDE	普通	黒褐	40	覆土	底部木葉痕
13	甗			4.8	ABCFJ	普通	褐灰	30	+6cm	
14	甗			(7.4)	ABCEJ	普通	にふい赤褐	30	床	
15	甗			7.4	ABCJK	普通	にふい赤褐	95	+6cm	底部木葉痕
16	刀 子	現存長8.35cm 背幅0.50cm 刀幅1.40cm 重さ43.85g							覆土	

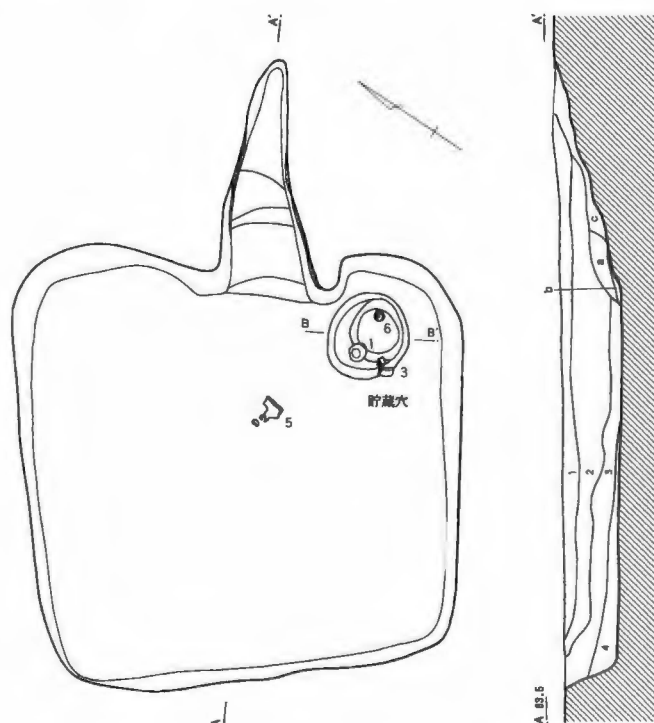
第367号住居跡出土土錘観察表 (第218図)

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ (g)	分 類	色 調	残 存	備 考
17	6.50	1.90	0.50	18.75	Ca	にふい黄橙	100	SX12~SJ367試掘Tフク土
18	6.00	1.50	0.50	11.46	Ba	にふい橙	100	
19	(4.30)	(1.50)	(0.40)	(5.66)	—	明赤褐	40	
20	(4.00)	(1.60)	0.55	(4.89)	—	橙	30	
21	(3.15)	(1.90)	0.40	(3.78)	Ba	褐灰	25	

第369号住居跡 (第219・220図)

L-17・18グリッドに位置する。第372・379・388号住居跡と重複し、本住居跡が最も新しい。平面形

は正方形で、長軸3.51m、短軸3.47m、深さは0.39~0.48mである。主軸方位はN-53°-Eを指す。床面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。



SJ369

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 地山粒子 炭化粒子粒 焼土粒子
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 地山粒子・炭化粒子粒・焼土粒子多
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 地山ブロック・炭化粒子・焼土粒子多
- 4 黒褐色 (10YR3/1) 地山ブロック 炭化粒子 焼土粒子
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 焼土粒子 炭化粒子
- 6 褐色 (10YR4/4) 焼土粒子
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 焼土粒子・地山ブロック多 炭化粒子

カマド

- a 赤褐色 (2.5YR4/8) 焼土ブロック主体 炭化粒子
- b 暗褐色 (10YR3/3) 炭化粒子 焼土粒子
- c 褐色 (10YR4/4) 炭化粒子・灰多

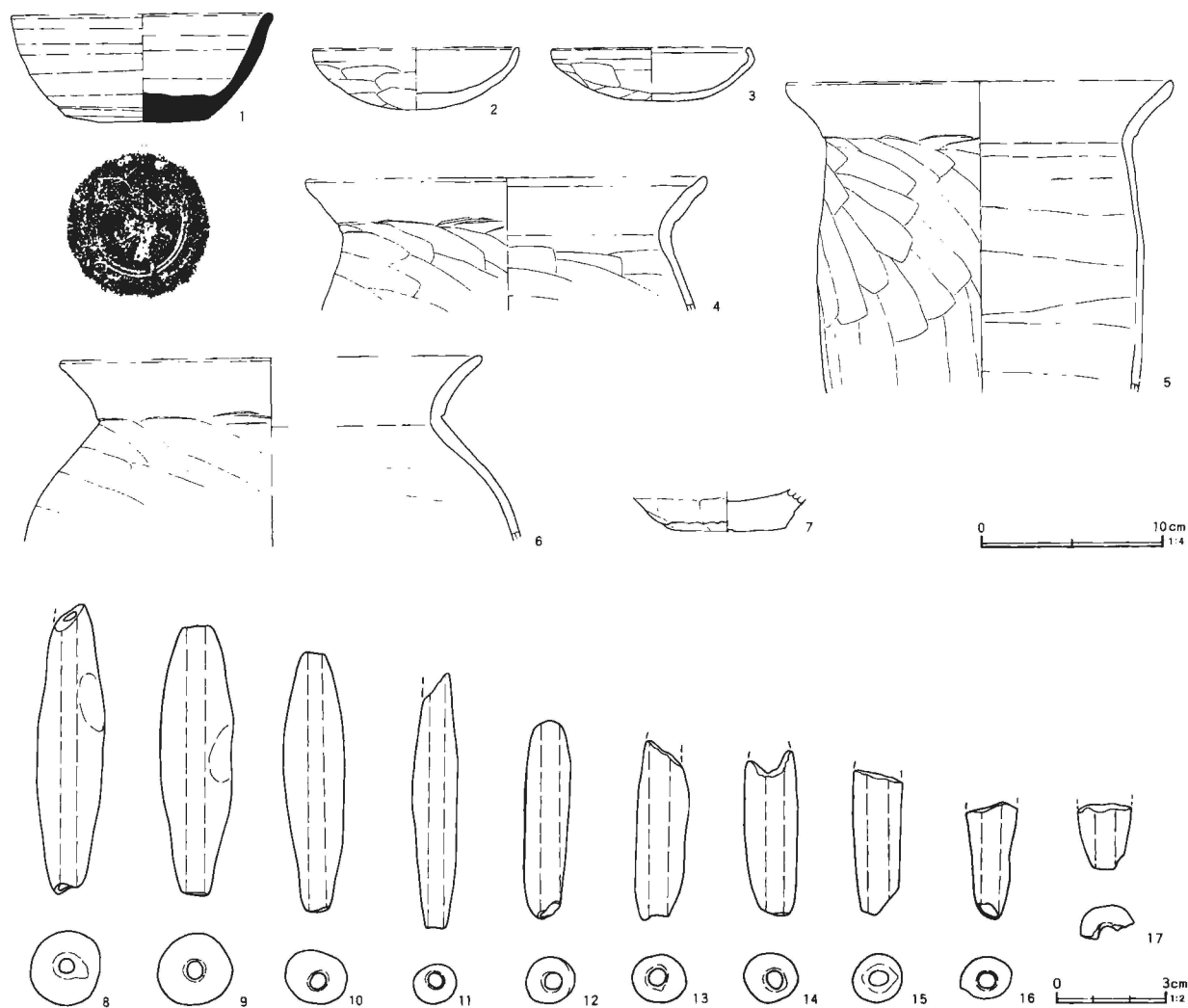
第219図 第369号住居跡

覆土は4層に大別され、何れも地山土、焼土粒子、炭化粒子を含んでいる。

カマドは北東壁に設置される。燃烧部の掘り込みはなく、階段状の煙道部となる。内壁の一部が焼土化していた。貯蔵穴はカマド右に設けられ、71×63

cmの円形で、深さは31cmである。壁溝、ピットは検出されなかった。

遺物は多量に出土したが、接合率は悪い。須恵器は坏・甕が認められるが12片だけである。土師器は坏・甕が見られる。貝巢穴痕泥岩が1点出土した。



第220図 第369号住居跡出土遺物

第369号住居跡出土遺物観察表 (第220図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	埵	14.2	5.9	7.9	J	良好	灰黄	100	貯蔵穴	末野産 底部ヘラ切り
2	坏	(11.0)	3.4		BEJL	普通	にふい黄橙	40	カマド	内外面やや磨耗する
3	坏	10.7	2.9		BDJL	普通	橙	100	貯蔵穴	
4	甕	(21.6)			BDJL	不良	にふい褐	15	覆土	内外面やや磨耗する
5	甕	(21.0)			BDJL	不良	橙	30	+ 8 cm	内外面磨耗著しい
6	甕	(23.0)			ABJ	不良	橙	15	貯蔵穴	内外面磨耗著しい
7	甕			7.0	BJL	普通	にふい橙	70	覆土	

第369号住居跡出土土錘観察表 (第220図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
8	7.95	2.10	0.45	(24.43)	Ca	明赤褐	95	カマド 砂粒目立つ
9	7.40	2.00	0.50	24.99	Ca	褐灰	100	
10	7.15	1.75	0.50	(15.91)	B'a	にぶい橙	95	
11	7.00	1.20	0.40	(7.66)	Ba	にぶい橙	95	
12	5.50	1.35	0.50	(8.43)	Ba	黒	95	
13	(4.95)	1.45	0.45	(8.41)	Ba	黒褐	90	
14	(4.50)	1.50	0.55	(8.12)	Ba	にぶい褐	90	
15	(4.00)	1.35	0.55	(6.62)	Ca	橙	70	
16	(3.20)	(1.45)	0.45	(3.44)	Ca	にぶい赤褐	45	
17	(1.80)	(1.50)	(0.50)	(1.74)	Ca	にぶい橙	15	

第370号住居跡 (第221・222図)

L-19グリッドに位置する。第373・374・384・394号住居跡・第10号掘立柱建物跡と重複し、本住居跡が最も新しい。平面形は東西に長い長方形で、長軸6.16m、短軸3.98m、深さは0.37～0.44mである。主軸方位はN-83°-Eを指す。

床面は起伏があり、中央付近が高くなる。壁は垂直に立ち上がる。

カマドは東壁中央に設置される。煙道部先端近くをグリッドピットに壊される。袖は検出されなかつ

た。燃焼部はピット状に掘られ、煙道部は凹凸を持って立ちあがる。カマド手前は浅く掘り窪められていた。貯蔵穴は検出されなかった。壁溝は東壁以外で検出され、北西コーナーでは途切れていた。幅13～25cm、深さ3～6cmである。

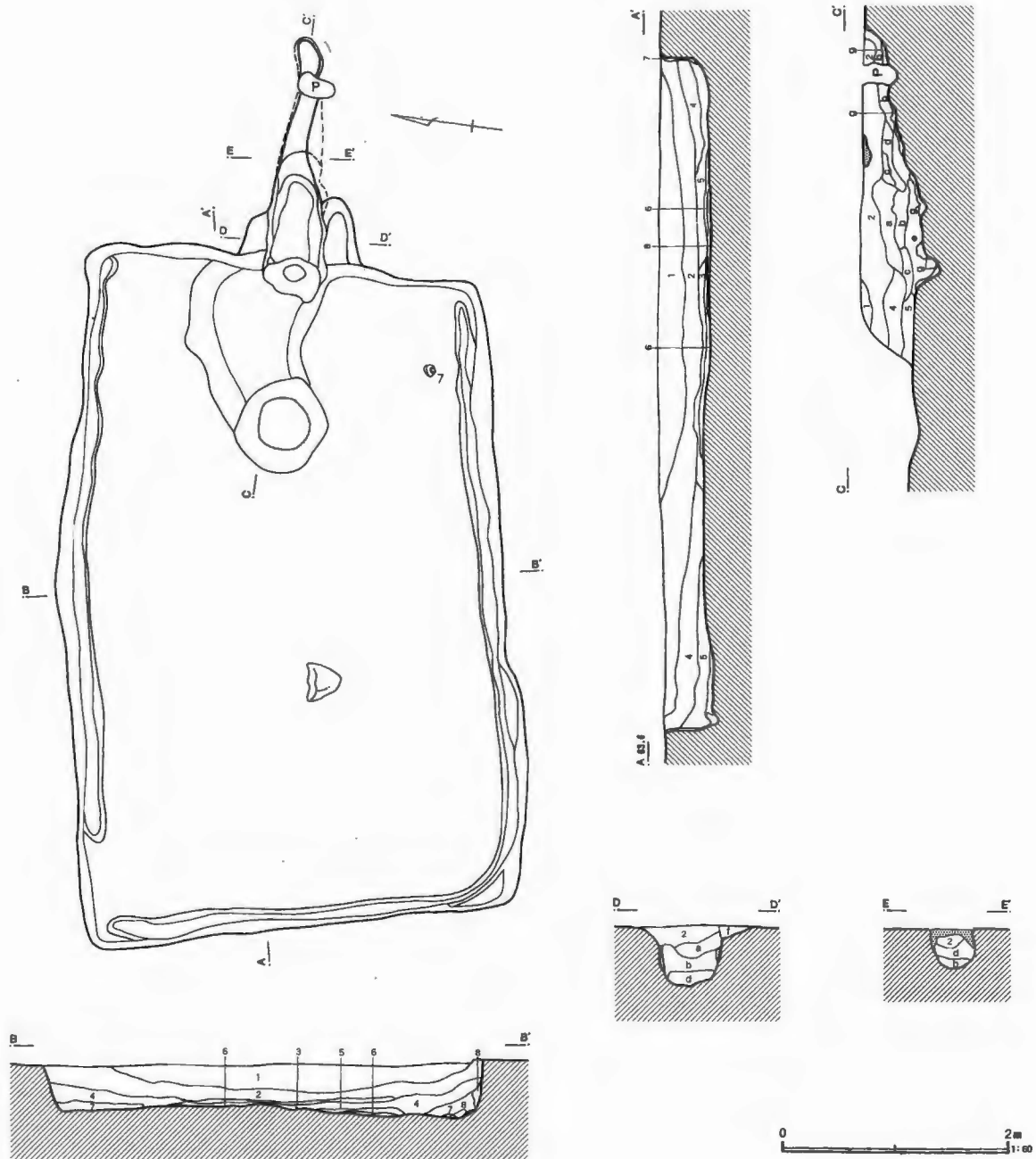
遺物は多量に出土したが、接合率は悪い。須恵器は蓋・坏・皿・瓶・甕等が認められ、土師器は坏・甕・台付甕が見られる。土錘が破片を含めて25個出土した。また、住居跡中央で扁平な石が床面直上から出土した。

第370号住居跡出土遺物観察表 (第222図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	蓋				BJL	良好	灰	20	覆土	末野産 つまみ径2.6cm
2	蓋	(16.0)			JL	良好	灰白	10	覆土	末野産 天井部回転ヘラケズリ
3	蓋	13.7	3.5		IJL	良好	灰	60	覆土	南比企産 つまみ径2.5cm
4	蓋	(20.0)			JL	普通	黄灰	10	覆土	末野産 内外面磨耗
5	皿	(12.8)	2.1	(6.0)	JL	良好	灰	15	覆土	末野産 回転糸切
6	坏	(12.0)	4.0	7.0	JL	良好	灰	40	覆土	末野産 回転糸切
7	坏	13.0	3.8	6.9	IJL	良好	灰	90	床	南比企産 底部外面ヘラ記号「×」
8	坏			6.4	IJL	良好	灰	70	覆土	南比企産 回転糸切
9	坏			6.4	BL	良好	灰	90	覆土	末野産 回転糸切
10	坏	(13.0)			JL	良好	灰白	20	覆土	末野産
11	坏	(13.0)			IJL	良好	灰	10	覆土	南比企産
12	瓶			(8.4)	BIJ	良好	黄灰	10	覆土	南比企産
13	坏	(14.8)	4.6		ABDJ	不良	にぶい橙	60	覆土	内外面磨耗著しい
14	坏	(12.4)	3.2		J	不良	にぶい橙	50	覆土	内外面磨耗著しい

第370号住居跡出土土錘観察表 (第222図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
15	5.70	2.50	0.50	31.34	Cb	にぶい橙	100	砂粒目立つ
16	5.80	2.30	0.50	24.53	Ca	にぶい黄橙	100	
17	6.10	1.90	0.45	(18.11)	Ca	黒褐	95	
18	5.60	1.70	0.50	15.45	Ca	にぶい橙	100	
19	6.10	1.90	0.50	(19.57)	Ca	褐灰	95	
20	6.85	1.60	0.50	(14.83)	Ba	にぶい黄橙	95	
21	7.60	2.25	0.50	38.01	Ca	明赤褐	100	
22	6.20	2.20	0.50	28.53	Cb	橙	100	
23	5.40	2.00	0.65	(19.49)	Ca	にぶい黄橙	95	



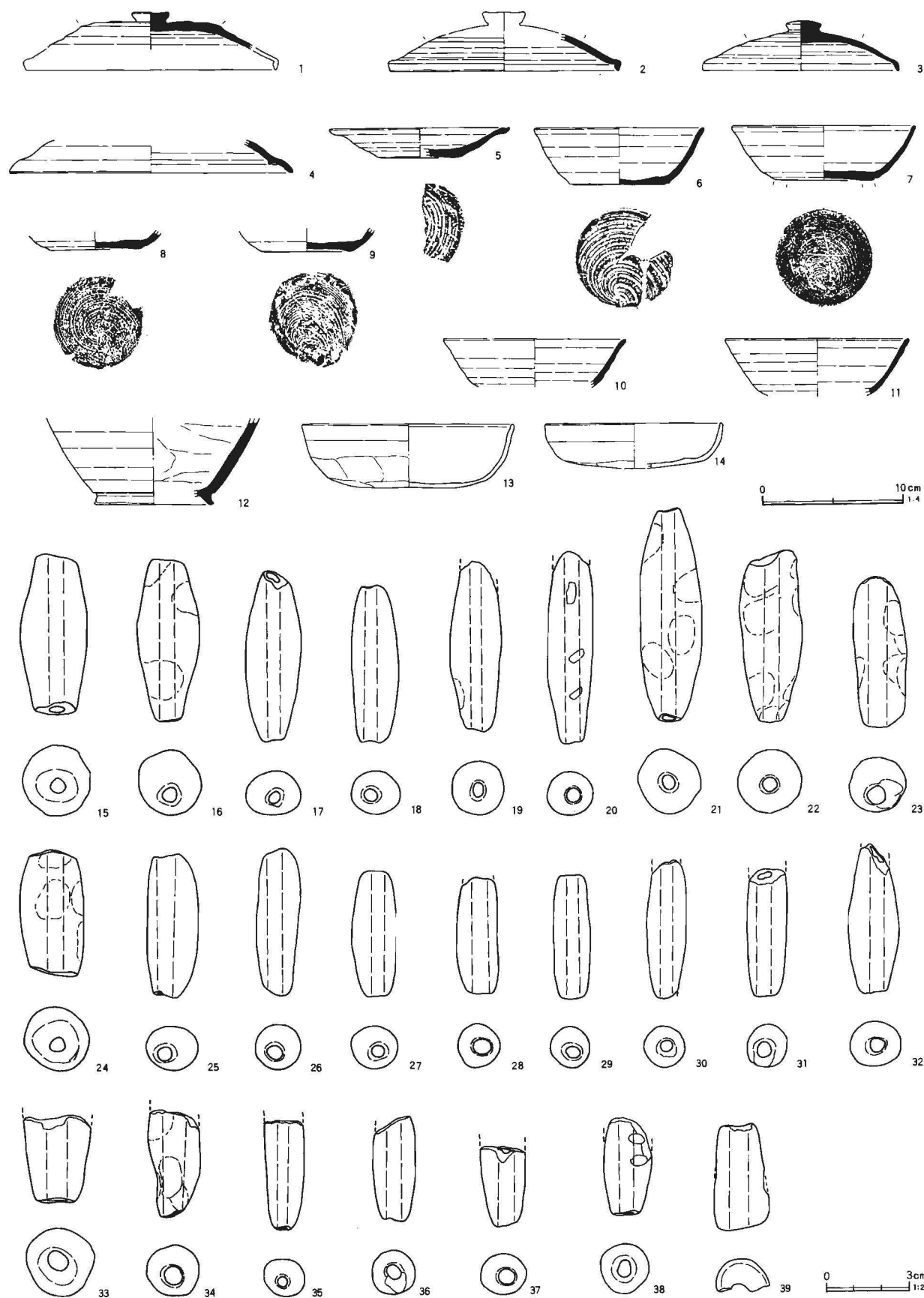
SJ370

- | | | | |
|---|--------|-----------|---------------------------|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 炭化粒子・焼土粒子・地山土多 |
| 2 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 地山ブロック多 焼土粒子・炭化粒子少 |
| 3 | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 地山ブロック主体 |
| 4 | 暗褐色 | (10YR3/4) | 2層に似るが 地山大型ブロック多
炭化粒子少 |
| 5 | 暗褐色 | (10YR3/3) | 4層に似るが地山ブロック・焼土粒子少 |
| 6 | 黒褐色 | (10YR2/3) | 炭化粒子層 |
| 7 | 褐色 | (10YR4/4) | 壁・底の溶軟化層 |
| 8 | 褐色 | (10YR4/4) | 粘質地山土主体 貼床の一部か |

カマド

- | | | | |
|---|--------|-----------|-----------------------|
| a | 暗褐色 | (10YR3/3) | 地山ブロック・炭化粒子多 焼土ブロック少 |
| b | 暗褐色 | (10YR3/4) | a層に似るが焼土ブロック多 地山ブロック少 |
| c | 暗褐色 | (10YR3/4) | 天井崩落土 地山土 下辺焼土化 |
| d | にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 地山ブロック主体 天井崩落土だが非焼土化 |
| e | 黒褐色 | (10YR2/3) | 灰層 焼土・炭化粒子 |
| f | 暗褐色 | (10YR3/4) | 褐色土・地山ブロック 充填土 |
| g | 褐色 | (10YR4/4) | 地山に似る 床面の溶軟化層 |

第221図 第370号住居跡



第222図 第370号住居跡出土遺物

第370号住居跡出土土錘観察表 (第222図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
24	4.50	2.30	0.55	23.86	Cb	にぶい黄橙	100	砂粒目立つ
25	5.10	1.85	0.50	15.65	Ca	明赤褐	100	
26	5.15	1.60	0.55	11.77	Ba	にぶい橙	100	
27	4.45	1.60	0.40	10.48	Ca	にぶい黄橙	100	
28	(4.10)	1.60	0.60	(8.66)	Ca	にぶい橙	95	
29	4.40	1.45	0.45	8.27	Ba	にぶい黄橙	100	
30	4.90	1.95	0.40	(9.98)	Ba	黒	90	
31	(4.50)	1.50	0.55	(9.41)	Ba	橙	75	
32	(5.30)	1.80	0.50	(13.76)	Ca	明赤褐	90	
33	(3.00)	2.40	0.75	(14.29)	Cb	にぶい橙	40	砂粒目立つ
34	(3.80)	1.85	0.65	(10.78)	Ca	橙	50	
35	(3.80)	1.50	0.35	(7.17)	Ba	赤褐	60	
36	(3.70)	1.55	0.55	(7.54)	Ca	橙	80	
37	(2.80)	1.60	0.60	(5.79)	Ca	灰白	50	
38	(3.45)	1.75	0.60	(8.12)	Cb	灰褐	40	
39	(3.75)	(1.90)	(0.70)	(7.60)	Eb	灰黄褐	45	

第371号住居跡 (第223・224図)

L・M-18グリッドを中心に位置する。第372・376・377号住居跡を切り、第11号掘立柱建物跡・第215号土坑に切られる。平面形は東西に長い長方形で、長軸5.75m、短軸4.62m、深さは0.47～0.52mである。主軸方位はN-15°-Wを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。

カマドは北壁中央より東に設置される。燃烧部は床面を15cmほど掘り込み、緩やかに煙道部へ続く。

天井部が一部遺存していた。貯蔵穴は北東コーナー

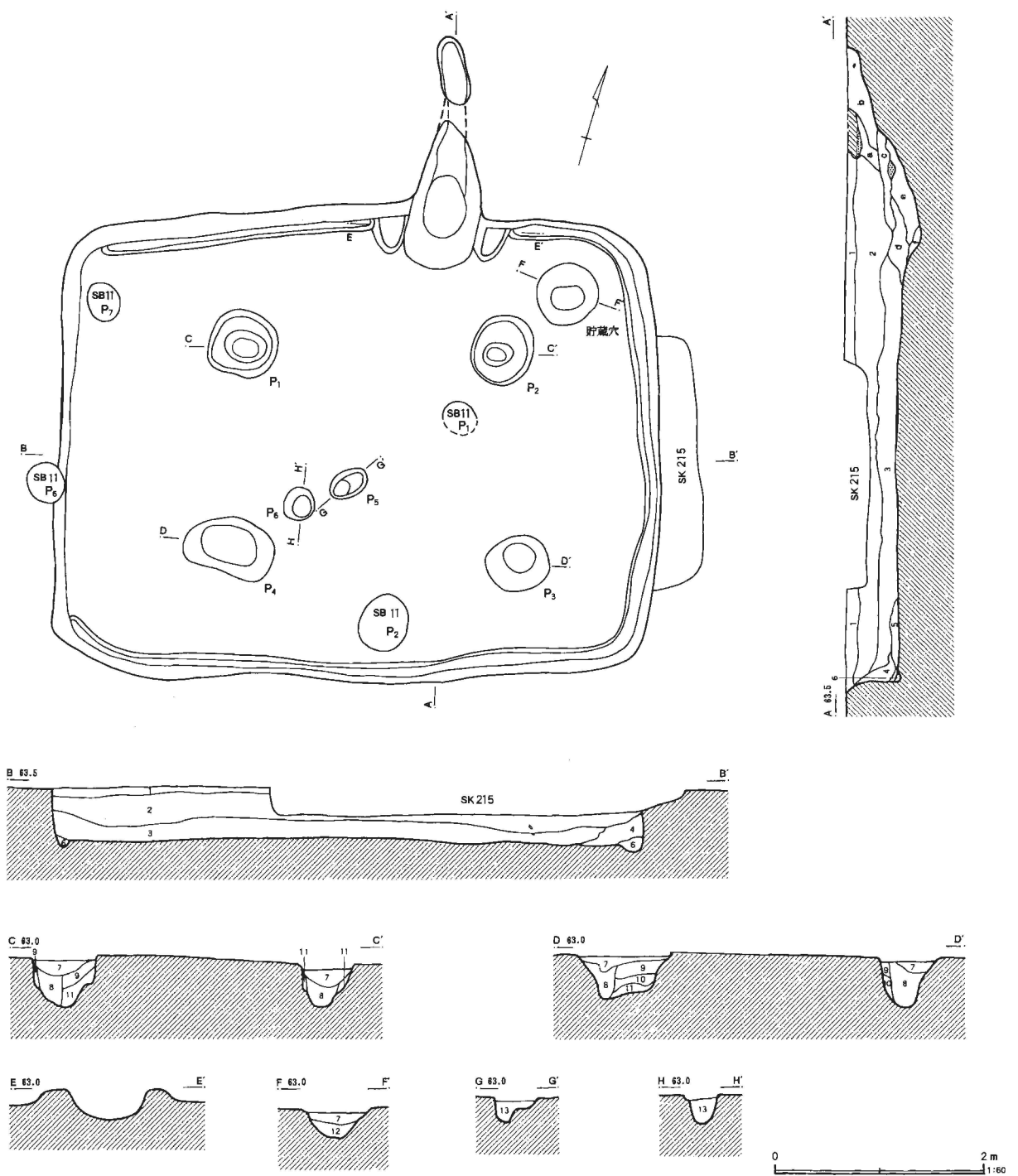
に設けられ、直径60cmの円形で、深さは31cmである。

壁溝は西壁以外で検出され、幅16～34cm、深さは7～12cmである。ピットは6本検出され、P1～P4は柱穴である。覆土には明瞭な柱痕が確認できた。

遺物は多量に出土したが、周辺の遺構からの混入も多いと考えられ、接合率は悪い。須恵器は蓋・坏・高台付坏・甕・瓶類等が認められ、土師器は坏・甕・台付甕・取っ手付甕が見られ、坏片が多く、甕片が少ない傾向がある。土錘が破片を含めて23点出土した。

第371号住居跡出土遺物観察表 (第224図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	瓶				BJL	普通	灰	80	P4	末野産 高台部剥離
2	高台付坑			6.0	BGJL	普通	褐	100	B区	在地産 雲母多量
3	坏	(16.2)			JL	良好	灰	15	D区	末野産 体部下端回転ヘラケズリ
4	坏	(13.8)			BDJ	普通	橙	15	A区	
5	坏	(12.6)	3.4		BDJL	普通	橙	50	カマド	
6	坏	(13.0)			BEJL	不良	にぶい橙	20	B・C区	内外面磨耗著しい
7	坏	(15.0)			ABDJ	普通	橙	15	カマド	
8	坏	(18.0)			ABJL	不良	にぶい橙	15	B区	内外面やや磨耗する
9	坏	16.4	3.3		ADJL	不良	橙	80	D区	内外面やや磨耗する
10	坏	12.0	2.6		BDEJ	普通	橙	50	A・C区	内外面やや磨耗する
11	坏	(12.0)	3.1		BDJ	普通	にぶい褐	15	B区	
12	甕			(5.0)	BDEJ	普通	灰褐	60	カマド	
13	甕			(5.0)	ABJ	普通	にぶい褐	30	カマド	
14	甕	(16.0)			BCEJL	不良	橙	15	B区	内外面磨耗著しい
15	甕	(11.6)			BDJL	普通	にぶい褐	30	覆土	



SJ371

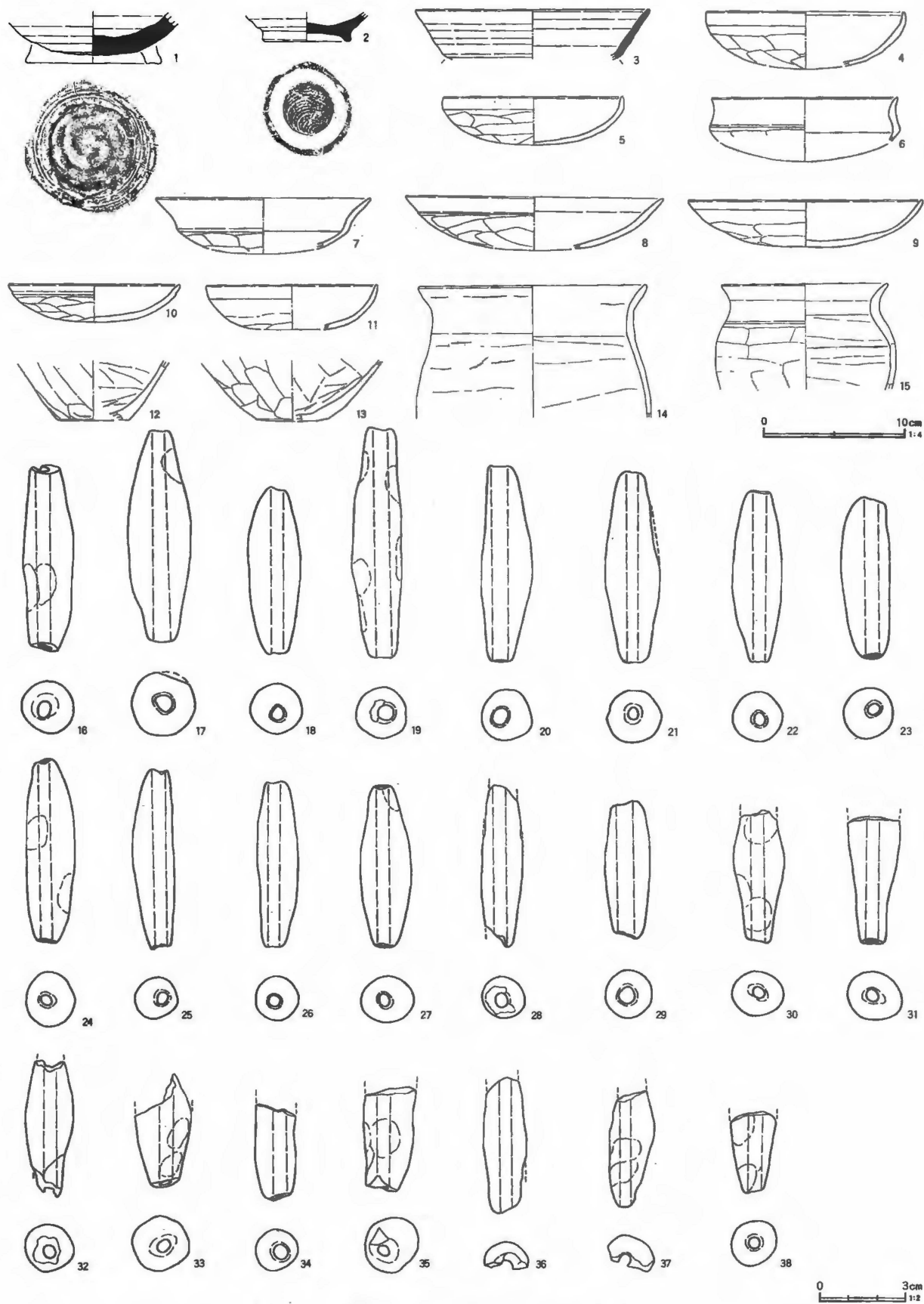
- | | | |
|----|------------------|---------------|
| 1 | 黒褐色 (10YR3/2) | 炭化粒子 |
| 2 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | 炭化粒子 地山ブロック |
| 3 | 褐色 (10YR4/4) | 地山ブロック多 炭化粒子 |
| 4 | 黄褐色 (10YR5/6) | 3層より粘性強 炭化粒子 |
| 5 | 褐色 (10YR3/2) | 炭化粒子多 焼土粒子 |
| 6 | 褐色 (10YR4/4) | 炭化粒子微 |
| 7 | 褐色 (10YR4/4) | 炭化粒子・焼土粒子多 |
| 8 | 黄褐色 (10YR5/6) | 柱痕 炭化粒子・焼土粒子少 |
| 9 | 褐色 (10YR4/6) | 炭化粒子少 |
| 10 | 黄褐色 (10YR5/8) | 炭化粒子少 |

- | | | |
|----|---------------|------------|
| 11 | 暗褐色 (10YR3/3) | 炭化粒子・焼土粒子少 |
| 12 | 暗褐色 (10YR3/4) | 炭化粒子多 |
| 13 | 暗褐色 (10YR3/3) | 炭化粒子多 |

カマド

- | | | |
|---|------------------|--------------------|
| a | 褐色 (10YR4/4) | 黄褐色粒子・焼土ブロック・炭化粒子少 |
| b | 褐色 (10YR4/4) | a層と似るがより大きな焼土ブロック |
| c | 褐色 (10YR4/6) | 天井崩落土 黒色ブロック 焼土粒子 |
| d | 褐色 (10YR4/4) | 焼土ブロック多 炭化粒子 |
| e | にぶい黄褐色 (10YR5/4) | 焼土ブロック多 地山ブロック少 |
| f | 暗褐色 (10YR3/4) | 炭化粒子・灰・焼土ブロック多 |

第223図 第371号住居跡



第224図 第371号住居跡出土遺物

第371号住居跡出土土錘観察表 (第224図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
16	6.60	1.85	0.60	(19.76)	Cb	黒	95	D区
17	7.00	2.25	0.65	(31.64)	Ca	明赤褐	90	A区
18	5.9	1.85	0.50	18.39	Ca	褐灰	100	B区
19	8.20	1.80	0.55	(23.01)	Ca	にぶい黄橙	95	カマド
20	6.90	1.80	0.60	19.62	Ca	褐灰	100	D区
21	6.8	1.90	0.40	(21.18)	Ca	にぶい黄橙	95	A区
22	6.10	1.75	0.40	17.47	Ca	にぶい黄橙	100	D区
23	5.75	1.75	0.45	18.10	Ba	橙	100	
24	6.45	1.90	0.40	22.93	Ca	黒	100	D区
25	6.30	1.50	4.50	(11.89)	Ba	灰褐	90	カマド
26	5.85	1.60	0.40	13.41	Ca	黒	100	C区
27	5.70	1.85	0.45	15.13	Ca	橙	100	C区
28	(5.65)	1.55	0.50	(10.84)	Ca	灰褐	85	C区
29	4.85	1.70	0.60	(11.25)	Ca	赤褐	95	C区
30	(4.65)	1.75	0.45	(11.19)	Ca	橙	75	D区
31	(4.50)	1.95	0.45	(10.76)	Cb	にぶい橙	65	A区
32	(4.80)	1.75	0.50	(10.61)	Ca	橙	80	D区
33	(4.00)	2.00	0.50	(9.56)	Cb	にぶい橙	45	B区
34	(3.40)	1.45	0.55	(6.40)	Ba	黒褐	50	A区
35	(3.65)	1.95	0.40	(12.75)	Cb	橙	45	D区
36	(4.75)	(1.50)	(0.40)	(5.91)	Ca	にぶい橙	40	カマド
37	(4.05)	(1.65)	(0.40)	(5.45)	Ca	にぶい橙	35	D区
38	(2.90)	1.70	0.40	(4.47)	Ca	明赤褐	35	B区

第372号住居跡 (第225・226図)

L-17グリッドを中心に位置する。第377・379・395・403号住居跡を切り、第211・214・362・369・371号住居跡に切られる。カマドの一部は攪乱に壊れていた。平面形は東西に長い長方形で、長軸6.97m、短軸5.94m、深さは0.20～0.30mである。主軸方位はN-61°-Eを指す。

床面はほぼ平坦だが南側がやや高い傾向が見られる。壁は垂直に立ち上がる。

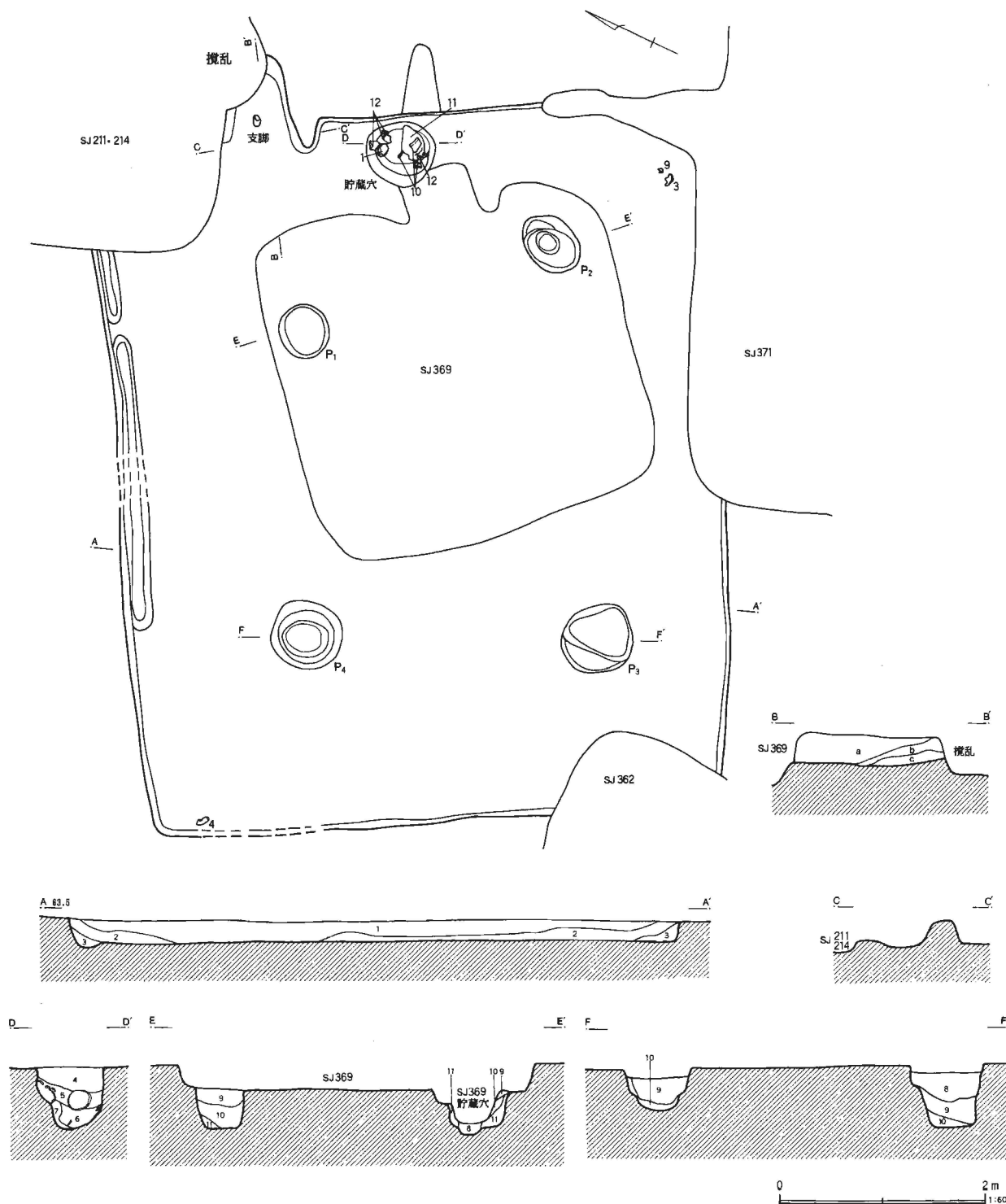
カマドは東壁の北寄りに設置される。第211・214

号住居跡や攪乱に壊され不明瞭である。燃烧部の掘り込みなく、自然石利用の支脚が出土した。貯蔵穴はカマド右に設けられ、65×60cmの円形で、深さは61cmである。壁溝は北壁の一部に検出され、幅19～29cm、深さは2～9cmである。ピットは4本検出され、P1の位置に疑問が残るが柱穴と考えられる。

遺物は多量に出土したが、接合率は悪い。須恵器は坏小片が2片のみで、土師器は坏・高坏・甕が認められる。

第372号住居跡出土遺物観察表 (第226図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	12.2	4.5		BJL	不良	にぶい赤褐	90	貯蔵穴	内外面磨耗著しい
2	坏	(11.2)			BJ	不良	橙	30	貯蔵穴	内外面磨耗著しい
3	坏	(13.2)	4.4		BDEJL	不良	にぶい橙	50	+69cm	内外面やや磨耗する
4	坏	(14.4)	5.1		ABEJ	不良	にぶい橙	15	床	内面黒色処理 磨耗著しい
5	鉢	(16.2)	8.0		BJ	不良	橙	40	カマド	内外面磨耗著しい
6	高坏			(11.0)	BDJ	不良	にぶい橙	70	カマド	内外面磨耗著しい
7	高坏			(9.4)	BJ	普通	にぶい橙	30	覆土	内外面磨耗著しい
8	甕	(20.0)			BDEJL	不良	にぶい橙	20	覆土	内外面磨耗著しい
9	甕	(17.0)			ABEJ	普通	橙	45	+61cm	
10	甕	17.4	34.6	5.0	BJL	普通	にぶい橙	70	貯蔵穴	
11	甕	18.0	35.5	5.4	BCJL	普通	にぶい黄褐	95	貯蔵穴	外面磨耗 底部木葉痕
12	甕	(16.0)			BCEJL	不良	にぶい橙	30	貯蔵穴	内外面磨耗著しい



SJ372

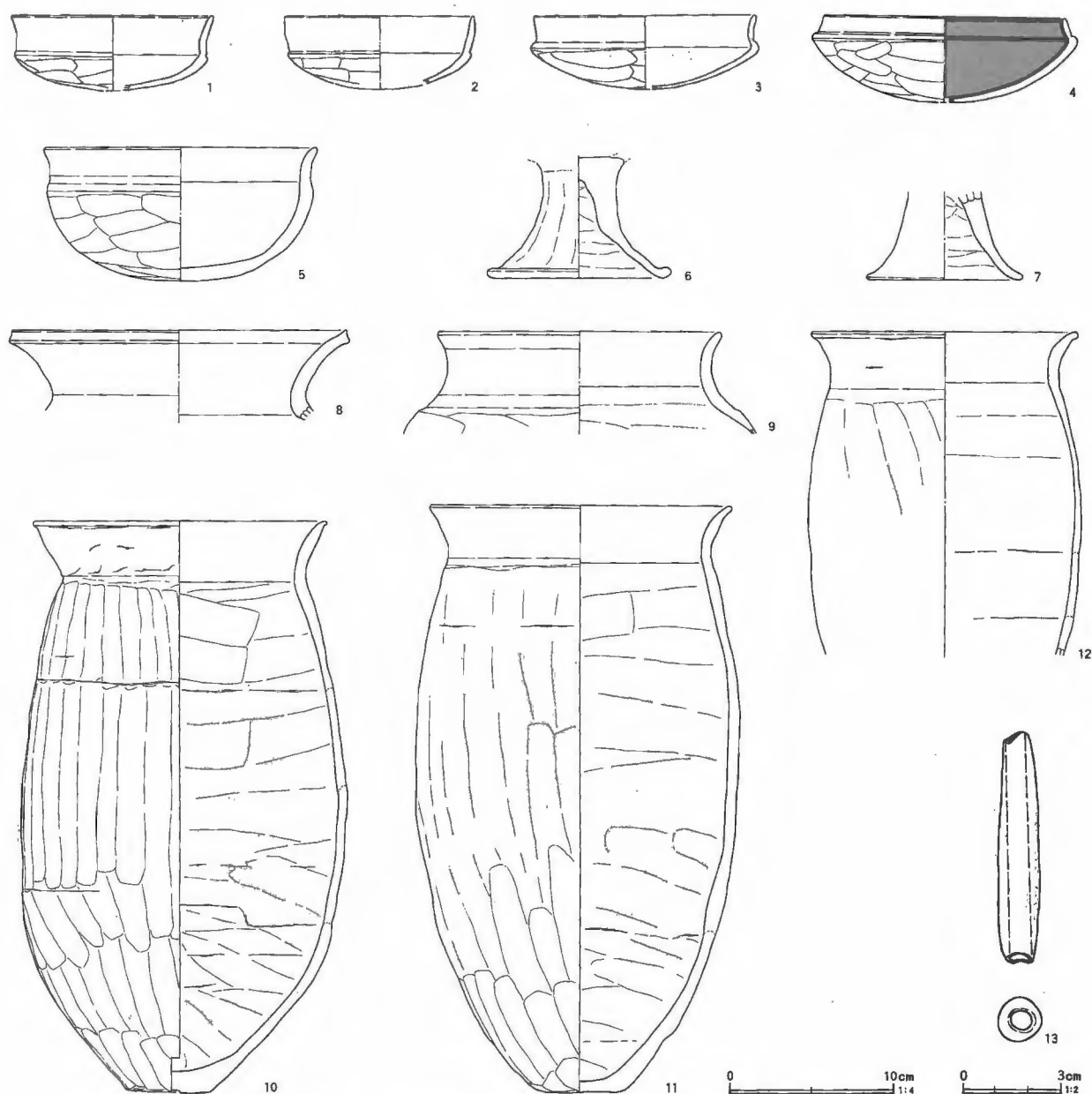
- | | | |
|---|------------------|--------------------|
| 1 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 炭化粒子 焼土粒子 |
| 2 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 地山ブロック多 炭化粒子 |
| 3 | 黒褐色 (10YR3/2) | 焼土粒子 地山ブロック |
| 4 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 地山ブロック多 |
| 5 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 地山ブロック 灰白色粘土多 |
| 6 | 灰白色 (10YR7/1) | 地山ブロック 灰白色粘土ブロック主体 |
| 7 | 黒褐色 (10YR3/2) | 地山ブロック多 |
| 8 | 暗褐色 (10YR3/3) | 焼土粒子 炭化粒子 |

- | | | |
|----|------------------|----------------|
| 9 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 焼土粒子 地山ブロック |
| 10 | 褐色 (10YR4/4) | 砂質 地山ブロック・焼土粒子 |
| 11 | 黒褐色 (10YR3/2) | 砂質 焼土粒子 |

カマド

- | | | |
|---|------------------|---------------------|
| a | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 炭化粒子 焼土粒子 |
| b | 褐色 (10YR4/4) | 天井崩落土か 焼土粒子 地山ブロック多 |
| c | 黒褐色 (10YR3/1) | 焼土粒子・焼土ブロック多 炭化粒子 |

第225図 第372号住居跡



第226図 第372号住居跡出土遺物

第372号住居跡出土土錘観察表 (第226図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
13	6.95	1.35	0.65	10.60	Ba	明赤褐	100	

第373号住居跡 (第227・228・229図)

L-19・20グリッドに位置する。第386・393・394・545号住居跡を切り、第370号住居跡に切られる。用地の関係で2回に分けて調査された。また、住居跡の重複が激しく、遺構確認の段階で平面プランを把握することが出来なかった。そこで他の住居跡と同

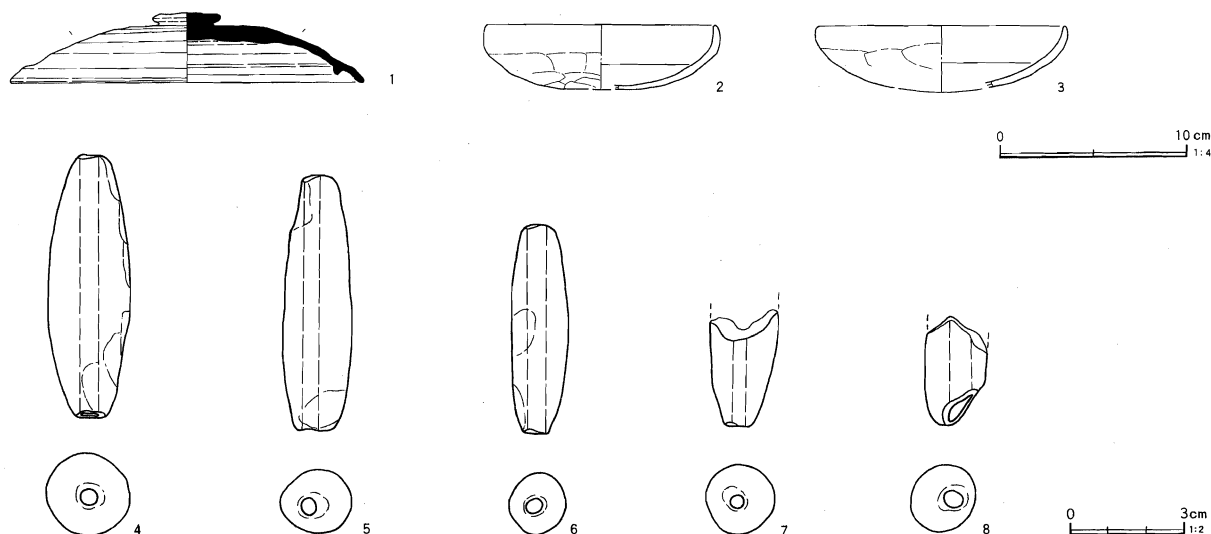
時に調査を行い、南西コーナーを含めた一部のみの検出となってしまった。西壁2.02m、南壁が0.84m検出され、深さは0.40m前後である。主軸方位は西壁でN-15°-Wを指す。

床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がるようである。カマドや貯蔵穴等の施設は不明とせざる

を得ない。

遺物はやや多く出土したが、他の遺構からの混入も考えられ、接合率は悪い。須恵器は図示した以外

にも蓋が2個体以上、他に甕が認められる。土師器は坏・甕が見られる。



第227図 第373号住居跡出土遺物

第373号住居跡出土遺物観察表 (第227図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	蓋	18.6	3.7		ABCF	普通	灰	90	+18cm	末野産 つまみ直径3.6cm
2	坏	(11.9)	3.4		ABD	普通	にぶい橙	20	覆土	磨耗著しい
3	坏	(12.9)			ABD	普通	にぶい橙	15	覆土	磨耗著しい

第373号住居跡出土土錘観察表 (第227図)

番号	長 さ	径	孔 径	重さ(g)	分 類	色 調	残 存	備 考
4	6.90	2.20	0.50	35.24	Cb	暗赤褐	100	表面まだら模様
5	6.75	1.85	0.45	20.65	Ca	明赤褐	100	
6	5.50	1.65	0.50	13.08	Ca	橙	100	
7	(3.10)	1.85	0.35	(8.62)	Cb	明褐	40	
8	(2.85)	1.85	0.55	(7.08)	Ca	明赤褐	25	

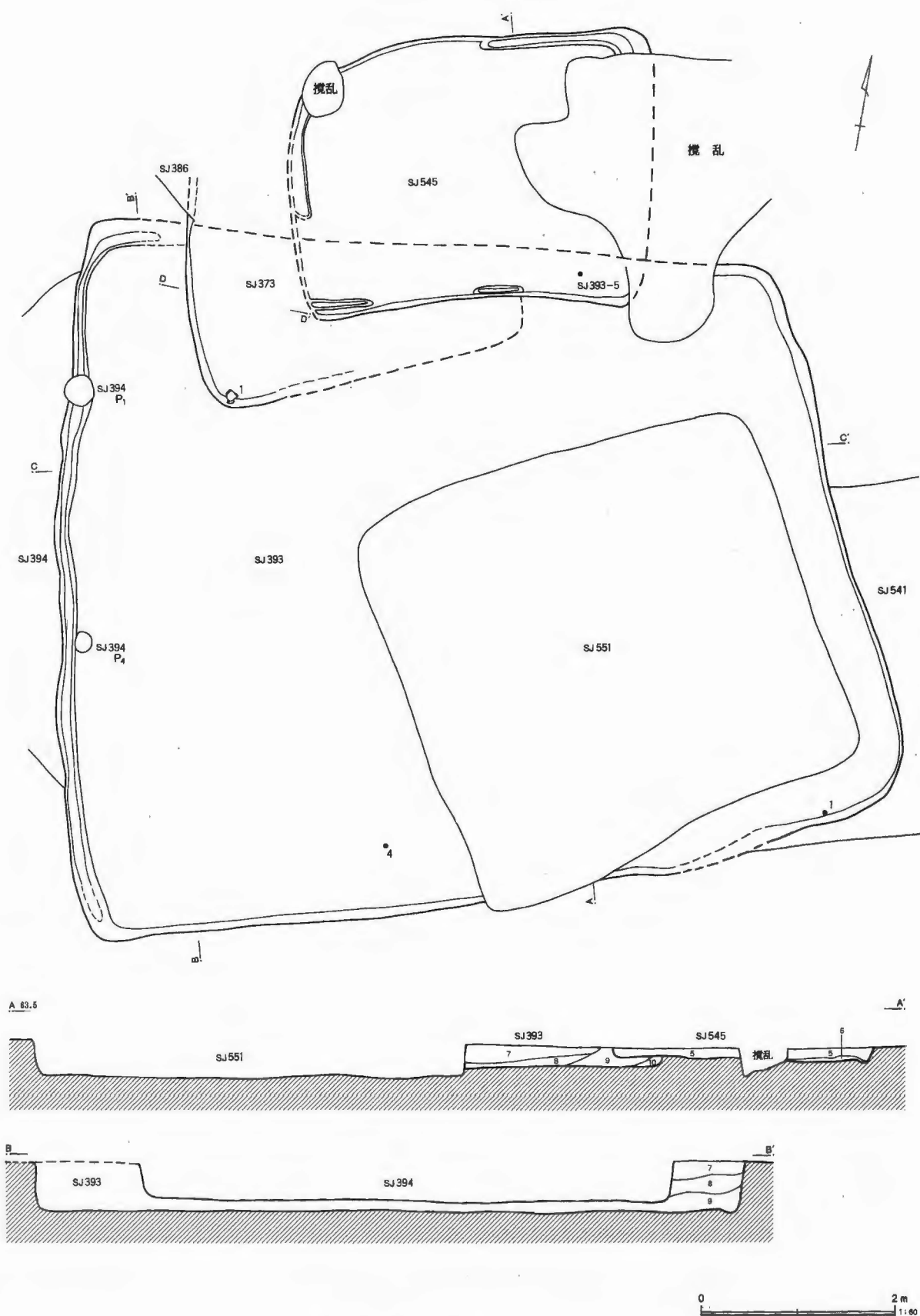
第393号住居跡 (第228・229・230図)

L・M—19・20グリッドに位置する。第373・386・394・541・545・551号住居跡と重複し、何れの住居跡より古い。用地の関係で2年度3回に分けて調査された。平面形は東西に長く台形に近い。長軸8.61m、短軸7.42m、深さは0.24m前後である。主軸方位はN—77—Eを指す。

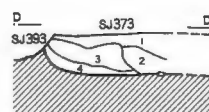
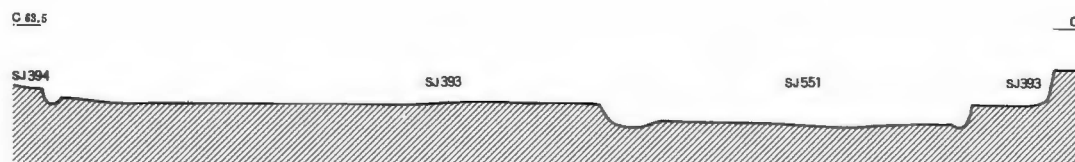
床面は緩やかな起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマド、貯蔵穴は検出されなかった。壁溝

は西壁でのみ検出され、幅9～20cm、深さ2～6cmである。

遺物はやや多く出土したが混入も考えられ、接合率は悪い。須恵器は器種不明の小片が1片、土師器は埴・坏・高坏・甕が認められる。第230図—5は滑石製の紡錘車だが未製品と思われる。孔が穿たれておらず、斜面は仕上げられているが、上下面は粗く削った状態である。



第228图 第373·393·545号住居迹(1)



SJ373

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 焼土・炭化粒子多 灰黄色地山ブロック多
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 1層に似るが地山ブロック大・少 焼土僅か
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 1層に似るが焼土大 地山ブロック大・多
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 2層に似るが地山ブロック小 炭化粒子多

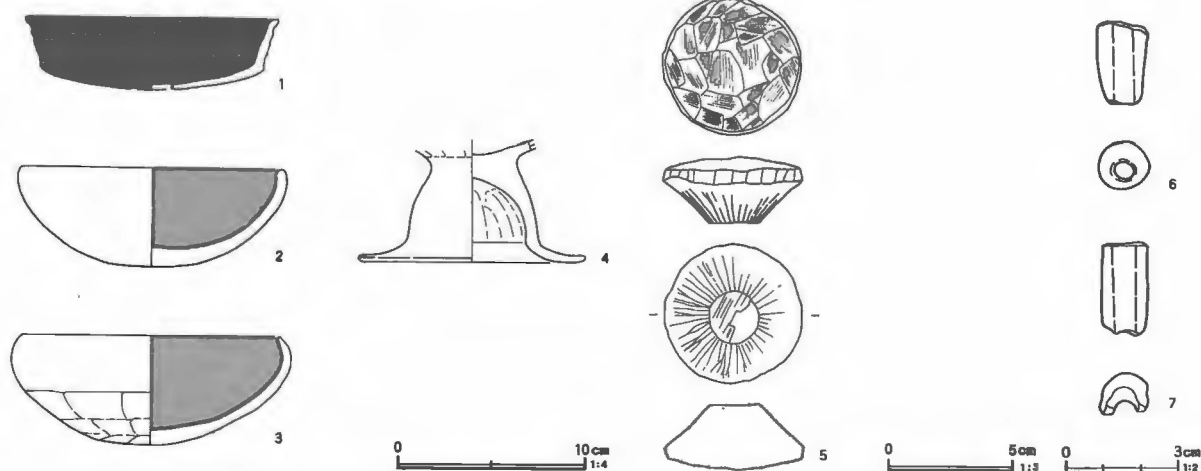
SJ545

- 5 暗褐色 (10YR3/4) 大型地山ブロック・焼土粒子・炭化粒子多
- 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 主に地山ブロック 壁・底の崩落土

SJ393

- 7 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック多 炭化粒子少 埋め戻し土
- 8 黒褐色 (10YR3/2) 炭化粒子・地山ブロック多 埋め戻し土
- 9 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック・灰黄褐色シルトブロック多 埋め戻し土
- 10 暗褐色 (10YR3/3) 炭化粒子・地山ブロック多 埋め戻し土

第229図 第373・393・545号住居跡(2)



第230図 第393号住居跡出土遺物

第393号住居跡出土遺物観察表 (第230図)

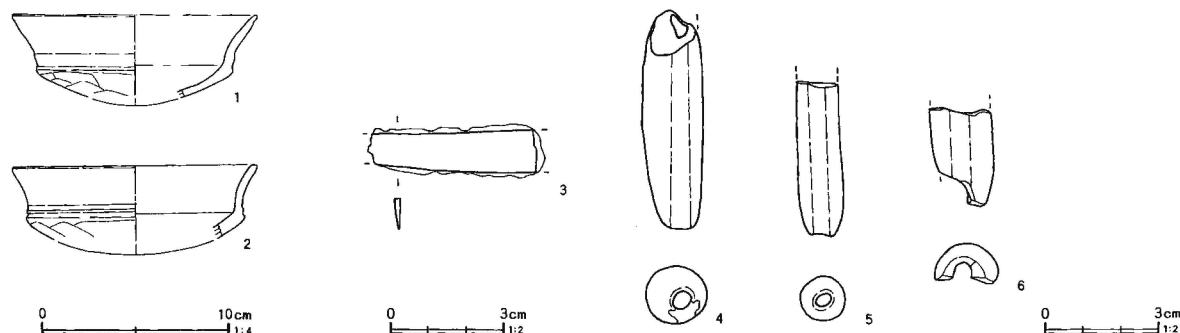
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(13.2)	3.8		ABCDEF	良好	にぶい褐	45	床	内外面黒色処理
2	埴	(13.7)	5.7		ABCEF	不良	にぶい赤褐	25	覆土	磨耗・剥落著しい 内面赤彩
3	埴	13.5	5.8		ABCEJ	不良	明赤褐	80	覆土	磨耗著しい 内面赤彩ほとんど剥落
4	高坏			12.0	ABCEF	普通	明赤褐	70	+15cm	磨耗著しい
5	石製紡錘車	長径5.50cm	短径2.00cm	厚さ2.60cm	重さ97.86g			100	床	滑石製 未製品

第393号住居跡出土土錘観察表 (第230図)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
6	(2.20)	1.35	0.55	(3.03)	Ca	黒褐	35	
7	(2.50)	(1.40)	(0.55)	(2.91)	—	黒褐	15	

第545号住居跡（第228・229・231図）

L-20グリッドに位置する。第386・393号住居跡を切り、第373号住居跡に切られる。東壁付近は攪乱で壊される。用地の関係で2回に分けて調査された。平面形は東西に長い長方形で、長軸3.65m、短軸2.67m、深さは0.10m前後である。主軸方位はN-78°-Eを指す。



第231図 第545号住居跡出土遺物

第545号住居跡出土遺物観察表（第231図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(13.0)			BDEJ	普通	橙	20	覆土	
2	坏	(13.0)			BJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
3	刀子	現存長4.50cm 背幅0.20cm		刃幅0.80cm 重さ6.09g				—	覆土	

第545号住居跡出土土錘観察表（第231図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存	備考
4	(5.80)	1.65	0.55	(11.95)	Ca	明赤褐	85	
5	(4.10)	1.30	0.45	(6.67)	Aa	灰褐	70	
6	(2.60)	(1.65)	(0.45)	(2.77)	Ba	黒褐	15	

第374号住居跡（第232・233・234・235図）

L-18・19グリッドに位置する。第375・384号住居跡を切り、第370号住居跡に切られる。第10号掘立柱建物跡は本住居跡より新しいが、柱穴の底面が本住居跡の床面まで達していなかった。平面形は正方形だがやや歪む。長軸6.58m、短軸6.46m、深さは0.37~0.47mである。主軸方位はN-134°-Wを指す。

床面はやや起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。

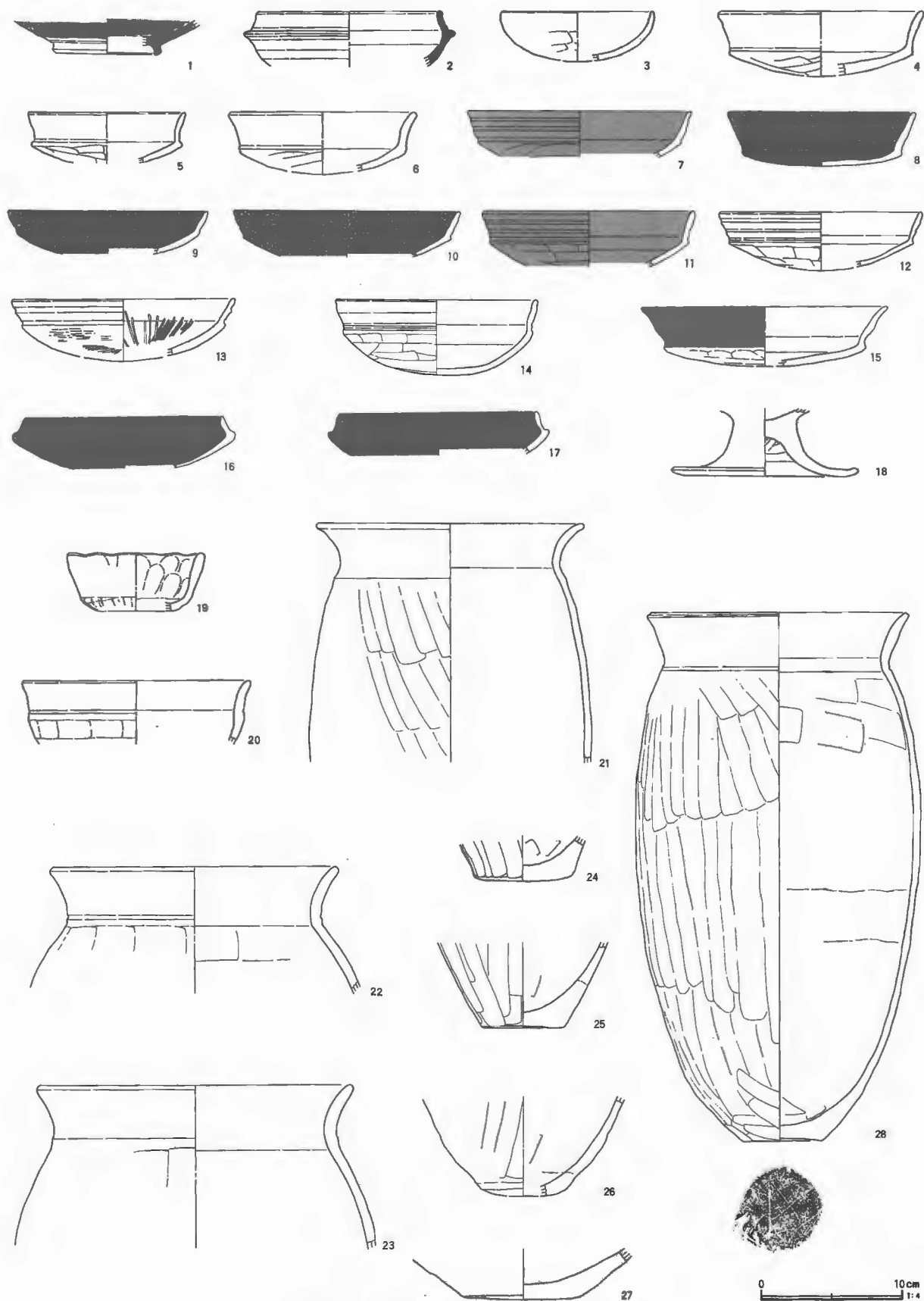
カマドは南西壁中央より南に設置される。燃烧部は床面を僅かに掘り込み、段を持って煙道部へ続く。燃烧部と袖の内壁は焼土化していた。貯蔵穴は2基検出された。貯蔵穴Aはカマド左に設けられ、直径

床面は緩やかな起伏がある。覆土は2層に分けられるが上層は大型の地山ブロックを含み、埋め戻された可能性もある。壁溝は断続的に検出され、幅9~21cm、深さ4~8cmである。

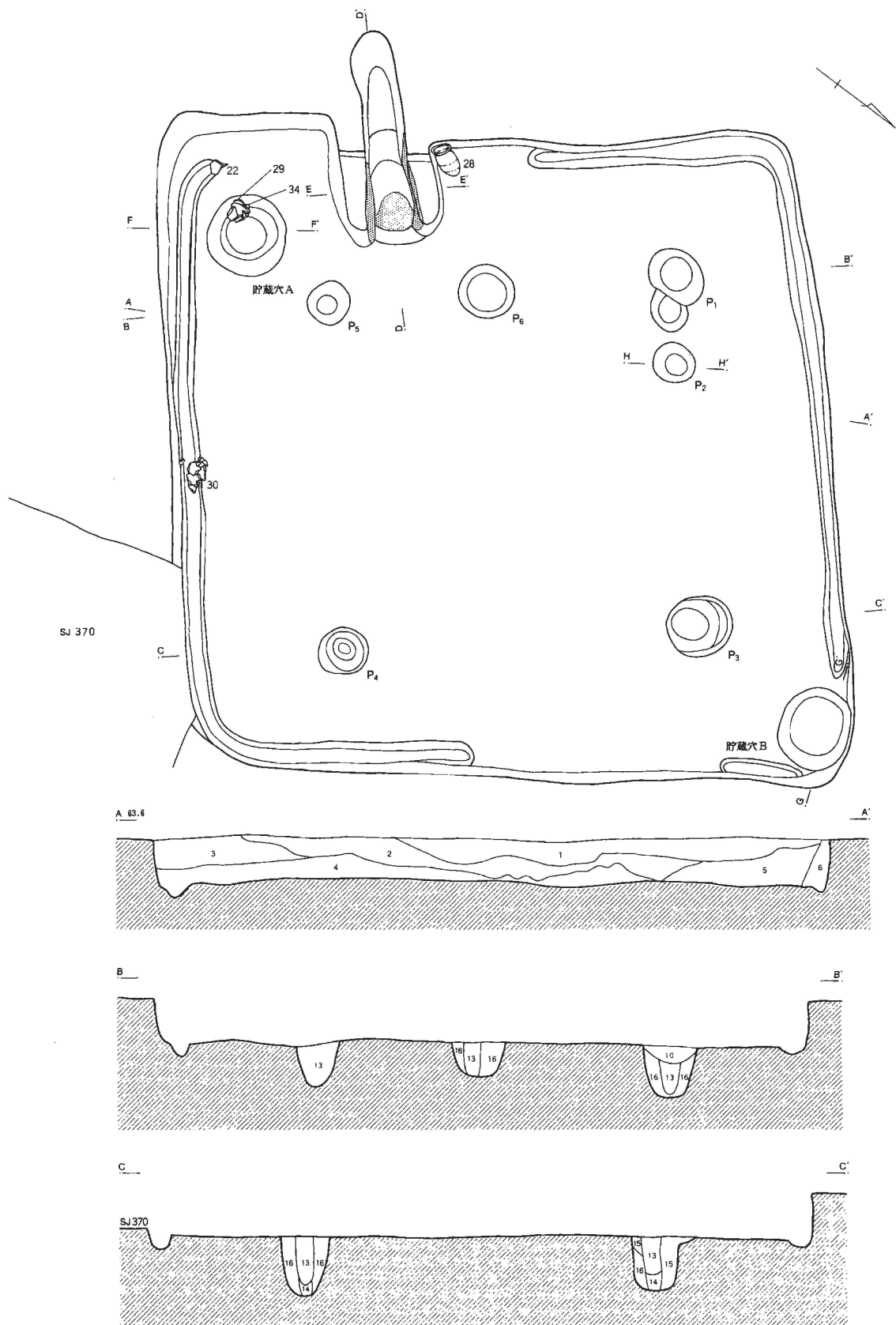
出土遺物は少量で、接合率は悪い。須恵器は坏の小片が3片、土師器は坏が見られる。鉄製刀子が出土している。

80cmの円形で、深さは62cmである。貯蔵穴Bは北コーナーに設けられ、82×72cmの楕円形で、深さは40cmである。壁溝は断続的に検出され、幅18~30cm、深さ8~23cmである。ピットは6本検出された。P1・P3~P5は柱穴と考えられ、P6もその可能性が高い。

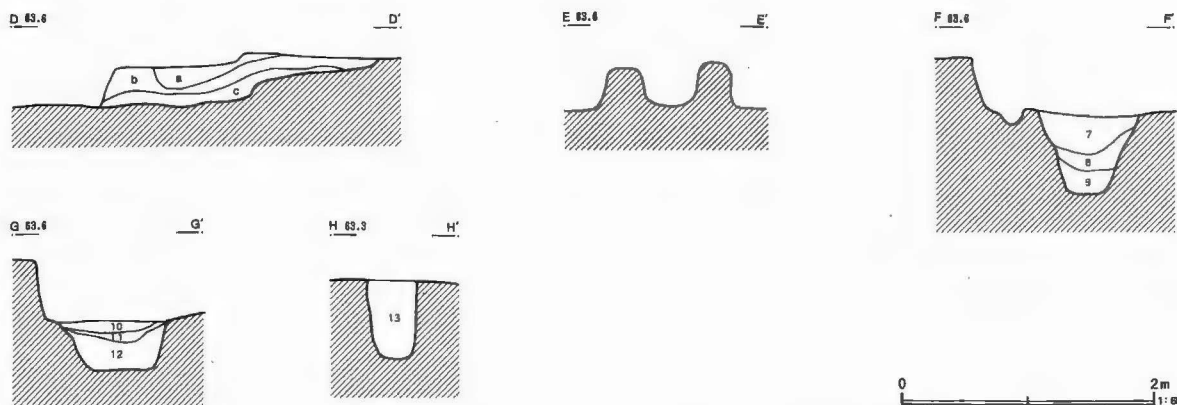
遺物は極めて多量に出土したが、周辺からの混入も多いと考えられ、接合率は悪い。灰釉陶器が1点、須恵器は蓋・坏・甕が認められる。土師器は坏・高坏・甕・甗が見られる。第235図-32の甕の外表面は粗い櫛状工具で調整されている。35はやや大きい土製の支脚と思われる。



第232図 第374号住居跡出土遺物(1)



第233图 第374号住居跡(Ⅰ)



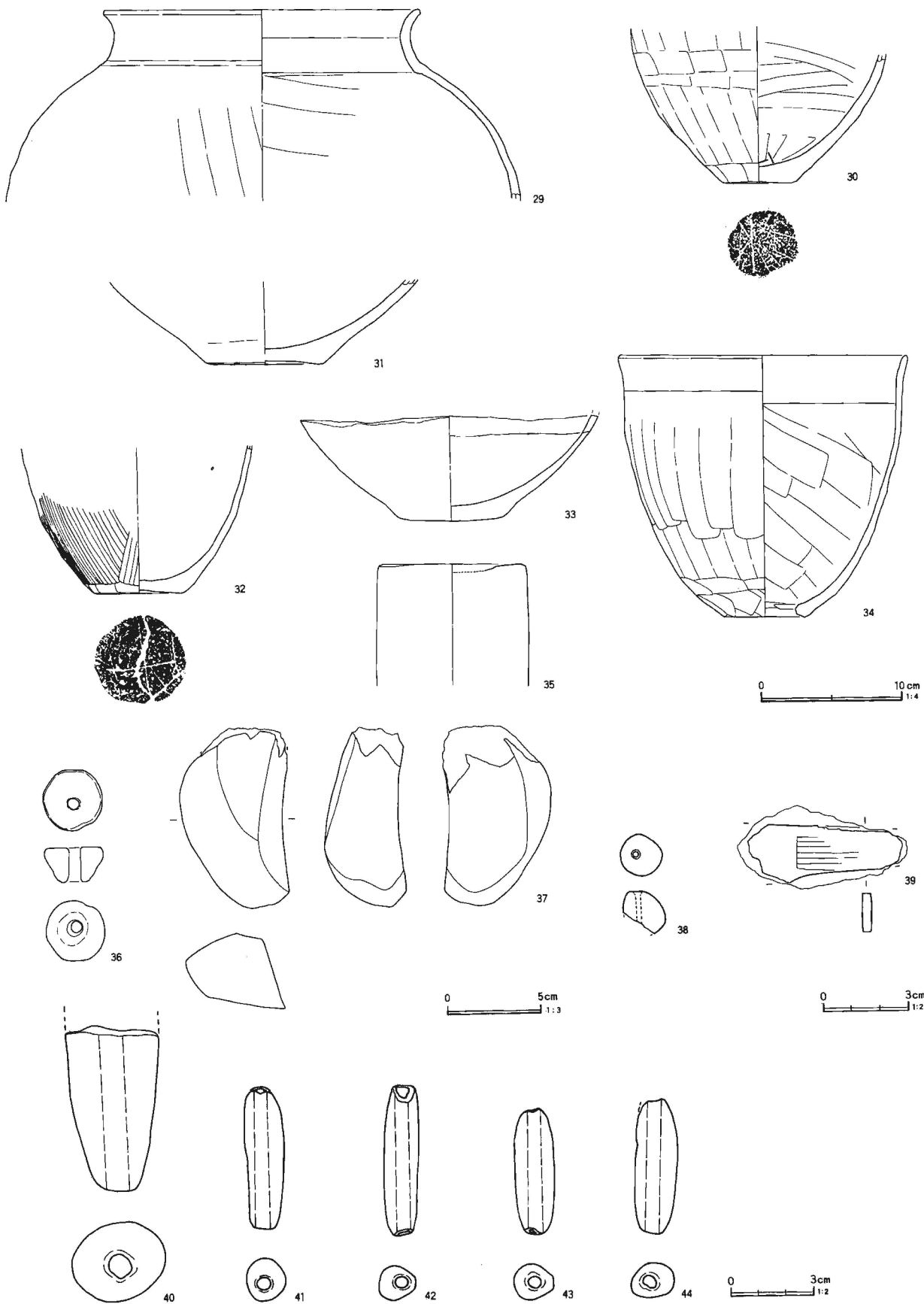
S J 3 7 4

- 1 褐色 (10YR4/4) 焼土ブロック 炭化粒子僅か
 2 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 炭化粒子多 焼土ブロック少
 灰白色シルトやや多
 3 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 地山ブロック多 下面に炭化物堆積
 4 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山ブロック極多 炭化粒子
 5 黒褐色 (10YR3/2) 地山ブロック僅か 焼土ブロック・炭化粒子多
 6 オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 再堆積地山
 7 褐色 (10YR4/4) 焼土粒子・炭化粒子僅か
 8 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 地山ブロック極多 炭化粒子僅か
 9 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 地山ブロックやや多 焼土粒子・炭化粒子少
 10 暗褐色 (7.5YR3/4) 焼土ブロック極多 炭化粒子少
- 11 褐色 (10YR4/4) 炭化粒子少
 12 褐色 (10YR4/4) 砂質シルト 黄白色砂粒僅か 焼土ブロック少
 13 褐色 (10YR4/4) 白色砂粒僅か 焼土ブロック 炭化粒子少
 14 にぶい黄褐色 (10YR3/4) 地山ブロック僅か 白色粘土少
 15 褐色シルト (10YR4/4) 地山ブロック僅か 焼土粒子・炭化粒子少
 16 褐色 (10YR4/4) 炭化粒子少
- カマド
 a 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック僅か
 b オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 焼土ブロック少
 c オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 灰・炭化粒子僅か 地山ブロック多

第234図 第374号住居跡(2)

第374号住居跡出土遺物観察表 (第232・235図)

番号	器 種	口径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	高台付埴			7.1	B	良好	灰白	20	覆土	東濃 K-90 ハケヌリ SJ370からの混入か
2	埴	(12.8)			ABC	普通	灰	15	覆土	末野産
3	埴	(10.4)			ABE	普通	橙	25	覆土	磨耗著しい
4	埴	(14.0)			ABE	良好	橙	35	覆土	やや磨耗 肉厚
5	埴	(10.9)			ABEF	良好	にぶい赤褐	20	覆土	
6	埴	(12.7)			ABE	普通	明赤褐	25	覆土	磨耗
7	埴	(15.5)			ABCD	普通	灰褐	15	覆土	内外面黒色処理 やや磨耗
8	埴	(12.9)	3.8		ABCDE	不良	灰黄褐	60	覆土	内外面黒色処理 磨耗著しい 歪みあり
9	埴	(13.8)			ABCDE	良好	にぶい褐	15	覆土	内外面黒色処理 磨耗
10	埴	(15.6)			ABCE	良好	にぶい黄褐	15	覆土	内外面黒色処理 やや磨耗
11	埴	(14.6)			ABCE	普通	にぶい褐	20	覆土	内外面黒色処理 やや磨耗
12	埴	(14.0)			ABCDE	普通	にぶい褐	30	覆土	磨耗
13	埴	(18.4)			ABCE	普通	明赤褐	20	覆土	やや磨耗 外面ミガキ不明瞭
14	埴	13.9	5.2		ABDE	不良	明赤褐	80	覆土	内面剥落著しい
15	埴	(17.0)			ABCE	普通	橙	40	覆土	外面赤彩 磨耗著しい
16	埴	(13.7)			AB	良好	にぶい褐	20	覆土	内外面黒色処理
17	埴	(13.6)			ABC	良好	にぶい褐	15	覆土	内外面黒色処理 やや磨耗
18	高台付埴			(13.0)	ABCE	普通	橙	60	覆土	磨耗著しい
19	手捏ね	(9.3)	4.1	(5.2)	ABC	良好	橙	25	覆土	磨耗
20	鉢	(15.7)			BCF	普通	明赤褐	25	覆土	磨耗著しい
21	甕	(18.3)			ABCF	不良	橙	20	覆土	歪みあり
22	甕	(19.6)			ABCF	普通	明赤褐	30	+ 4 cm	磨耗著しい
23	甕	(21.8)			BCF	普通	明赤褐	15	覆土	磨耗著しい
24	甕			6.7	ABCDHJ	普通	にぶい赤褐	80	覆土	
25	甕			5.8	ABCE	普通	にぶい赤褐	60	覆土	
26	甕			(5.8)	ABCJ	普通	橙	30	覆土	磨耗著しい
27	甕			8.5	AB	良好	橙	90	覆土	磨耗・剥落著しい 調整不明
28	甕	17.8	37.2	5.5	ABCJ	普通	にぶい黄褐	95	+ 8 cm	胴部ヘラナテ 底部木葉痕
29	甕	(22.0)			ABCDEF	普通	にぶい橙	15	貯蔵穴	磨耗著しい
30	甕			5.0	BDEF	普通	灰黄褐	50	床	やや磨耗 底部木葉痕



第235図 第374号住居跡出土遺物(2)

第374号住居跡出土遺物観察表 (第235図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
31	甕			8.2	ABCJ	普通	橙	60	覆土	磨耗著しい
32	甕			6.4	BCDJ	良好	にぶい黄橙	45	覆土	やや磨耗 底部木葉痕
33	甕			7.3	ABCJ	普通	にぶい赤褐	25	貯蔵穴	残存長8.7cm 転用鉢か 磨耗著しい
34	甕	(20.1)	18.7	5.7	BCJ	普通	にぶい橙	60	貯蔵穴	やや磨耗
35	支 脚	天井部径(10.4)cm			ABCDE	良好	橙	20	覆土	磨耗
36	土製紡錘車	長径3.1cm	短径1.6cm		BJ	普通	にぶい黄橙	100	覆土	孔径0.60cm 重さ14.64g やや歪む
37	砥 石	残存長9.4cm	幅5.6cm	厚さ4.3cm			重さ240.34g	80	覆土	砂岩製 上端欠損 三面使用
38	土 玉	直径1.5cm	高さ1.5cm		B	普通	灰黄褐	60	覆土	孔径0.2cm 厚さ1.8cm 重さ2.59g
39	刀 子	現存長5.50cm	幅1.45cm	背幅0.35cm			重さ27.56g	—	覆土	表面に木質残存

第374号住居跡出土土錘観察表 (第235図)

番号	長 さ	径	孔 径	重さ(g)	分 類	色 調	残 存	備 考
40	(5.80)	3.30	0.85	(48.60)	Ca	明褐	55	
41	5.00	1.50	0.50	10.05	Ca	にぶい橙	100	
42	5.30	1.30	0.45	7.90	Ba	明赤褐	100	
43	4.40	1.40	0.40	7.26	Ba	明赤褐	100	
44	4.80	1.55	0.50	(9.22)	Ba	明赤褐	95	

第375号住居跡 (第236・237図)

K・L—18グリッドに位置する。第376号住居跡を切り、第194・211・213・374号住居跡・第216号土坑に切られる。平面形はやや歪むが正方形に近いと思われる。東西7.42m、南北7.65m、深さは0.35～0.45mである。主軸方位は北壁でN—66°—Eを指す。

床面は緩やかな起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。

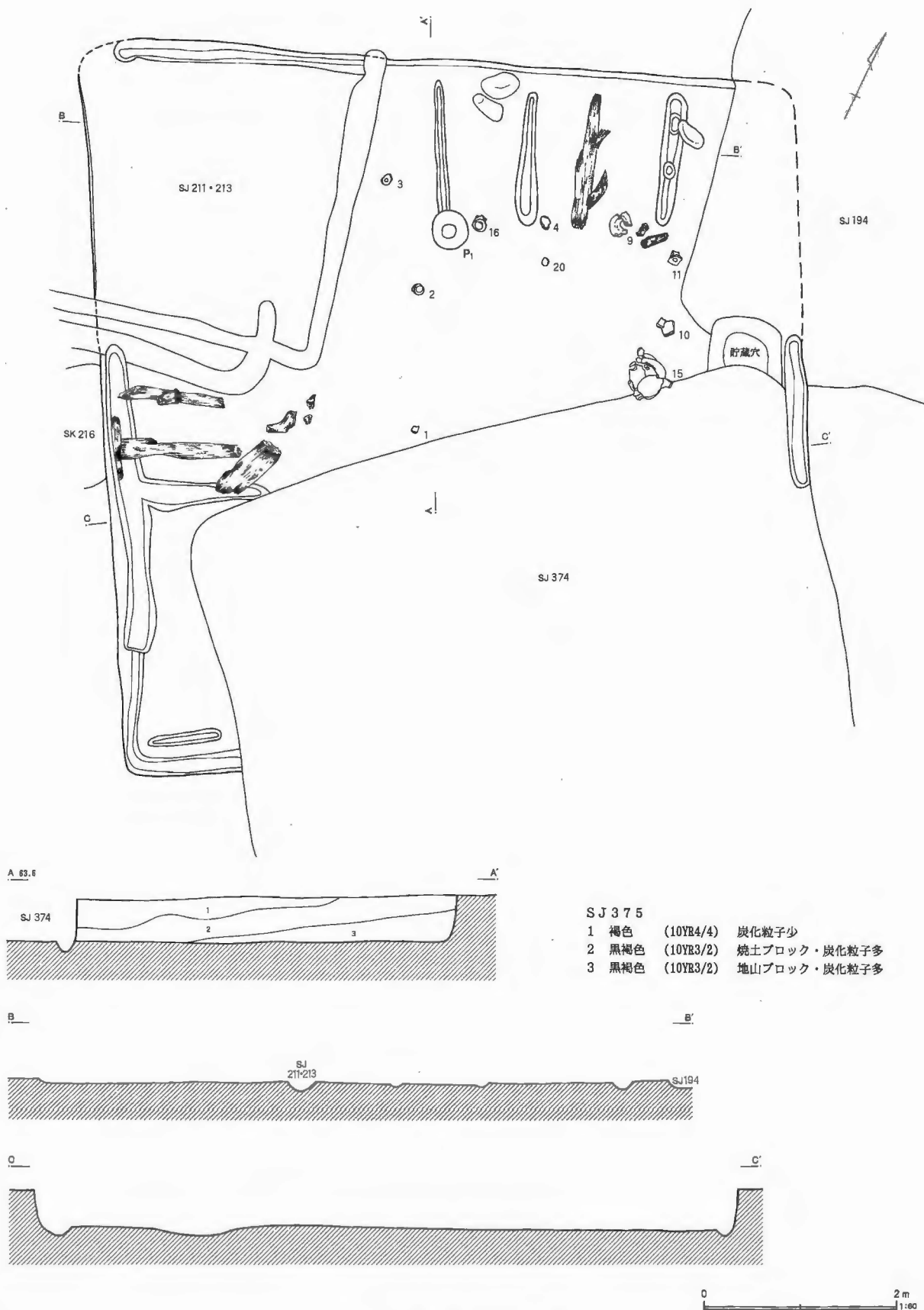
カマドは検出されなかった。貯蔵穴は東壁中央近くで検出されたが、南は第374号住居跡に壊されていた。東西75cm、南北は51cm検出され、深さは34cm

である。壁溝は断続的に検出され、幅15～31cm、深さ4～10cmである。北壁から3条、西壁から1条、住居の中央に向って間仕切り溝状の掘り込みが検出された。また、それに沿うように炭化材が床面から出土している。北壁近くの炭化材の周辺には焼土が多量に散布していた。ピットは1本検出され、深さは29cmである。

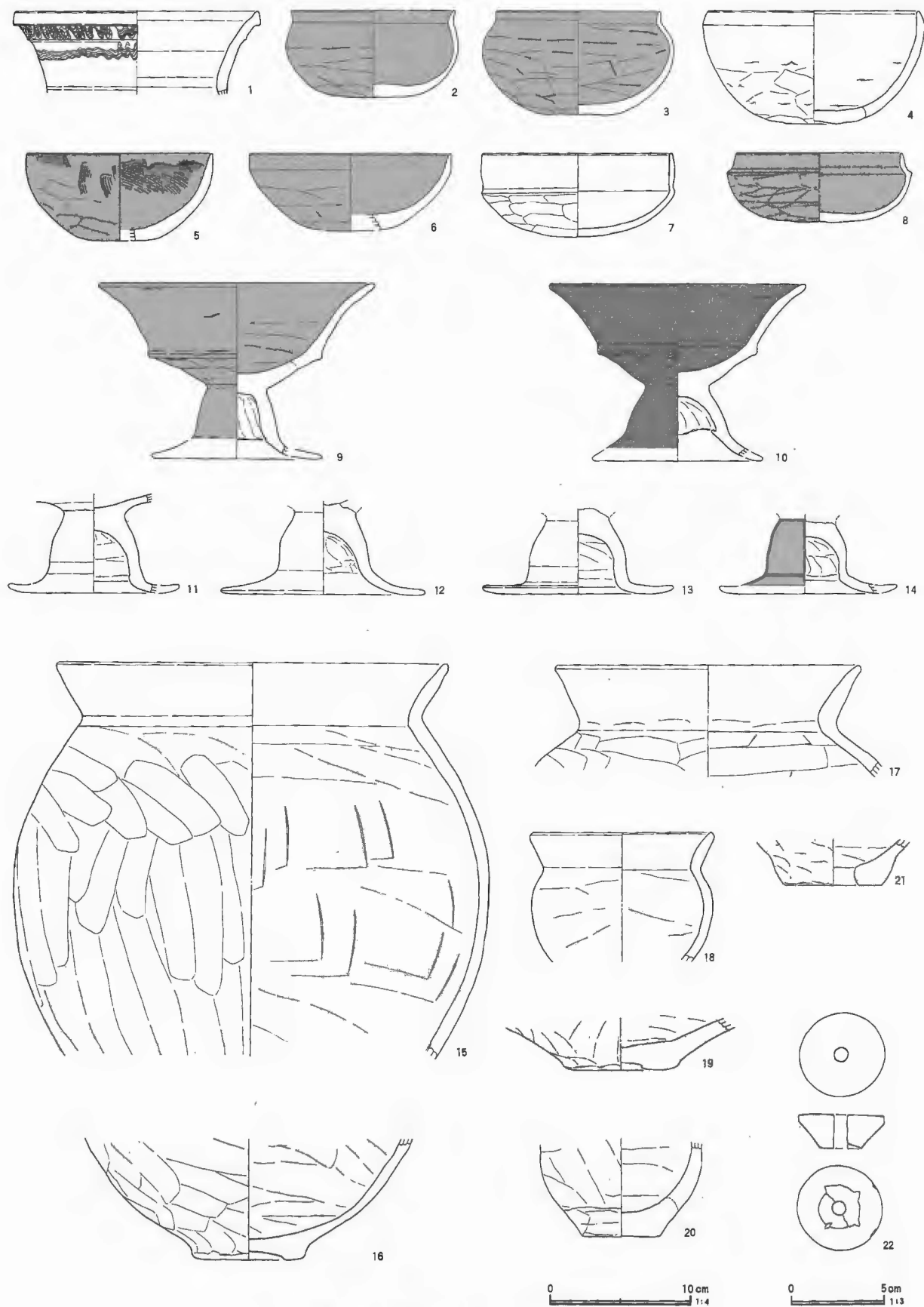
遺物は多量に出土したが、接合率は悪い。須恵器は坏・高坏・甕が、土師器には坏・高坏・甕・甗が認められる。

第375号住居跡出土遺物観察表 (第237図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色 調	残存	出土位置	備 考
1	甕	(17.0)			BEJL	普通	橙	15	+7cm	群馬・藤岡産 酸化焰焼成
2	埴	11.5	6.1		BCEJL	普通	にぶい赤褐	95	床	内外面赤彩 やや磨耗
3	埴	(11.4)	7.3		BCDEJL	普通	にぶい赤褐	60	+18cm	内外面赤彩
4	埴	(14.8)	7.9		BEJL	普通	明赤褐	45	床	外面やや磨耗
5	坏	(13.0)	6.1		BEJL	普通	橙	25	覆土	内外面赤彩 磨耗著しい
6	坏	(14.0)	5.3		BCJL	普通	にぶい橙	30	覆土	内外面赤彩 磨耗著しい
7	坏	13.3	5.8		BEJL	普通	橙	90	覆土	
8	坏	(11.6)	4.8		BEJL	普通	赤褐	30	覆土	内外面赤彩
9	高 坏	19.4			BEJL	普通	にぶい赤褐	80	+2cm	内外面赤彩 外面やや磨耗
10	高 坏	(18.0)			BCEJ	普通	にぶい赤褐	60	+15cm	内外面赤彩
11	高 坏				BEJ	普通	橙	80	+21cm	外面磨耗著しい
12	高 坏			14.4	BDEJL	不良	にぶい橙	75	覆土	
13	高 坏			(13.4)	BCEJL	普通	橙	60	覆土	外面やや磨耗
14	高 坏				BCEJL	普通	にぶい橙	70	覆土	外面赤彩 内外面やや磨耗
15	甕	(27.6)			BEJL	普通	にぶい橙	40	床	内外面やや磨耗
16	甕			8.0	ABCDEJ	普通	にぶい橙	60	+3cm	
17	甕	(21.0)			BCEJ	普通	にぶい橙	15	覆土	



第236図 第375号住居跡



第237図 第375号住居跡出土遺物